

# F D活動報告書

第9号 (2013年度)

関西大学大学院会計研究科  
(会計専門職大学院)



関西大学大学院会計研究科

教務・F D委員会

平成26年3月

# 目 次

はじめに	1
I 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法	
(1) 対象科目	2
(2) 実施方法	2
(3) 分析方法	2
(4) フィードバック方法	2
(5) 対象科目リスト	3
II 平成 25 年度授業評価アンケート結果概要	
(1) 平成 25 年度授業評価アンケート（春学期）結果概要	7
(2) 平成 25 年度授業評価アンケート（秋学期）結果概要	45
(3) 平成 25 年度授業評価アンケート（系平均）結果概要	93
III 25 年度授業評価アンケートフォーム	109
IV 講演会	113

## はじめに

FD(Faculty Development)活動は、教育の質を向上させるためになされるものであり、教員にとっては、必須の活動となっている。本研究科においても、会計研究科として「FD 委員会」および「系別 FD 委員会」を設置して、かかる活動を継続的に行っている。そして、この活動によって、教育の質を高め、教育効果を向上せしめるべく、不断の努力を行っているわけであるが、教育効果は、単に教員がよりよいと思う教育内容を、教員がよりよいと思う方法で提供するように策を講じるだけでは、改善されないと考えられる。すなわち、提供される教育への学生の反応を認識しつつ、教育内容やその方法を調整していくことで、より効果的な教育が提供できるようになると考えられる。そのため、本研究科では、設立当初より、学生による授業評価アンケートを実施してきており、この授業評価アンケートの結果は、FD 活動の大きな柱の一つとなっている。

本研究科の授業評価の特徴は、①学生自身による自己評価と学生による担当者の授業評価という一般的事項はもれなく含んでいること、②学生による授業評価の結果に対しては担当教員による分析と授業改善の試みを記述させること、③科目系列の取りまとめ役が、②による複数科目を比較可能な形で自己評価していること、④以上の結果を、教授会及び FD 委員会での議論の材料としていること、⑤そして授業評価の結果と分析等を本研究科のホームページにて公開していること、が挙げられる。

FD 活動報告書は、上記の学生による授業評価アンケートの結果とそれに対する教員の認識と今後の改善案を中心にして、本研究科が行った FD 活動をまとめたものである。FD 活動報告書第 1 号は、本研究科に在籍する学生が 1 年次生のみであったこと等の事情で平成 18 年度春学期に開催されたすべての 1 年次配当科目に対する授業評価を収録した。報告書第 2 号は、平成 18 年度秋学期科目と平成 19 年度春学期科目に対する授業評価を収録した。しかし、異なる年度の評価を同時に収録することの不便さを経験したため、報告書第 3 号では、平成 19 年度の秋学期科目のみ収録し、報告書第 4 号から当該年度の 1 年分の科目を収録することとした。これら 4 冊の報告書は自己点検評価報告書第 2 号（平成 21 年 3 月）とともに分野別認証評価に際して提供された。本研究科はこの認証評価ですべての基準を満たし、認定会計大学院の称号を得た。そして、今年度が 9 号の報告書となり、来年度の認証評価受診のための基礎資料のひとつとして提供される。

これまでの FD 活動の結果を受け、コース制の導入や導入科目群の設置などの教育体制・カリキュラムの見直しを行い、来年度より実施することとなった。すべての教職員が本研究科の設立の趣旨を確認し、必要な教育改善は絶え間なく行うこととしているが、この FD 活動報告書の作成を通じてあらためて問題を真摯に分析する機会としている。このような取り組みが、個人レベルで終わることなく、研究科全体の課題として対処された結果である。

今後も、FD 活動を継続して行い、FD 報告書として公表していくことによって、本研究科の教育が向上していくであろうと確信している。

平成 26 年 3 月

会計研究科長 富田 知嗣

## I. 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法

### (1) 対象科目

本報告書に掲載した授業評価アンケートは、平成 25 年度の春学期と秋学期に開講された会計研究科専任教員が担当するすべての授業科目を対象としている（次頁参照）。

### (2) 実施方法

本研究科では、授業評価アンケートを各講義の終了時に実施している。

通年開講の論文指導・修士論文を除き、すべての科目において、15 回の講義が実施される。最終講義日の前回である第 14 回目（論文指導・修士論文では 29 回目）の講義で、授業評価アンケートの質問状と回答用紙が授業担当者によって配布され、最終講義日の講義終了時に授業評価アンケートの回答用紙が授業担当者によって回収される。回収された回答用紙は、授業担当者によって事務に提出され、そこで集計される。授業評価アンケートは講義時間に影響を与えぬよう、また受講生の正直な回答を促すため、講義時間外に無記名で記入される。集計された結果は、今後の授業内容および方法の改善のための資料として、各授業担当者に配布される。

授業評価アンケートで使用された質問状は、後ページに掲載している。

### (3) 分析方法

専任教員が担当する授業科目及び系別平均については、原則として担当教員が分析している。

### (4) フィードバック方法

各担当者が前年度の授業評価アンケートとの比較を行い、授業改善が有効であったか否かを検証した。

(5)対象科目リスト(索引)

類別	授業科目	単位	配当年次	系統	開講学期	頁
基本科目群	中級商業簿記	1	1	財務会計	春	7
	中級工業簿記	1	1	管理会計	春	8
	会計専門職業倫理	1	2	横断科目	春・秋	9・45
	企業法	1	1	法律	春前・秋	10・46
	上級簿記	1	1	財務会計	春前・秋	11・47
	上級財務会計論	1	1	財務会計	春後・秋	12・48
	上級原価計算論	1	1	管理会計	春前・秋	13・49
	上級管理会計論	1	1	管理会計	春後・秋	14・50
	監査制度論	1	1	監査	春後・秋	15・51
	監査基準	1	1	監査	春・秋	16・52
理論科目	会計専門職業数学	2	1	横断科目	春	17
	会計基準論	2	1	財務会計	春	—
	会計制度論	2	1	財務会計	秋	53
	財表作成簿記	2	1	財務会計	秋	54
	戦略管理会計論	2	1	管理会計	秋	55
	上級税務会計論	2	1	税務会計	春	18
	租税法会計論	2	1	税務会計	秋	56
	公会計理論	2	1	行政	秋	57
	監査実施論	2	1	監査	秋	—
	監査報告論	2	1	監査	秋	58
	商法	2	1	法律	春	19
	会社法 ※2012以前は中級会社法	2	1	法律	秋	59
	民法(総則・物権)	2	1	法律	秋	—
	経営学理論	2	1	経営	春	—
	インベストメント論	2	1	ファイナンス	春	20
	コーポレート・ファイナンス論	2	1	ファイナンス	秋	60
	ミクロ経済学	2	1	経済・IT	秋	61
	統計学	2	2	経済・IT	秋	62
	国際会計基準論	2	2	財務会計	秋	63
	国際会計制度論	2	2	財務会計	春	—
	企業分析論	2	2	管理会計	春	21
	コストマネジメント論	2	2	管理会計	秋	64
	上級税務戦略論	2	2	税務会計	秋	—
	公監査論	2	2	行政	春	—
	政府・自治体会計論	2	2	行政	春	22
	国際監査制度論	2	2	監査	秋	—
	金融商品取引法	2	2	法律	春	—
	上級会社法	2	2	法律	春	23
	租税法理論	2	2	法律	秋	65
	民法(債権)	2	2	法律	春	—
経営戦略論	2	2	経営	春	—	
経営組織論	2	2	経営	春	—	
資本市場論	2	2	ファイナンス	春	24	
マクロ経済学	2	2	経済・IT	春	25	
会計事例研究	2	1	財務会計	春	26	
管理会計事例研究	2	1	管理会計	春	—	
監査事例研究	2	1	監査	秋	66	
基本会計プログラム演習	2	1	経済・IT	秋	67	
基本監査プログラム演習	2	1	経済・IT	秋	68	
BATIC演習	2	1	経済・IT	春	—	
IFRS実務	2	1	財務会計	秋	—	
会社経理実務	2	1	財務会計	春	27	
ディスクロージャー実務	2	2	財務会計	秋	69	
税務会計事例研究	2	2	税務会計	春	—	
企業法判例演習	2	2	法律	秋	—	
起業・株式公開事例研究	2	2	経営	春	—	
実践会計プログラム演習	2	2	経済・IT	秋	—	
実践監査プログラム演習	2	2	経済・IT	夏集	—	
実践科目	ソリューション・イン・アカデミック	2	1	個別演習科目	秋	70-72
	プロフェッショナル・ソリューションA	1	2	個別演習科目	春	28-35
	プロフェッショナル・ソリューションB	1	2	個別演習科目	秋	73-81
	論文指導・修士論文(基礎)	2	1	個別演習科目	不開講	—
	論文指導・修士論文	4	2	個別演習科目	通年	82-83

類別	授業科目	単位	配当年次	系統	開講学期	頁
横断科目	特殊講義(企業経営を取り巻く会計の課題と方向)	2	1	横断科目	春	—
	特殊講義(経営と会計)	2	1	横断科目	秋	84
	特殊講義(海外経営事例研究)	2	1	横断科目	秋	85
	特殊講義(証券7/11対協会客別講座・証券アナリストの基礎)	2	1	横断科目	春	—
	特殊講義(ERPと会計)	2	1	横断科目	春	36
	中小企業金融論	2	1	ファイナンス	秋	—
	会計検査制度論	2	1	監査	秋	—
	実践コミュニケーション	2	1	経済・IT	秋	—
	英文会計論	2	2	財務会計	不開講	—
	会計戦略論	2	2	財務会計	春	37
	資産会計論	2	2	財務会計	春	38
	負債・資本会計論	2	2	財務会計	秋	86
	企業結合会計	2	2	財務会計	不開講	—
	企業価値マネジメント論	2	2	管理会計	秋	—
	マネジメント・コントロール・システム論	2	2	管理会計	秋	—
	国際税務戦略論	2	2	税務会計	春	—
	非営利会計論	2	2	行政	春	39
	国際公会計制度論	2	2	行政	秋	87
	保証業務論	2	2	監査	春	40
	内部監査論	2	2	監査	春	—
	不正摘発監査論	2	2	監査	秋	—
	法人税法	2	2	法律	春	41
	行政法	2	2	行政	秋	—
	プロダクト・マネジメント論	2	2	経営	春	—
	国際経営論	2	2	経営	不開講	—
	リスク分析論	2	2	ファイナンス	春	—
	国際財務戦略論	2	2	ファイナンス	秋	88
	公共経済学	2	2	経済・IT	秋	89
	XBRL論	2	2	経済・IT	春	—
	国際会計事例研究	2	2	財務会計	秋	—
国際管理会計事例研究	2	2	管理会計	春	—	
国際税務会計事例研究	2	2	税務会計	秋	—	
公会計・公監査事例研究	2	2	行政	秋	—	
国際監査事例研究	2	2	監査	春	—	
企業再生事例研究	2	2	経営	秋	—	
リサーチ・メソドロジー	2	2	経済・IT	春	—	
国際コミュニケーション論	2	2	経済・IT	秋	—	
会計系科目	平均					93
	財務会計系					94
	管理会計系					95
	税務会計系					96
	監査系					97
非会計系科目	平均					98
	法律系					99
	経営系					100
	ファイナンス系					101
	行政系					102
	経済・IT系					103
	個別演習科目(ソリューション・イン・アカデミック)					104
個別演習科目(プロフェッショナル・ソリューションA)					105	
個別演習科目(プロフェッショナル・ソリューションB)					106	
個別演習科目(論文指導・修士論文)					107	
系別平均					108	

※掲載対象科目は、平成25年度開講の会計研究科専任教員担当科目とする。

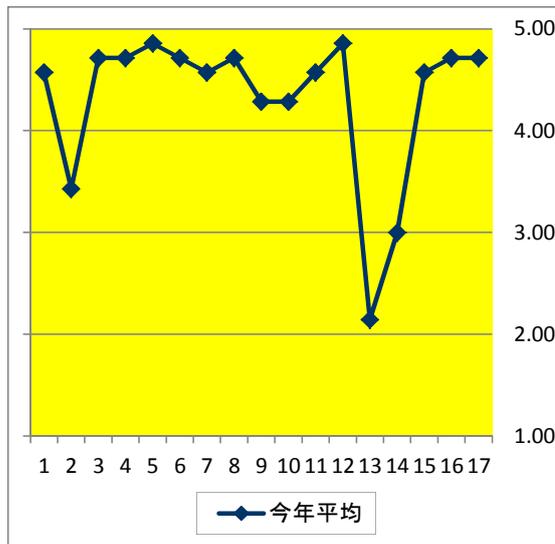


## Ⅱ-(1). 2013 年度授業評価アンケート(春学期)結果概要



科 目	中級商業簿記(A)		
配当年次	1	開講時限	春金5
受講者数	11	回答者数	7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.57	5	5	4
2	—	3.43	3	5	3
3	—	4.71	5	5	4
4	—	4.71	5	5	4
5	—	4.86	5	5	4
6	—	4.71	5	5	4
7	—	4.57	5	5	4
8	—	4.71	5	5	4
9	—	4.29	4・5	5	3
10	—	4.29	4・5	5	3
11	—	4.57	5	5	4
12	—	4.86	5	5	4
13	—	2.14	2	4	1
14	—	3.00	3	4	2
15	—	4.57	5	5	4
16	—	4.71	5	5	4
17	—	4.71	5	5	4
回答者数	—	7			



#### 受講生の傾向

今年度から開講された新設の科目である。この講義は、日商検定2級までの内容(商業簿記)について理解を深め、本研究科の基本科目「上級簿記」への橋渡しとするものである。そのため、受講生は、日商検定2級レベルの理解が不足しているか、またはその理解に自信のない学生であった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

仕訳の基本原理や簿記一巡の手続を明確に意識して、きちんと学習してもらうようにした。仕訳のレベルは、日商検定4級から2級までを幅広く取り上げた。取引を仕訳するだけでなく、それを元帳に転記して決算を行い、帳簿を締め切って財務諸表を作成するまでを、何度も繰り返してトレーニングした。講義は、説明よりも問題演習に重点をおき、一人ずつ個別に理解を確認して回った。

#### 今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

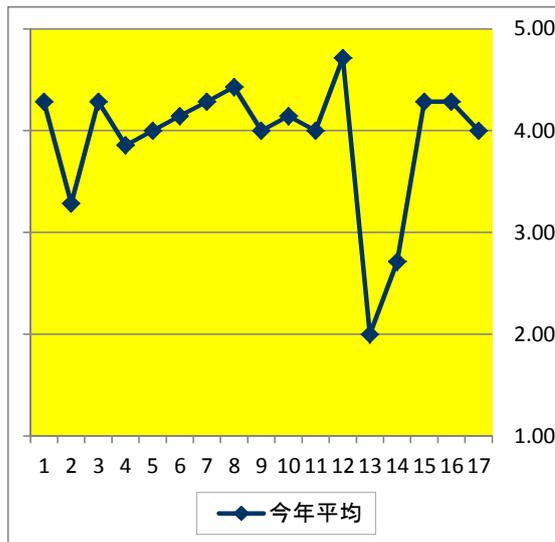
該当なし(今年度新設科目)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度の講義展開は、全体的に良い感触を得たようである。次年度も継続することにした。

科目	中級工業簿記(A)		
配当年次	1	開講時限	春月5
受講者数	12	回答者数	7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.29	4・5	5	3
2	—	3.29	3	5	3
3	—	4.29	4	5	4
4	—	3.86	4	5	2
5	—	4.00	4	5	2
6	—	4.14	4	5	3
7	—	4.29	4	5	4
8	—	4.43	4	5	4
9	—	4.00	4	5	2
10	—	4.14	4	5	3
11	—	4.00	4	5	3
12	—	4.71	5	5	4
13	—	2.00	1・3	3	1
14	—	2.71	3	4	1
15	—	4.29	4・5	5	3
16	—	4.29	4・5	5	3
17	—	4.00	4	5	2
回答者数	—	7			



#### 受講生の傾向

毎回の授業を休まずに、講義にも真剣に取り組む受講者が多いように見受けられた。ただし、受講者の入学前の学習水準は大きな差が見られた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

新設の科目であるため、昨年度のアンケートを踏まえた取組はない。  
テキストに沿って丁寧に講義を行うよう留意した。また、毎回の講義ごとにスライド資料および演習問題を作成して配布した。

#### 今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

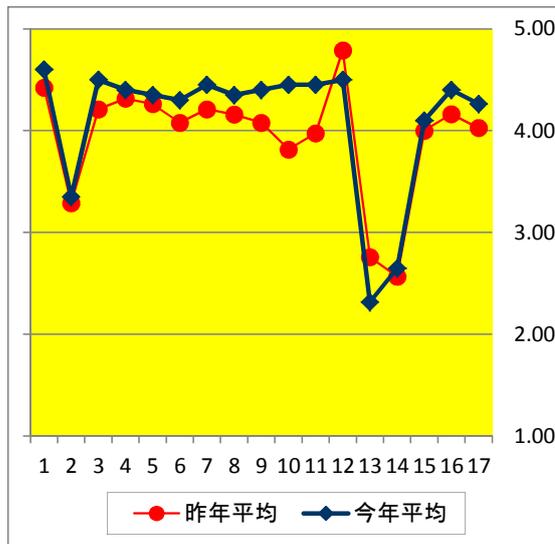
該当なし(今年度新設科目)

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

評点はいずれも比較的高かったため、継続して高い評価を得られるように留意する。  
また、受講者の予習および復習の時間が比較的小さいため、今後の意識付けが必要と考えられる。

科目	会計専門職業倫理(A)		
配当年次	2	開講時限	春水2
受講者数	21	回答者数	20

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.42	4.60	5	5	1
2	3.29	3.35	3	5	3
3	4.21	4.50	5	5	1
4	4.32	4.40	5	5	1
5	4.26	4.35	5	5	1
6	4.08	4.30	5	5	1
7	4.21	4.45	5	5	1
8	4.16	4.35	5	5	1
9	4.08	4.40	5	5	1
10	3.82	4.45	5	5	1
11	3.97	4.45	5	5	1
12	4.79	4.50	5	5	1
13	2.76	2.32	1	5	1
14	2.57	2.65	2	5	1
15	4.00	4.10	4・5	5	1
16	4.16	4.40	5	5	1
17	4.03	4.26	5	5	1
回答者数	38	20			



### 受講生の傾向

受講生20名とこれまでより格段に少人数のクラスとなった。しかし、留年生、留学生も含めグループワークに積極的に参加する意欲が強く、活発な議論が交わされる授業となった。アンケート結果からも授業内容が概ね満足のいくものであったものと思われる。

### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

1. 人数が減ったことからプレゼンテーションの回数が減ったため、講義を1回増やした。内容としては、最近刊行された会計倫理の書籍を元に、これまで不足していた部分(倫理的意思決定手法、公益通報法等)を補充した。また、企業内会計士に係る内容も増やした。
2. 毎回、「予復習の時間が少ない」との結果が出ていることから、プレゼンテーションの準備、レポート作成等に十分時間をかけられるように配慮した。具体的には準備に時間がかかるテーマを選択し(プレゼンテーション)、また、追加的な課題(レポート)を設定した。

### 今後の対応

#### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

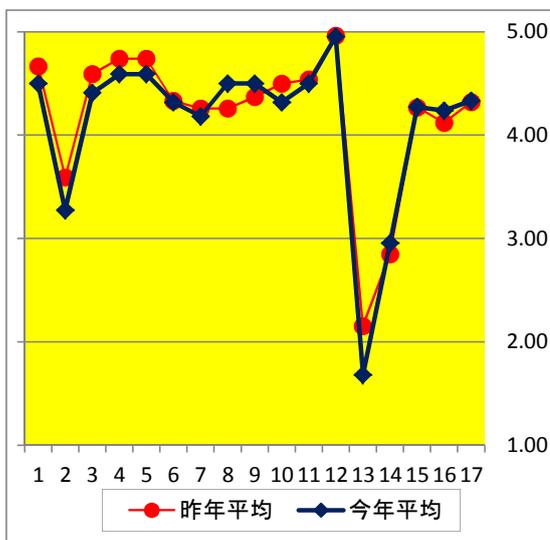
受講生が減ることが予想されるため、授業実施方法等を変更する必要があると考えられる。引き続き受講生との対話を重視しながら、授業内容に理論的な内容を増やし充実させていきたい。

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後は一層受講生が減ると予想される。講義内容の充実とともに、プレゼンテーション及びそれに関連するディスカッションを活性化する等工夫を凝らしていきたい。

科目	企業法(A1)		
配当年次	1	開講時限	春前火2・金3
受講者数	23	回答者数	22

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.50	5	5	2
2	3.59	3.27	3	5	3
3	4.59	4.41	4	5	3
4	4.74	4.59	5	5	4
5	4.74	4.59	5	5	4
6	4.33	4.32	4	5	3
7	4.26	4.18	4	5	3
8	4.26	4.50	5	5	3
9	4.37	4.50	5	5	3
10	4.50	4.32	5	5	3
11	4.54	4.50	4・5	5	4
12	4.96	4.95	5	5	4
13	2.15	1.68	1	4	1
14	2.85	2.95	4	5	1
15	4.27	4.27	4	5	3
16	4.12	4.24	5	5	3
17	4.32	4.33	4	5	3
回答者数	28	22			



#### 受講生の傾向

基本科目ということもあり、多くの学生が履修登録をし(一部の学生は秋学期履修)、かつそのほとんどがまじめに出席し、熱心に授業に取り組んでいた。

また、授業内容としても、法学未修者の存在を前提に、企業法の基礎を扱うものであり、難易度も高くは感じられなかったようであり、同じく、授業の速度も特には速く感じられることもなかったようである。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

企業法の学習においては、細かな知識を習得することに熱心な学生が見られるが、ここでは、まず企業法の根幹である基本的な考え方、さらには法学一般に共通するような考え方を身につけてもらうよう心がけた。

企業法に関する詳細にわたる規制内容等については、後続する「会社法」等の授業にゆだねることとした。また、「会社法」等の発展科目を履修しなくとも、基本的な起業法の考え方を理解できていれば、十分に独学にも耐えられると思われる。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

この科目は、企業法関係の発展・応用科目の基礎となる科目であり、また民法等の法律科目の基礎的な位置づけとなるので、よりいっそう企業法の基礎については法学の基礎を身につけられるよう徹底したい。

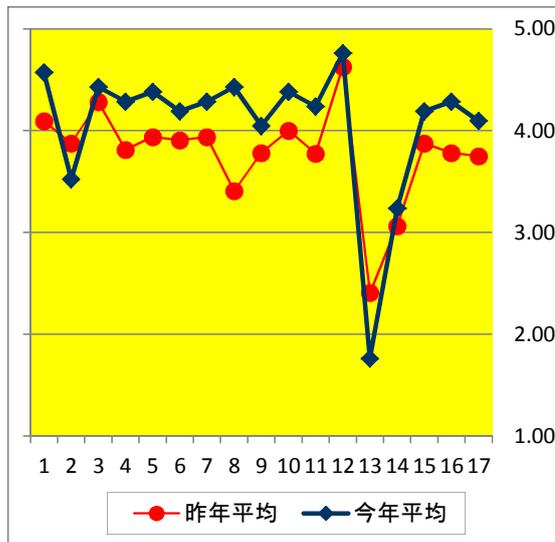
よって基礎以外の論点や応用といった部分は、他の科目で十分補えるので、ここではより丁寧な授業を行いすべての学生が基礎力を身につけられるよう工夫したい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

多くの学生に見られることだが、企業法に関する個々の制度については理解できているが、全体として把握できていないように思われる。学生が企業法全体を通して、体系的に理解できるように心がけたい。

科目	上級簿記(A1)		
配当年次	1	開講時限	春前月2・木3
受講者数	26	回答者数	22

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.09	4.57	5	5	4
2	3.88	3.52	3・4	5	1
3	4.28	4.43	4・5	5	3
4	3.81	4.29	4・5	5	3
5	3.94	4.38	5	5	3
6	3.91	4.19	4	5	3
7	3.94	4.29	4	5	3
8	3.41	4.43	5	5	3
9	3.78	4.05	4	5	3
10	4.00	4.38	4・5	5	2
11	3.77	4.24	4	5	2
12	4.63	4.76	5	5	4
13	2.41	1.76	1	4	1
14	3.06	3.24	3	5	1
15	3.88	4.19	4	5	2
16	3.78	4.29	5	5	3
17	3.75	4.10	4	5	1
回答者数	32	22			



#### 受講生の傾向

講義中は集中している様子で、問題演習の時間や講義後に質問して意欲的に学ぼうとする受講生もいた。一方で、日商検定2級の習熟度に問題がある受講生も少なくなく、財務諸表を作成することができないケースも散見された。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義中の説明は、テクニカルな解法ではなく、原理・原則に従って思考的に解くことを意識してもらうようにしたが、計算問題としての解き方を中心に勉強してきた受講生にとっては、違和感のある講義展開であったかもしれない。とくに今年度は、講義説明と問題演習の時間配分を工夫して、より基本的な事項を優先的に理解してもらうようにした。基本中の基本となる問題を講義中に配布して解いてもらい、一人ずつ個別に理解を確認して回った。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

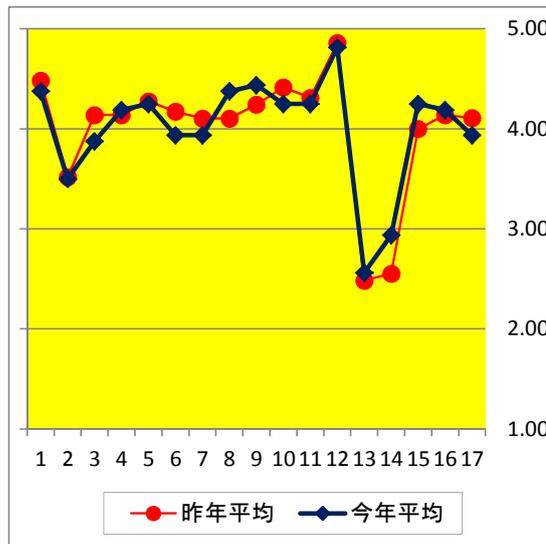
会計基準等の原文を参照して勉強するように指導する。取引の仕訳から財務諸表の作成までを一連の手続として捉えて学習するように指導する。講義中の説明と問題演習の時間配分について、受講生の理解が高まるように工夫する。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度の講義展開は、全体的に良い感触を得たようである。次年度も継続することにしたい。

科目	上級財務会計論(A1)		
配当年次	1	開講時限	春後月3・木2
受講者数	17	回答者数	16

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.48	4.38	4	5	4
2	3.52	3.50	3	5	3
3	4.14	3.88	4	5	3
4	4.14	4.19	4	5	3
5	4.28	4.25	4	5	3
6	4.17	3.94	4	5	3
7	4.10	3.94	4	5	3
8	4.10	4.38	4	5	4
9	4.24	4.44	4	5	4
10	4.41	4.25	4	5	4
11	4.31	4.25	4	5	3
12	4.86	4.81	5	5	3
13	2.48	2.56	2	5	1
14	2.55	2.94	2・3	5	2
15	4.00	4.25	4	5	3
16	4.14	4.19	4	5	3
17	4.11	3.94	4	5	2
回答者数	29	16			



#### 受講生の傾向

出席率は高めで、ほとんど欠席する学生はいなかった。しかし、十分に予習・復習を行う学生と、ほとんどそれを行っていないのではないかとと思われる学生に分かれる感じがした。また、口頭説明だけでは、不十分なことがあり、それだけ資料準備の必要性を感じる。逆から見ると、それだけ、話を正確に聞いていない場合が少なからずあったということになる。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

学生の予習・復習を促進するため、小テストに、予習問題と復習問題との両方を含め、また、配布レジュメに次回の講義範囲を明確にし、口頭で読んでおくべき箇所を指示した。また、小テストの結果について、作問意図や間違いの多かった部分の説明を追加し、学生の反応によっては、時間を捻出し、再度説明を実施した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

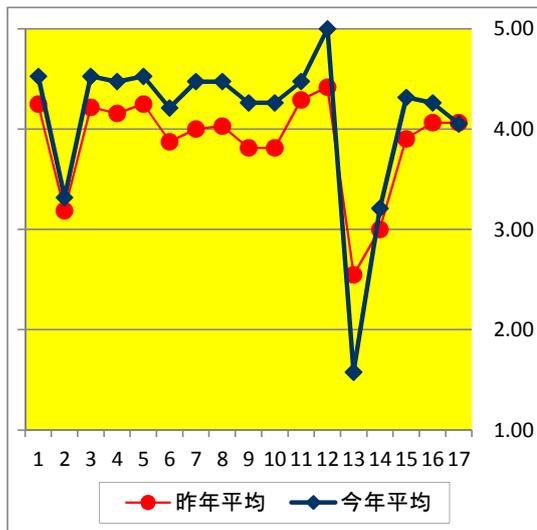
予習・復習に適した課題を検討するつもりである。また、講義進度について、今年度の方が丁寧に取扱ったつもりであったが、むしろ「早い」と感じる学生も多くなっており、予習を促し、「早さ」を感じないような策を講じる必要がある。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

質問No.6「教科書や配付資料の利用」について、質問No.7「ホワイトボード、パソコンの利用」について、昨年度よりポイントが下がっており、講義中のツール使用については、昨年度と同様の方法であるが、秋学期講義での学生の反応を見た上で、さらなる工夫を講じる必要があるかもしれない。

科目	上級原価計算論(A1)		
配当年次	1	開講時限	春前月3・木2
受講者数	20	回答者数	19

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.25	4.53	5	5	3
2	3.19	3.32	3	5	3
3	4.22	4.53	5	5	3
4	4.16	4.47	5	5	2
5	4.25	4.53	5	5	3
6	3.88	4.21	4	5	3
7	4.00	4.47	5	5	3
8	4.03	4.47	4	5	4
9	3.81	4.26	4	5	2
10	3.81	4.26	4	5	2
11	4.29	4.47	5	5	3
12	4.42	5.00	5	5	5
13	2.55	1.58	1	3	1
14	3.00	3.21	3	5	1
15	3.90	4.32	4	5	2
16	4.06	4.26	4・5	5	3
17	4.06	4.05	4	5	2
回答者数	32	19			



#### 受講生の傾向

昨年度と比較して、学生間の習熟度の差は少ないように感じられた。また、公認会計士の受験を志望する学生や、熱心に原価計算の構造について学習する生徒が見られるなど、全般に学習意欲は高かったようである。そのため、上級部分の説明についても理解しようと試みる学生が多く見られた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

上述の受講生の動向を考慮して、要点を明確に述べた上で詳細部分について説明するというかたちで授業を進めていった。また、一通りの計算演習が終わった後で、これらの論点が複合的に関連し合うとどのようになるのかについても説明した。こうした説明は、原価計算を単純に独立した計算ツールの集合体として理解するのではなく、企業が利用するデータを目的に応じてどのように作り出しているのかを理解するために実施した工夫である。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

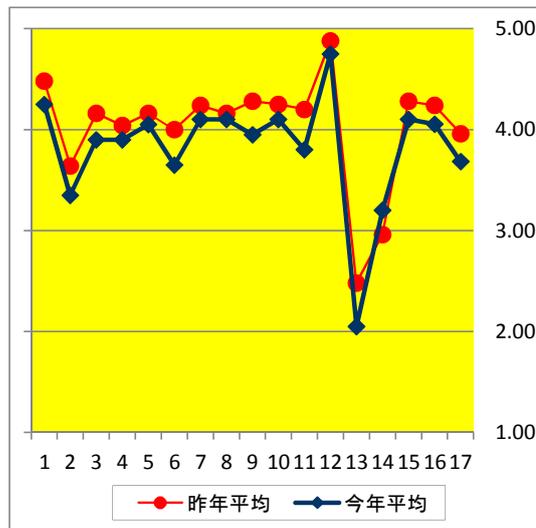
上級部分の論点の説明に多くの時間が使われたことが反省点として挙げられる。今後、試行錯誤ではあるが、それぞれの学生に興味を持ってもらえるように今年度の取り組みを継続し、時間配分などについて改善していきたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年の反省点を踏まえ、学生のニーズに合わせるような形で工夫を行った。その効果は結果に表れていると考えられる。今後もこうした工夫を継続していきたい。

科目	上級管理会計論(A1)		
配当年次	1	開講時限	春後月2・木3
受講者数	21	回答者数	20

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.48	4.25	4	5	4
2	3.64	3.35	3	4	3
3	4.16	3.90	4	5	3
4	4.04	3.90	4	5	2
5	4.16	4.05	4	5	3
6	4.00	3.65	4	5	2
7	4.24	4.10	4	5	3
8	4.16	4.10	4	5	3
9	4.28	3.95	4	5	3
10	4.25	4.10	4	5	3
11	4.20	3.80	4	5	2
12	4.88	4.75	5	5	1
13	2.48	2.05	2	5	1
14	2.96	3.20	3	5	1
15	4.28	4.10	4	5	2
16	4.24	4.05	4	5	3
17	3.96	3.68	4	5	2
回答者数	25	20			



#### 受講生の傾向

本年度から導入科目を新設したことから、昨年度と比較して受講者間の知識水準の差は減少したと考えられる。全体としてはまじめに授業に出席する受講者が多かったと考えられるが、出席率の低い受講者も見受けられた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の評価が改善傾向であったため、本年度は授業の基本的な構成は変更せずに、細かな点で丁寧に教えるように努めた。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

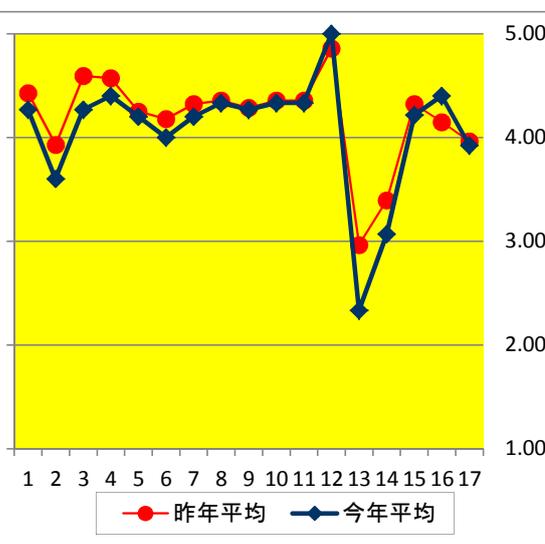
昨年度と比べて、一般的に数値が改善していることから、今後とも現状の方向性に沿って改善を行う予定である。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年の評価結果と比べて、ほとんどの項目で評価がやや低下しているため、授業内容を改善する必要があると考えている。特に、進度(質問No.2)については昨年よりも適正水準に近づいていることから、受講者層が変化している可能性にも留意する。

科目	監査制度論(A1)		
配当年次	1	開講時限	春後火2・金3
受講者数	19	回答者数	15

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.43	4.27	4	5	4
2	3.93	3.60	3・4	5	3
3	4.59	4.27	4	5	4
4	4.57	4.40	4	5	4
5	4.25	4.20	4	5	3
6	4.18	4.00	4	5	2
7	4.32	4.20	4	5	2
8	4.36	4.33	4	5	4
9	4.29	4.27	4	5	3
10	4.36	4.33	4	5	3
11	4.36	4.33	4	5	3
12	4.86	5.00	5	5	5
13	2.96	2.33	1・3	5	1
14	3.39	3.07	2	5	2
15	4.32	4.21	4	5	3
16	4.15	4.40	4・5	5	3
17	3.96	3.92	4	5	3
回答者数	28	15			



#### 受講生の傾向

基本科目(必修科目)群に属するという関係上、受講生の出席率(質問No.12)は100%となっており、極めて高い出席率であり勉学に対する意欲が相対的に高まっているようにも解される。

しかし上記アンケート結果より、授業に対する予習時間(質問No.13)は昨年度より減少しており、復習時間も減少している(質問No.14)。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本年度は監査基準改訂があったため、当該資料を全員に配布し、改訂箇所について追加的なパワーポイントによるスライドを用意し、監査制度に関する重要論点を確実に講義の中で押さえるようにした。スライドの最後には、従来通り受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するための参考文献を列挙した。またこれら配布用の資料は、関西大学インフォメーション・システムに授業当日中にアップロードし、WEB配信を前提とした学生の復習に役立つように配慮した。

授業が2回終了するごとに、前2回分の理解度を確認するとともに、復習を動機付けるために小テストを授業時間の最初15分程度で実施し、添削後、返却した。また優秀答案を指名を伏せた上で全員に配布し解説を加えた。最終的に、小テスト実施→添削→返却(講評)を繰り返すことで、各自にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるように、去年以上に心懸けた。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

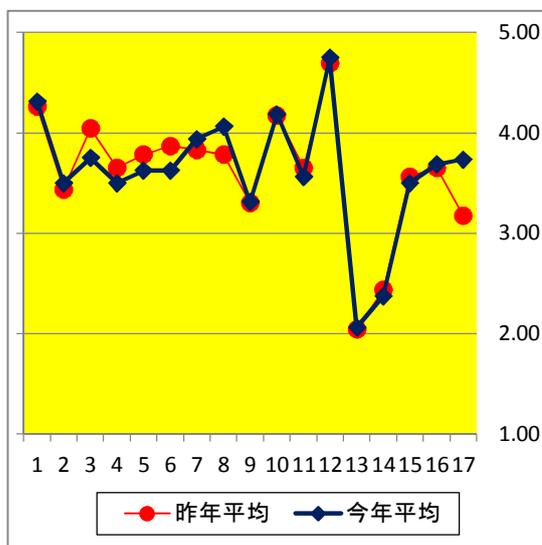
自ら進んで講義資料の最後に記載した「課題」を作成して持参、或いは質問してくる学生が激減していることから、小テストと課題の直接的な連携を採る方策が必要と考える。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

小テストと復習との連携をより強く動機付けるため、講義終了時に必ず復習すべき課題を明示的かつ具体的に示す必要がある。

科目	監査基準(A)		
配当年次	1	開講時限	春水2
受講者数	19	回答者数	16

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.26	4.31	4	5	3
2	3.43	3.50	3・4	4	3
3	4.04	3.75	4	5	1
4	3.65	3.50	4	5	1
5	3.78	3.63	4	5	2
6	3.87	3.63	4	5	1
7	3.83	3.94	4	5	2
8	3.78	4.06	4	5	3
9	3.30	3.31	3	5	1
10	4.17	4.19	4	5	3
11	3.65	3.56	4	5	2
12	4.70	4.75	5	5	3
13	2.04	2.06	1	4	1
14	2.43	2.38	3	4	1
15	3.57	3.50	3・4	5	2
16	3.65	3.69	5	5	2
17	3.17	3.73	4	5	1
回答者数	23	16			



#### 受講生の傾向

テストを実施した結果をみると、よく理解できている学生とそうでない学生との開きが大きいと感じられた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業のたびに出席票と合わせて「今日の授業で理解できたこと」「今日の授業で理解できなかったこと」を記載してもらい、受講生の理解度を確認するように努めた。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

講義にあたっては、ポイントを整理して、理解すべき事項を体系的に示すことに重点を置きたい。受講生の理解度を把握しながら講義をすすめられるような工夫をしたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

予習・復習の時間が少ないように思うので、予習・復習時間を適切にとり、試験までに十分に自分の知識を整理した上でアウトプットができるように指導する。

科目	会計専門職業数学		
配当年次	1	開講時限	春土2
受講者数	21	回答者数	15

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.70	4.47	4	5	4
2	3.10	3.07	3	4	3
3	4.50	4.33	4	5	4
4	4.60	4.40	4	5	4
5	4.70	4.47	4	5	4
6	4.60	4.07	4	5	3
7	4.40	4.33	4	5	3
8	4.60	4.33	4	5	3
9	4.50	4.33	4	5	3
10	4.50	4.53	5	5	4
11	4.70	4.53	5	5	4
12	4.80	4.87	5	5	4
13	1.80	1.64	1	3	1
14	2.20	2.27	3	4	1
15	4.50	4.20	5	5	3
16	4.50	4.40	4	5	4
17	4.70	4.53	5	5	4
回答者数	10	15			



#### 受講生の傾向

今年度の受講生は、最初の頃の授業からこれまでの受講生と比べて、基礎学力が不足しているように感じた。それで、前半の授業は基礎を繰り返し講義し、さらに応用力をつけるために小テストと練習問題を行った。その結果、授業の後半ではかなりの学力がついたと考えられるようになった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、できるだけわかり易い簡単な数式を用いて、授業、練習問題を繰り返し行ったので、上述のように、最初は基礎学力が不足していると感じた受講生は、後半になっていつもの年の受講生の学生と同じような学力のレベルに到達したと考えている。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

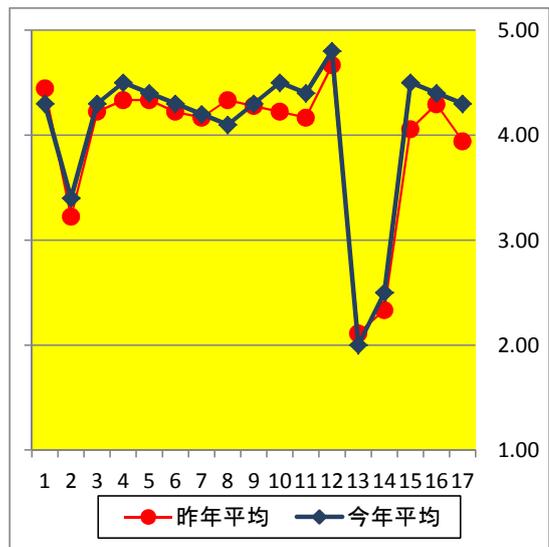
昨年度の「今後の対応」では、複雑な数式をできるだけ省略して、わかり易い簡単な数式を用いると述べていたので、今年度は経営学、経済学、会計学などで用いる例題をできるだけそのような簡単な数式を用いてわかり易く繰り返して講義した。その結果、受講生の理解度が上昇したと考えている。それで、今後の対応としては、その方向を一層進展させたいと考えている。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度に行ったように、授業では複雑な数式を省き、わかり易い簡単な数式を用いた授業を今年度も行ったので、最初基礎学力が不足していると感じた受講生も、後半にはかなり学力がレベルアップした。したがって、今後もその方針を維持して行きたいと考えている。

科目	上級税務会計論		
配当年次	1	開講時限	春木4
受講者数	11	回答者数	10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.44	4.30	4	5	4
2	3.22	3.40	3	5	3
3	4.22	4.30	4	5	4
4	4.33	4.50	4・5	5	4
5	4.33	4.40	4	5	4
6	4.22	4.30	4	5	4
7	4.17	4.20	4	5	3
8	4.33	4.10	4	5	3
9	4.28	4.30	4	5	3
10	4.22	4.50	4・5	5	4
11	4.17	4.40	4	5	4
12	4.67	4.80	5	5	4
13	2.11	2.00	2	3	1
14	2.33	2.50	3	3	1
15	4.06	4.50	4・5	5	4
16	4.29	4.40	5	5	3
17	3.94	4.30	4	5	3
回答者数	18	10			



#### 受講生の傾向

受講生が税務会計に充てる学習時間は、昨年度と同様、予習(質問No.13)、復習(質問No.14)のいずれも30分程度である傾向に変化はない。しかし、今年度の講義内容は、学習範囲を法人税法会計全般に拡大した。その意味からすると、受講生の学習時間に前年度と変化がないことには問題がある。受講生の学習態度はきわめて真面目であったが、法人税法会計の理解のためにはより多くの学習時間を充てる必要があったと考える。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度の講義内容は、昨年度と異なり、法人税法会計全般を対象とした。対象範囲の拡大に対応すべく、講義では公認会計士試験において重要度の高い項目を優先的に取り扱って、計算過程をレジュメに落とし込み、板書にかかっていた時間を節約するように努めた。また、学習インセンティブ向上のため、今年度も中間試験を実施した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

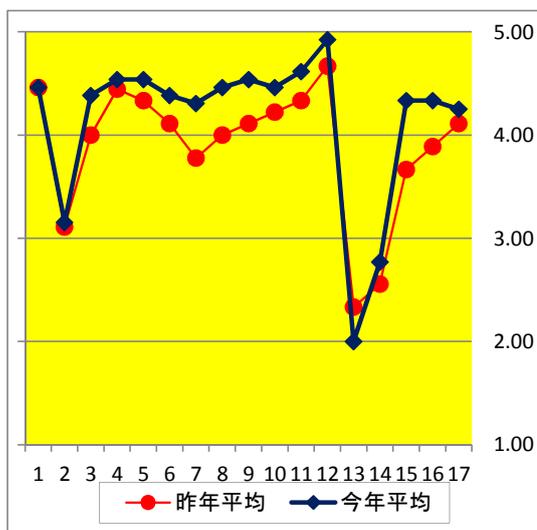
税務会計の学習範囲として、この2年間、法人税法と消費税法のみを取り扱ってきたが、直近の公認会計士試験をみると、所得税法における一定レベルの問題が課されるようになってきている。そこで、秋開講の「租税法会計論」と関係させて、これら三法をまんべんなく学習できるように、学習範囲及び科目間の分担範囲の見直しを行いたい。自宅学習時間の増加対策については、今年度実施した中間試験を複数回実施し、さらに成績評価に占める中間試験のウェイトを変更して、学生への学習インセンティブを上昇させたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

公認会計士試験における税務会計の現状を鑑みると、今年度と同様、法人税法を「上級税務会計論」で、所得税法と消費税法を「租税法会計論」で取り扱うことが望ましいと考える。そうすると、「上級税務会計論」で学習する項目は非常に多くなるから、講義時間をいかに有効利用できるかが課題となる。そこで、今後の対応としては、計算に係る板書の時間を圧縮すべく、計算に関する部分をさらにレジュメへ落とし込む必要がある。また、中間試験の有効性は今年度も実感できているから、学習インセンティブ向上のため、複数回の実施を検討したい。

科目	商法		
配当年次	1	開講時限	春金2
受講者数	14	回答者数	13

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.46	4.46	5	5	3
2	3.11	3.15	3	5	3
3	4.00	4.38	4	5	4
4	4.44	4.54	5	5	4
5	4.33	4.54	5	5	4
6	4.11	4.38	4	5	4
7	3.78	4.31	4	5	3
8	4.00	4.46	4	5	4
9	4.11	4.54	5	5	4
10	4.22	4.46	4	5	4
11	4.33	4.62	5	5	4
12	4.67	4.92	5	5	4
13	2.33	2.00	2	3	1
14	2.56	2.77	3	4	2
15	3.67	4.33	4	5	3
16	3.89	4.33	4	5	3
17	4.11	4.25	4	5	3
回答者数	9	13			



#### 受講生の傾向

今年度の受講者数は、14人と昨年よりは若干増加したが、少ないことには変わりはない。ただ、受講している学生は、熱心に参加受講していた。

なお、商法は、会社法とは異なり、公認会計士試験では短答式でのみ出題される分野であるが、公認会計士試験を受験する学生にとっては必ず学習しなければならない科目であり、かつ受講することで独学よりも理解度は高いと思われる。公認会計士受験者が減少していることもあるかもしれないが、なるべく多くの学生に受講してもらいたい。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

ほとんどの学生がこれまでに学習したことのない分野であるので、なるべく具体的にイメージしやすいように、基礎から学習することを心がけた。特に、商法は民法の特別法であることから、民法に関する基礎知識も身につけてもらうようにした。

また、基本的なところのみならず、具体的に理解してもらうという意味でも、商法に関する重要判例についても、適宜組み込んで授業を行った。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

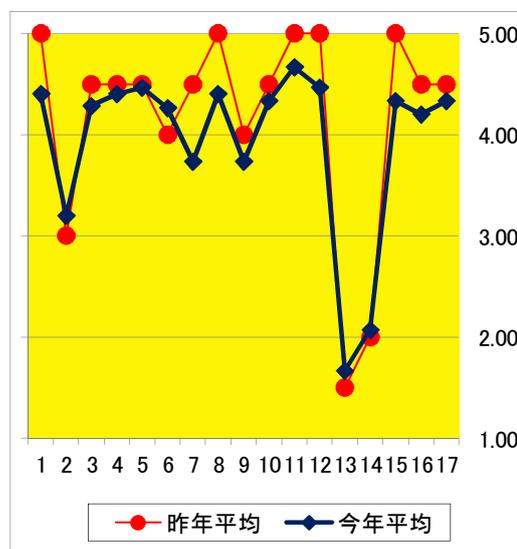
今後も今年度と同様に学生が全範囲を網羅的に理解できるように心がけると同時に、時間的な制約はあるがより踏み込んだ議論にも言及していきたいと思う。むしろ後者のほうが学生にとっても興味深いと思われる。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

商法という範囲が広く、なおかつ民法の基礎知識を要する科目においては、単に浅く広く網羅的に授業をするということよりも、全体を学習しながらより深い理論も扱い、商法を根本的に理解してもらえるよう心がけたい。

科目	インベストメント論		
配当年次	1	開講時限	春水3
受講者数	17	回答者数	15

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.40	4	5	4
2	3.00	3.20	3	5	3
3	4.50	4.29	4	5	3
4	4.50	4.40	4	5	4
5	4.50	4.47	5	5	3
6	4.00	4.27	4	5	3
7	4.50	3.73	4	5	3
8	5.00	4.40	5	5	3
9	4.00	3.73	3	5	2
10	4.50	4.33	4	5	3
11	5.00	4.67	5	5	3
12	5.00	4.47	5	5	1
13	1.50	1.67	1	4	1
14	2.00	2.07	2	4	1
15	5.00	4.33	4	5	3
16	4.50	4.20	4	5	3
17	4.50	4.33	4	5	4
回答者数	2	15			



### 受講生の傾向

昨年度と比べて、受講生が増えた。アンケート結果は昨年度とさほど変わっていないが、特徴的な変化もある。第1に、昨年度は平均が5.0だった項目が今年度は4.5前後に下がっているが、これはアンケート回答者数が増えたことによる効果だと思われる。第2に、講義全体の満足度は依然として高いが、やや下がっている。これも、受講生が増えたことが主因だと思われる。第3に、ホワイトボードなどの使用についての評価が下がったことが目立つ。これは、配付資料を中心に講義し、ホワイトボードなどをあまり使わなかったために、「評価できない(どちらともいえない)」と回答する受講生が多かったと思われる。教員の感想を述べれば、昨年度に比べて、自分で考えて議論に加わる意欲が低下していた。これも、昨年度は少ない受講生のなかでやる気のある受講生が毎回出席し、やる気のない受講生でも出席したら発言しないといけない雰囲気があったためだと思われる。

### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

全体に高い評価をもらったので、講義の構成をあまり変更しないようにした(昨年度が私が担当する初年度であったため、授業評価アンケートを読むまでは、大幅に構成を変更するつもりだった)。ただし、昨年度は、各回の講義で少しずつ、インベストメント論に関連する時事的な話題(ユーロ圏の債務危機など)を少し取り上げたところ、複数の受講生から時事的な題材のリクエストがあり、活発な議論もできたので、今年度は、時事的な題材を取り上げたうえで解説後に議論させる機会を、講義計画に組み込むかたちで増やした。

### 今後の対応

#### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

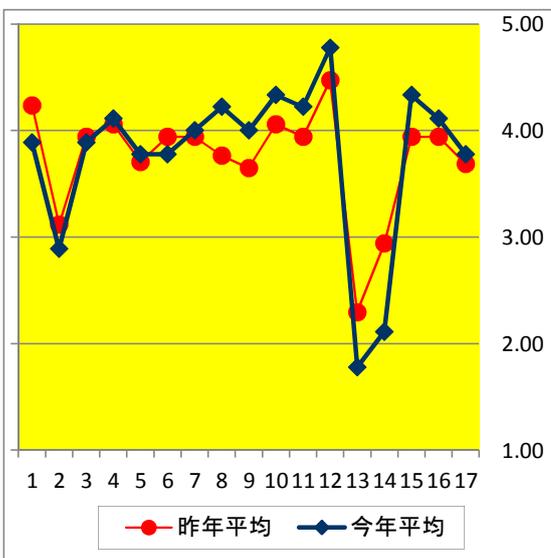
今年度から本学で教え始めたこともあり、講義終了直後は、来年度は内容構成なども大幅に変更するつもりでいた。構成を一新して、時事的な内容を増やすといったことを考えていたのだが、時事的な内容を増やすことは行うものの、今年度の構成で受講生の満足度が十分なものだったことを踏まえて、内容構成の修正は小幅なものにしたい。

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生が10名を超えたときでも、受講生に積極的な質問や議論をさせる方法を工夫することが必要だと痛感した。とはいえ、今年度も、受講生から題材のリクエストをもらって解説したうえで議論をさせたのに、低調な議論しかできなかった。次年度は、受講生のモチベーションを高めることにもっと配慮するようにしたい。講義計画については、議論が低調なままなら、時事的な題材での議論の回数を減らすべきかもしれないが、この点はできるだけ変更せずに、積極的な議論を引き出せるように、受講生とのコミュニケーションに留意する方向での改善を目指したい。

科目	企業分析論		
配当年次	2	開講時限	春木2
受講者数	11	回答者数	9

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.24	3.89	4	5	1
2	3.12	2.89	3	3	2
3	3.94	3.89	4	5	3
4	4.06	4.11	4	5	3
5	3.71	3.78	4	5	2
6	3.94	3.78	3	5	3
7	3.94	4.00	4	5	3
8	3.76	4.22	4	5	3
9	3.65	4.00	4	5	3
10	4.06	4.33	4	5	4
11	3.94	4.22	4	5	3
12	4.47	4.78	5	5	4
13	2.29	1.78	1	4	1
14	2.94	2.11	1・2	4	1
15	3.94	4.33	4	5	4
16	3.94	4.11	4	5	3
17	3.69	3.78	4	5	3
回答者数	17	9			



#### 受講生の傾向

2年次配当科目という特性上、就職活動による欠席の可能性が毎年懸念されるが、受講者の多くは毎回出席して、講義に対して真剣に取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと  
理解度を増やすために、講義の説明をより丁寧に行うよう留意した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

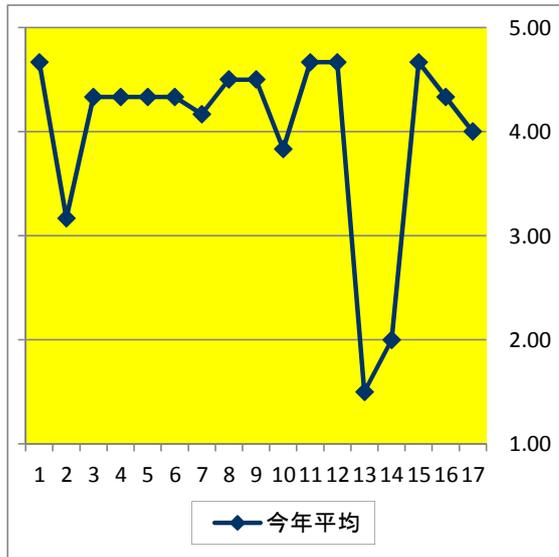
授業の全体的な満足度(質問No.11)については前年度よりも増加しているが、授業の全体的な理解度(質問No.17)は低下している。そのため、理解度をさらに向上させるために今後の改善が必要と考えている。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義の全体的な満足度(質問No.11)および授業の全体的な理解度(質問No.17)をはじめ、複数の項目に対する評価が上昇している一方で、資料の使い方(質問No.1)の評点が低下している。資料については特に大幅な変更は行っていないが、評点が低下した以上は改善の可能性を検討する必要があると考えられる。また、授業進度がやや遅めという評価になっているが、この点は全体的な満足度および理解度との関係を考えて、講義内容の増加を慎重に検討する。

科 目	政府・自治体会計論		
配当年次	2	開講時限	春火2
受講者数	6	回答者数	6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.67	5	5	4
2	—	3.17	3	4	3
3	—	4.33	4	5	4
4	—	4.33	4	5	4
5	—	4.33	4	5	4
6	—	4.33	5	5	3
7	—	4.17	4	5	3
8	—	4.50	4・5	5	4
9	—	4.50	4・5	5	4
10	—	3.83	4	5	3
11	—	4.67	5	5	4
12	—	4.67	5	5	4
13	—	1.50	1・2	2	1
14	—	2.00	2	3	1
15	—	4.67	5	5	4
16	—	4.33	5	5	3
17	—	4.00	4	5	2
回答者数	—	6			



#### 受講生の傾向

石原前都知事の「バランスシート」等の影響で自治体会計への関心が高まり、学外からの受講者1名を含め6名のクラスとなった。全員、公的部門に関心があり、熱心に受講していた。アンケート結果からも、授業内容には概ね満足しているものと思われる。予復習については、促進する試みを下記のとおり行ったが、もう少し時間を採る必要があると思われる。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講者の授業への積極的な参加を促進するため、毎回、授業の『ポイント』を設け、翌回にそれについて当番制で報告することとした。そのため、ある程度、復習の時間を採るようになったと思われる。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

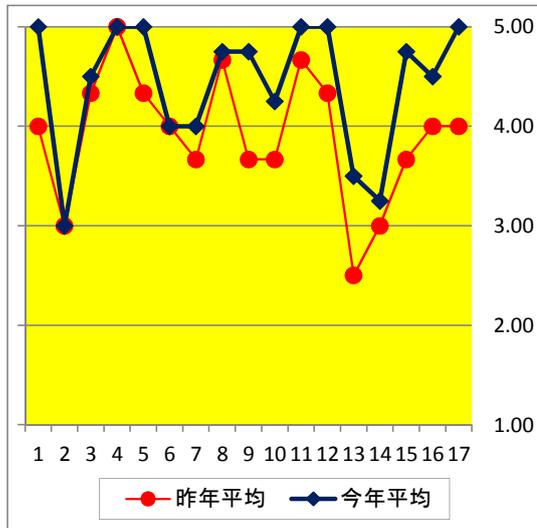
該当なし(授業担任者変更)

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講者の受講態度、アンケート結果から、概ね内容には満足していると思われる。内容については、引き続きブラッシュアップしていきたい。また、予復習の時間が少ないのは、ある程度やむを得ないと思われるが、適宜、自治体会計に関する新聞記事等を調査する等の課題を設けていきたい。

科 目	上級会社法		
配当年次	2	開講時限	春火4
受講者数	5	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.33	4.50	4・5	5	4
4	5.00	5.00	5	5	5
5	4.33	5.00	5	5	5
6	4.00	4.00	4	5	3
7	3.67	4.00	4	5	3
8	4.67	4.75	5	5	4
9	3.67	4.75	5	5	4
10	3.67	4.25	5	5	3
11	4.67	5.00	5	5	5
12	4.33	5.00	5	5	5
13	2.50	3.50	3・4	4	3
14	3.00	3.25	3	4	3
15	3.67	4.75	5	5	4
16	4.00	4.50	5	5	3
17	4.00	5.00	5	5	5
回答者数	3	4			



#### 受講生の傾向

受講生は5人という少人数であったが、全員が公認会計士を目指して学習しており、常に熱心に授業に取り組んでいた。また、授業中及び授業後の質問もかなり積極的であった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度の授業においては、授業の割合として、レクチャーよりも対話が多くなるよう心がけた。対話においても、一問一答という形式ではなく、ひとつの質問に対して、長く答えてもらうという形式をとり、学生には、話しながら理論構成や全体の流れに配慮するというを身につけてもらった。また、対話後においては、それを文章に表現するという事も同時に行った。対話において論理的に解答できる学生は、文章にすることについては問題ないようであった。文章は添削して返却し、個々の問題点について指摘した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

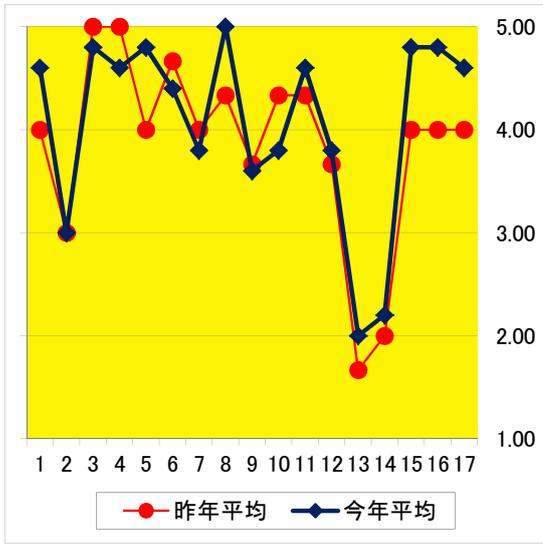
上級会社法は、中級会社法から続く科目であるので、なるべく中級で扱うところは中級で、上級で扱うところは上級でという厳格な区分のもとで授業を行いたい。今年度のように受講生が少ないようであれば、受講生のレベルや要望に極力合わせた授業を行いたい。また、そのためにもなるべく授業中に学生との対話を心がけたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の人数にもよるが、少人数であれば個人個人に応じた授業をしたい。そのためにもレクチャーよりも対話重視の授業にシフトし、一人ひとりの学生の苦手部分や欠点を認識し改めさせ、長所を生かすような授業にしていきたい。

科目	資本市場論		
配当年次	2	開講時限	春水1
受講者数	7	回答者数	5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.60	5	5	3
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	4.80	5	5	4
4	5.00	4.60	5	5	4
5	4.00	4.80	5	5	4
6	4.67	4.40	5	5	3
7	4.00	3.80	3・4	5	3
8	4.33	5.00	5	5	5
9	3.67	3.60	3	5	3
10	4.33	3.80	3・4	5	3
11	4.33	4.60	5	5	3
12	3.67	3.80	4	4	3
13	1.67	2.00	1・3	3	1
14	2.00	2.20	2・3	3	1
15	4.00	4.80	5	5	4
16	4.00	4.80	5	5	4
17	4.00	4.60	5	5	4
回答者数	3	5			



### 受講生の傾向

毎回講義に出席する受講生が昨年度より増えて、おそらくその効果で、昨年度よりも全体的な評価が高まっている。昨年度と比べてはっきりと下がったのは、クラス規模についての評価だが、そもそもの受講者数が7名の講義だから問題はないと考えられる。議論にもそれなりに積極的であったし、質問もよく出たので、昨年度よりも改善できていたと思う。単純に、今年度の受講生は相対的に熱意があったため、講義の雰囲気よかったということ。ただし、理想をいえば、もっと自分の頭で考える習慣を身につけてほしいと感じた。

### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

時事的な題材を使っの議論を講義計画に組み込むかたちで取り入れた。また、その際にマクロ経済データなどの統計データをできるだけきちんと示すようにした。

### 今後の対応

#### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

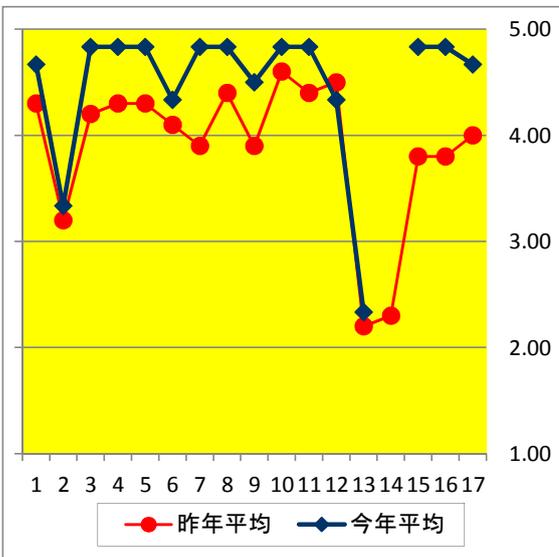
課題ははっきりしていて、受講生の興味をどう深められるかだが、今年度の1年生対象の講義では、ファイナンス系の講義を似たスタイルでおこなった結果、興味をもった受講生は欠席・遅刻をほとんどしなかった。来年度は、彼らが2年生としてこの科目を選択する可能性があるので、講義スタイルを変えるほうが良いとは思えない。ただし、興味をもたせるための方法として、もっと現実のデータを資料として使うことが有効かと感じるので、この点はきちんと工夫したい。また、討論の際に直近で起きたことを例に説明すると、受講生の反応がよかったと感じるので、講義の部分から、もっと時事的な話を入れるようにしたい。

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本講義については、全体的に今年度の評価を維持することを目標としたいので、講義計画などはあまり変更しないつもりである。ただし、これ以上を望むのは難しいと承知のうえで、積極的に自分の頭で考えて発言したり、質問したりする受講生の比率をもっと高めたいので、講義中に、受講生に考えさせる時間を意図的に増やしたいと思う。

科 目	マクロ経済学		
配当年次	2	開講時限	春土4
受講者数	10	回答者数	6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.30	4.67	5	5	4
2	3.20	3.33	3	5	3
3	4.20	4.83	5	5	4
4	4.30	4.83	5	5	4
5	4.30	4.83	5	5	4
6	4.10	4.33	5	5	3
7	3.90	4.83	5	5	4
8	4.40	4.83	5	5	4
9	3.90	4.50	5	5	3
10	4.60	4.83	5	5	4
11	4.40	4.83	5	5	4
12	4.50	4.33	5	5	2
13	2.20	2.33	1	5	1
14	2.30		2・3	5	1
15	3.80	4.83	5	5	4
16	3.80	4.83	5	5	4
17	4.00	4.67	5	5	4
回答者数	10	6			



#### 受講生の傾向

今年度の受講生はかなりの基礎学力を有した学生が多かったため、授業がスムーズに行うことができた。基礎的な分析、応用分析、さらに公認会計士試験問題などの高度なレベルの充実した授業を行うことができた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の授業評価アンケートでは、理論と実際の経済の動きをリンクさせて講義を行い、受講生には好評であったので、今年度もそのような方針で授業を行った。その結果、受講生は非常に関心を持って授業を聞き、さらに内容のある議論も行うことができた。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

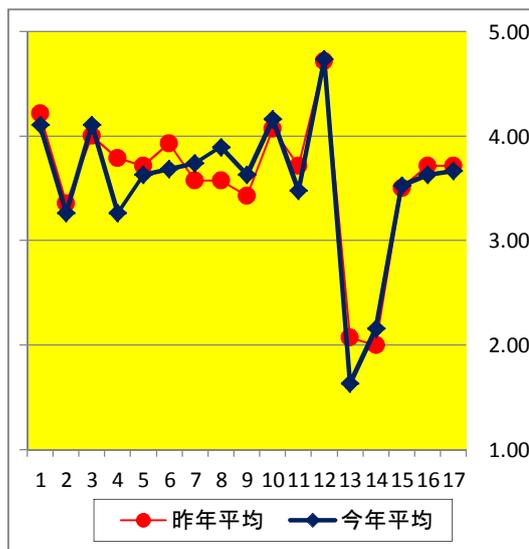
理論と実際の経済の動きをリンクさせた講義を行い学生には好評であったので、今後もこの方針を発展させていく予定である。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度同様、今年度も日本経済、世界経済の動向と、マクロ経済学の理論を関連付けて講義して、受講生には非常に好評であったので、今後もこの方針を維持していく方針である。

科目	会計事例研究		
配当年次	1	開講時限	春水1
受講者数	19	回答者数	19

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.21	4.11	4	5	3
2	3.36	3.26	3	5	3
3	4.00	4.11	4	5	3
4	3.79	3.26	3	5	1
5	3.71	3.63	4	5	1
6	3.93	3.68	4	5	1
7	3.57	3.74	4	5	2
8	3.57	3.89	4	5	3
9	3.43	3.63	4	5	2
10	4.07	4.16	4	5	3
11	3.71	3.47	4	5	1
12	4.71	4.74	5	5	4
13	2.07	1.63	1	3	1
14	2.00	2.16	2	4	1
15	3.50	3.53	4	5	2
16	3.71	3.63	4	5	1
17	3.71	3.67	4	5	2
回答者数	14	19			



#### 受講生の傾向

レポートや試験の結果から見ると、授業への意欲や理解度に差が感じられた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業ごとに出席票を記入してもらうとともに「今日の授業で理解できたこと」「今日の授業で理解できなかったこと」を記載してもらい、受講生の理解度の確認に努めた。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

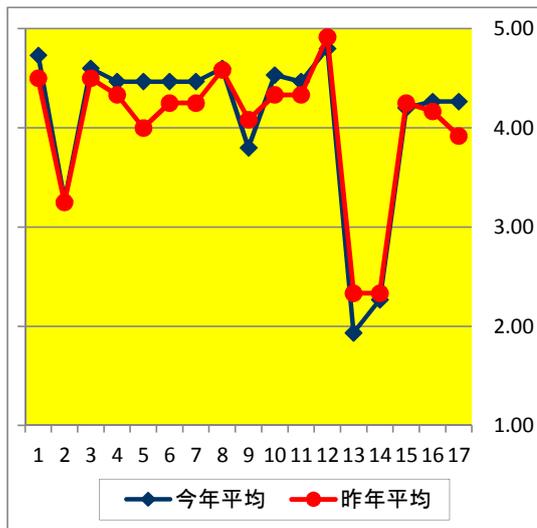
レポートは調べることを経験してもらうためのよいトレーニングになると思うので、その目的に合うような題材のレポートを出題したい。試験についても有価証券報告書の作成を体感できるような内容のものを出題して、受講生の今後の学習の足がかりになるようなものにした。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

レポートを2回課したが、1回にしたほうがよかったか、試験は条文集があったほうがよかったか、再度検討してみたいと思う。

科 目	会社経理実務		
配当年次	1	開講時限	春火4
受講者数	15	回答者数	15

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.73	5	5	4
2	3.25	3.27	5	5	3
3	4.50	4.60	5	5	4
4	4.33	4.47	5	5	3
5	4.00	4.47	5	5	2
6	4.25	4.47	5	5	3
7	4.25	4.47	4	5	4
8	4.58	4.60	5	5	4
9	4.08	3.80	3	5	3
10	4.33	4.53	5	5	3
11	4.33	4.47	5	5	3
12	4.92	4.80	5	5	4
13	2.33	1.93	1	5	1
14	2.33	2.27	1・2	5	1
15	4.25	4.20	5	5	2
16	4.17	4.27	5	5	2
17	3.92	4.27	4	5	3
回答者数	12	15			



#### 受講生の傾向

受講生15名中出席回数は15回9名、14回2名、13回・12回各1名、11回2名であり、質問回数は延べ101回(1名当たり6.7回)と、授業への参加状況は良好であった。課題としていた授業の理解度はアンケート結果(質問No.17)を見る限りは向上している。気になったのは、質問の内容が昨年受講者に比べやや見劣りし、問題意識と理解度に個人差が大きいことである。一方、レポートの出来は、事前のテーマ発表の効果もあったようで、昨年とほぼ同等に評価できるものであった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業の理解度と学生個々の問題意識向上のために、①授業で使用するパワーポイントの枚数削減による時間的ゆとり、②研究室訪問と懇談の機会設定、③最後の2回の授業を「受講者によるレポートテーマ・構想の発表と質疑」の時間とした(昨年は最後の授業のみを「レポート作成のための質疑応答」の時間とした)ことなどである。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

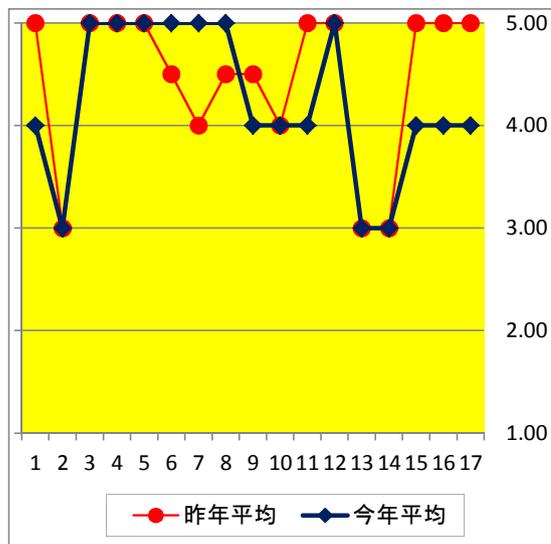
授業の理解度を高めることと、レポートで重視している「問題意識」「論理性」の向上に重点を置くこととする。具体的には①今年の授業のパワーポイント毎回30～50枚を30枚以内に絞りこみ、受講生の理解を促進すること、②双方向の対話時間を増やし、受講生の問題意識の喚起と論理性の向上を図ることなどを考えている。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

基本は、今年度と同じ方針を進めるが、受講者の理解度や問題意識の向上のために、特に授業における受講者の自発的な質問を喚起し、質問内容の質を高める努力をしたい。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションA(富田クラス)		
配当年次	2	開講時限	春火5
受講者数	1	回答者数	1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.00	4	4	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	5.00	5	5	5
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	4.50	5.00	5	5	5
7	4.00	5.00	5	5	5
8	4.50	5.00	5	5	5
9	4.50	4.00	4	4	4
10	4.00	4.00	4	4	4
11	5.00	4.00	4	4	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.00	3.00	3	3	3
14	3.00	3.00	3	3	3
15	5.00	4.00	4	4	4
16	5.00	4.00	4	4	4
17	5.00	4.00	4	4	4
回答者数	2	1			



#### 受講生の傾向

すべての回で出席しており、事前課題も充分にこなし、講義時間内での議論もそれを反映したものであった。ただ、受講生は1人であるため、受講生全体の傾向というよりも、当該学生に対するコメントとなってしまったため、これ以上は差し控えたい。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生が1人であるため、達成目標を明確にし、それに合わせた課題およびその趣旨を十分に説明して実施し、状況によっては、相談の上、調整を行う等、きめ細やかな指導を意識した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

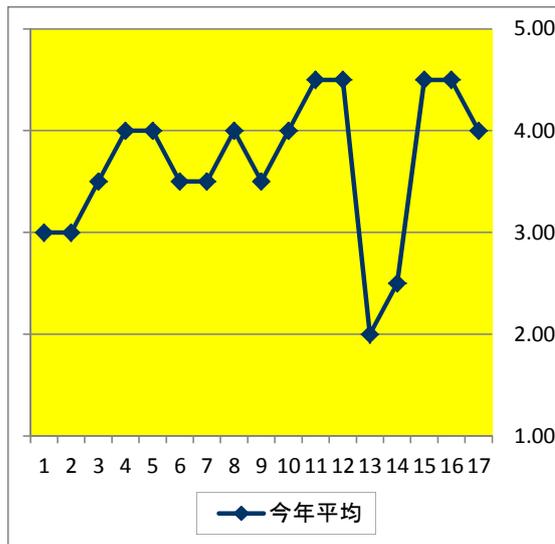
今年度は全体として良好であると感じられるので、今後は受講生に、より主体的に対象に向き合うような工夫を追加する必要があり、その策を検討する。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

「プロフェッショナル・ソリューション」は、今年度までの開講であるため、「今後の対応」についてはコメントできないが、今回のように1人ずつの達成目標を明確にし、その課題と課題趣旨を明確にすることが効果的であるようなので、今後の少人数教育に反映させていくつもりである。

科目	プロフェッショナル・ソリューションA(大西クラス)		
配当年次	2	開講時限	春木5
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	3.00	2・4	4	2
2	—	3.00	3	3	3
3	—	3.50	3・4	4	3
4	—	4.00	4	4	4
5	—	4.00	4	4	4
6	—	3.50	3・4	4	3
7	—	3.50	3・4	4	3
8	—	4.00	4	4	4
9	—	3.50	3・4	4	3
10	—	4.00	4	4	4
11	—	4.50	4・5	5	4
12	—	4.50	4・5	5	4
13	—	2.00	2	2	2
14	—	2.50	2・3	3	2
15	—	4.50	4・5	5	4
16	—	4.50	4・5	5	4
17	—	4.00	4	4	4
回答者数	—	2			



#### 受講生の傾向

就職活動との関連で出席できていない場合もあったが、おおむね毎回授業に出席して、真剣に受講していた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は開講していないため、年度間の改善点はない。  
講義に際しては、学生に対してテキストの内容を丁寧に教えるように留意した。

#### 今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

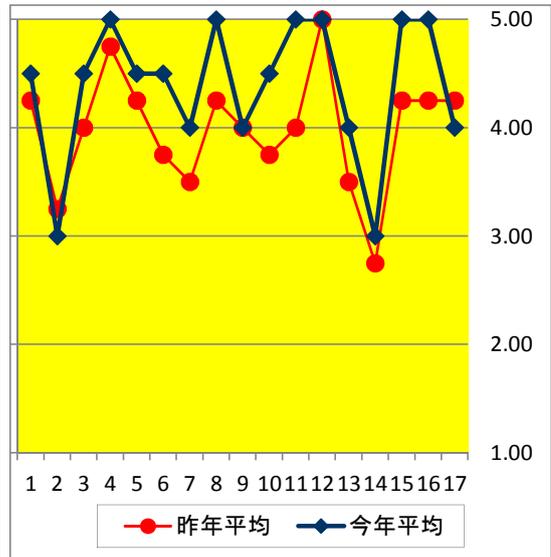
該当なし(昨年度不開講)

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

演習という科目の特性上、受講生に応じて指導する側面が多くなると考えられるが、その中でも講義内容の標準化に向けて改善する必要があると考えている。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションA(松本クラス)		
配当年次	2	開講時限	春金5
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.25	4.50	4・5	5	4
2	3.25	3.00	3	3	3
3	4.00	4.50	4・5	5	4
4	4.75	5.00	5	5	5
5	4.25	4.50	4・5	5	4
6	3.75	4.50	4・5	5	4
7	3.50	4.00	3・5	5	3
8	4.25	5.00	5	5	5
9	4.00	4.00	3・5	5	3
10	3.75	4.50	4・5	5	4
11	4.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.50	4.00	3・5	5	3
14	2.75	3.00	3	3	3
15	4.25	5.00	5	5	5
16	4.25	5.00	5	5	5
17	4.25	4.00	4	4	4
回答者数	4	2			



#### 受講生の傾向

全員がまじめに100%出席しており、受講生のモラルは高い(質問No.12)。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計大学院の設置趣旨に則り、監査論の論点を扱いながら、情報収集能力、分析能力、プレゼン能力、ディベート能力を養うため、各自の能力に応じて課題を課すと同時に、正規の時間外で個別課題を課すようにした。また随時、質問を受け付けた。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

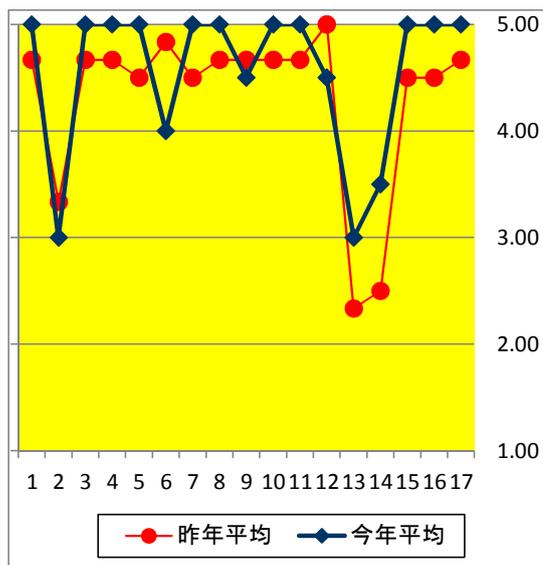
個別指導の一環として、質問を受け付けるための時間を予め知らせるようにしたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生とのeメールでの遣り取りによる指導を強化したい。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションA(宮本クラス)		
配当年次	2	開講時限	春土5
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	5.00	5	5	5
2	3.33	3.00	3	3	3
3	4.67	5.00	5	5	5
4	4.67	5.00	5	5	5
5	4.50	5.00	5	5	5
6	4.83	4.00	3・5	5	3
7	4.50	5.00	5	5	5
8	4.67	5.00	5	5	5
9	4.67	4.50	4・5	5	4
10	4.67	5.00	5	5	5
11	4.67	5.00	5	5	5
12	5.00	4.50	4・5	5	4
13	2.33	3.00	1・5	5	1
14	2.50	3.50	2・5	5	2
15	4.50	5.00	5	5	5
16	4.50	5.00	5	5	5
17	4.67	5.00	5	5	5
回答者数	6	2			



#### 受講生の傾向

今年度の受講生は、アカデミック・ソリューションからの継続者ばかりだったので、気心や学力がよく理解できていたので、授業はやり易かった。また、非常にまじめな受講生であったので、授業が非常に良く進み、基礎的分析、応用分析さらに高度なレベルの分析も行うことができた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の授業評価アンケートでは、受講生のレベルに合わせた授業を行うようにすると記述していたが、今年度はその方針に従って授業を行った。そして、今年度の受講生は基礎学力が十分であったので、すぐに応用問題や高度な内容の授業をおこなうことができた。したがって、内容のある充実した授業を行うことができたと考えている。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

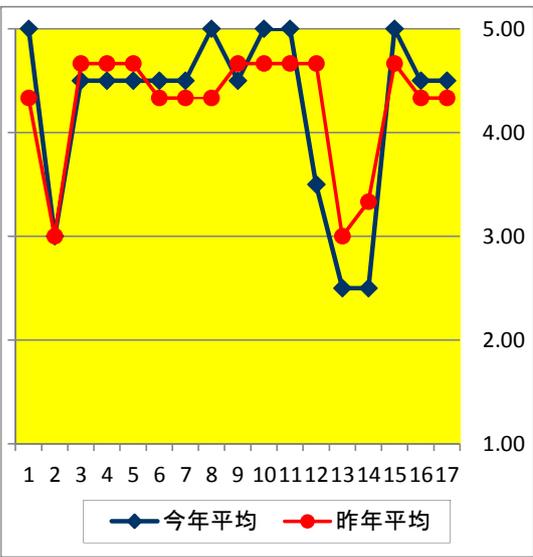
今年度については、受講生がマクロ経済学の初歩的な段階はほとんど理解していたので、マクロ経済学の主要ポイントであるIS-LM分析を中心に講義した。次年度は、受講生のレベルを考えてから、講義の内容を工夫することにする。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

上述のように、今年度は受講生のレベルが高かったので、最初からレベルの高い、内容のある授業を行うことができた。来年度以降も、このように受講生の学力レベルに合わせた授業を行うことを目標にしたいと考えている。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションA (宗岡クラス)		
配当年次	2	開講時限	春金5
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.67	4.50	4・5	5	4
4	4.67	4.50	4・5	5	4
5	4.67	4.50	4・5	5	4
6	4.33	4.50	4・5	5	4
7	4.33	4.50	4・5	5	4
8	4.33	5.00	5	5	5
9	4.67	4.50	4・5	5	4
10	4.67	5.00	5	5	5
11	4.67	5.00	5	5	5
12	4.67	3.50	3・4	4	3
13	3.00	2.50	2・3	3	2
14	3.33	2.50	2・3	3	2
15	4.67	5.00	5	5	5
16	4.33	4.50	4・5	5	4
17	4.33	4.50	4・5	5	4
回答者数	3	2			



#### 受講生の傾向

就職希望者と公務員希望者がメンバーで、試験や就職活動で忙しかったが、時間をやりくりしてゼミに積極的に参加した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと  
会計と実社会との関連を理解できるように、ディスカッションを中心に授業を行った。

#### 今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

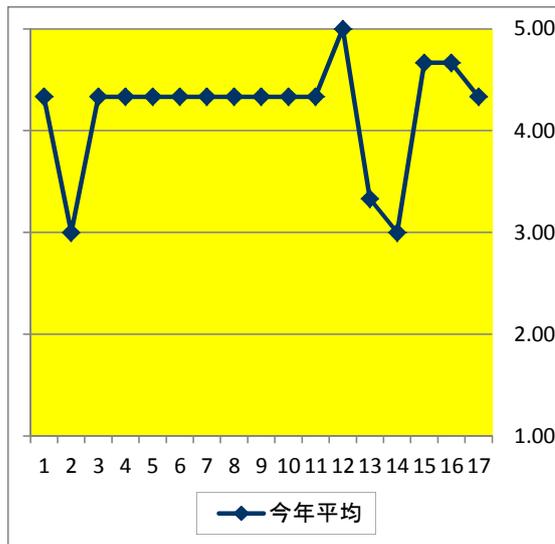
就職活動に影響されないよう、複数の担当者による発表を企図するようにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

会計と実社会との関連を理解することを主眼に、ディスカッションを中心とした授業を行う。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションA(清水クラス)		
配当年次	2	開講時限	春火5
受講者数	3	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.33	4	5	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.33	4	5	4
4	—	4.33	4	5	4
5	—	4.33	4	5	4
6	—	4.33	4	5	4
7	—	4.33	4	5	4
8	—	4.33	4	5	4
9	—	4.33	4	5	4
10	—	4.33	4	5	4
11	—	4.33	4	5	4
12	—	5.00	5	5	5
13	—	3.33	2・3・5	5	2
14	—	3.00	1・3・5	5	1
15	—	4.67	5	5	4
16	—	4.67	5	5	4
17	—	4.33	4	5	4
回答者数	—	3			



#### 受講生の傾向

3名の受講者が参加した。会計の基礎から学びたいとの希望を受けて授業内容を構成した。アンケート結果からも授業内容には概ね満足していると推察される。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと  
受講生の希望に沿った構成とした。

#### 今後の対応

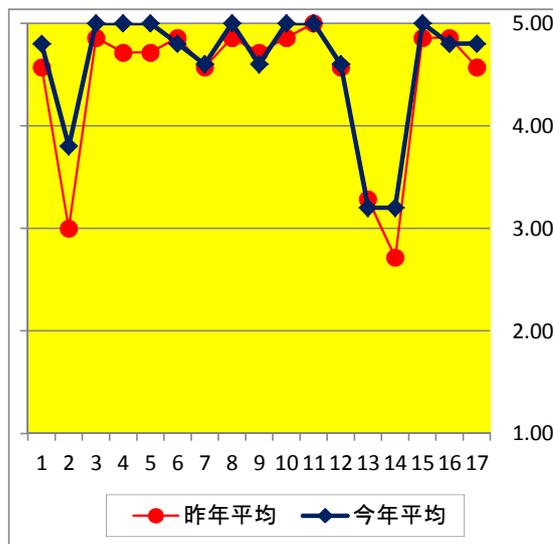
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」  
該当なし(昨年度不開講)

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

教科書を章ごとに分担して報告させる形式をとっていたが、発表者は教科書をほぼそのまま引用してレジュメとし、それ以外はただ聞いているだけという風なマンネリ化する傾向が見られた。今後は受講生に応じて勉強の意欲を促進する手法を選択する必要がある。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションA (坂口クラス)		
配当年次	2	開講時限	春金5
受講者数	6	回答者数	5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.57	4.80	5	5	4
2	3.00	3.80	3	5	3
3	4.86	5.00	5	5	5
4	4.71	5.00	5	5	5
5	4.71	5.00	5	5	5
6	4.86	4.80	5	5	4
7	4.57	4.60	5	5	3
8	4.86	5.00	5	5	5
9	4.71	4.60	5	5	3
10	4.86	5.00	5	5	5
11	5.00	5.00	5	5	5
12	4.57	4.60	5	5	4
13	3.29	3.20	3	5	2
14	2.71	3.20	3	5	2
15	4.86	5.00	5	5	5
16	4.86	4.80	5	5	4
17	4.57	4.80	5	5	4
回答者数	7	5			



#### 受講生の傾向

受講生の多くは管理会計についての知識を十分に備えていた。それゆえ、基本テーマの解説ではなく、事例などを基礎としたディスカッションが適切であった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

事例についてのディスカッションに入る前に、どのような管理会計のトピックが関連するののかについての説明を事前に行った。その結果、ディスカッションの内容がより豊富なものになったと考えられる。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

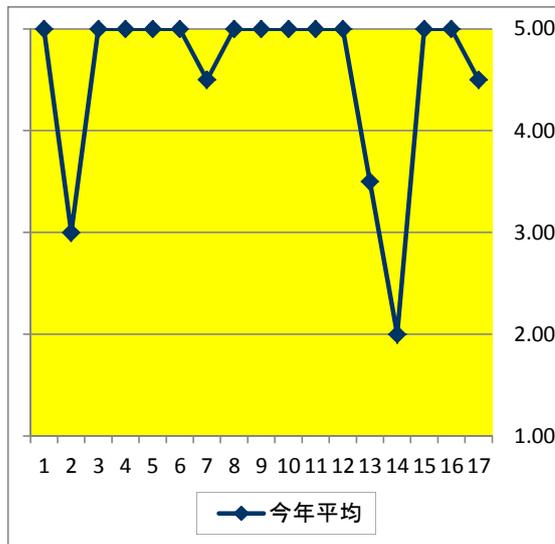
管理会計の各項目にかかわるディスカッションを実施してきたが、その指導の仕方や教材として利用するもの(架空のケースも含む)でまだ改善の余地がある。そのため、教材選択や授業の組立について、他の教員からのアドバイスも受けながら改善していきたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後も、受講生の習熟レベルに応じて対応していこうと考えている。加えて、受講生のニーズに応じて、管理会計だけでなく、その基礎になるような関連事項についても、一緒に学習していきたい。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションA(中村クラス)		
配当年次	2	開講時限	春火5
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	5.00	5	5	5
2	—	3.00	3	3	3
3	—	5.00	5	5	5
4	—	5.00	5	5	5
5	—	5.00	5	5	5
6	—	5.00	5	5	5
7	—	4.50	4・5	5	4
8	—	5.00	5	5	5
9	—	5.00	5	5	5
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	3.50	3・4	4	3
14	—	2.00	2	2	2
15	—	5.00	5	5	5
16	—	5.00	5	5	5
17	—	4.50	4・5	5	4
回答者数	—	2			



#### 受講生の傾向

受講生は、難解な国際租税法の理解に向け、非常に真面目に取り組んでいた。特に、それはレジュメ作成に要する時間である予習時間に表れている(質問No.13)。また、受講生は授業時間内で活発に議論を行っていた。その理由を受講生に聞いてみると、国際租税法には国内税法とは違う面白さがあるそうである。このように、受講生の高い学習意欲は、受講生が初学者でありながらも質問No.17の結果をもたらしたと考える。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まず、国際租税法の初学者である受講生に対して、第1回講義で国際租税法の概要をレジュメと図を使って講義した。これは、受講生に国際租税法の基本を理解させることを目的としたものである。次に、受講生が報告するレジュメに関連して、私の方で具体的な事例問題を作問し、解かせるようにした。これは、受講生に国内税法、租税条約の適用順序を理解させることを目的としたものである。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

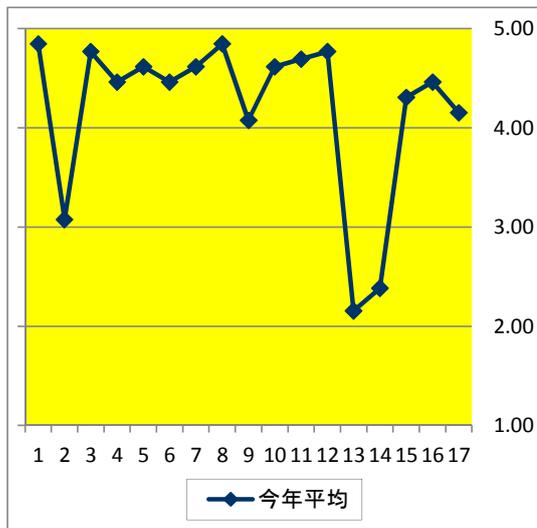
該当なし(昨年度不開講)

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

国際租税法が関わる取引は、複雑である。その理解のためには、取引図を記載することが大切であるから、受講生がレジュメを作成する際は、取引図を書かせ、その図をベースに課税関係を理解するよう指導する。また、受講生にとって、国内税法と租税条約の関係を押さえることが、国際租税法を理解するための条件である。その点を具体的な問題を多く解答させることによって、その理解の向上を図る。

科 目	特殊講義(ERPと会計)		
配当年次	1	開講時限	春月4
受講者数	15	回答者数	13

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.85	5	5	4
2	—	3.08	3	4	2
3	—	4.77	5	5	4
4	—	4.46	5	5	3
5	—	4.62	5	5	3
6	—	4.46	5	5	3
7	—	4.62	5	5	3
8	—	4.85	5	5	4
9	—	4.08	5	5	3
10	—	4.62	5	5	3
11	—	4.69	5	5	3
12	—	4.77	5	5	4
13	—	2.15	3	3	1
14	—	2.38	3	3	1
15	—	4.31	5	5	2
16	—	4.46	5	5	3
17	—	4.15	5	5	2
回答者数	—	13			



#### 受講生の傾向

受講者15名中1名が、8回の出席でレポート未提出であったが、他の14名の出席回数は15回6名、14回・13回各2名、12回1名、11回3名で最後2回の「レポートテーマ・構想の発表と質疑」には1名を除く全員が参加し、質問回数は延べ100回(1名当たり6.7回)と、授業への参加状況は概ね良好であった。授業の当初は理解度にかなり個人差があったように思うが、回を重ねるにつれボトムアップが進み、後半の質問内容や最終のレポートから、ほぼ全員が一定水準の理解に達したと判断できる。ただ、アンケートの授業の理解度(質問No.17)の結果は「4.15」と私の期待値をやや下回っている。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

該当なし(今年度新設科目)

ただし今回の授業は昨年度開講した「会計情報システム」をよりERPに軸足を置いた内容で新たに特殊講義として開講したものであり、昨年度の「会計情報システム」の評価アンケートを踏まえ、授業の理解度と問題意識向上のために①授業で使用するパワーポイントの枚数削減による時間的ゆとり、②研究室訪問と懇談の機会設定、③最後の2回の授業を「受講者によるレポートテーマ・構想の発表と質疑」の時間とした(昨年の「会計情報システム」では最後の授業のみを「レポート作成のための質疑応答」の時間とした)ことなどである。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

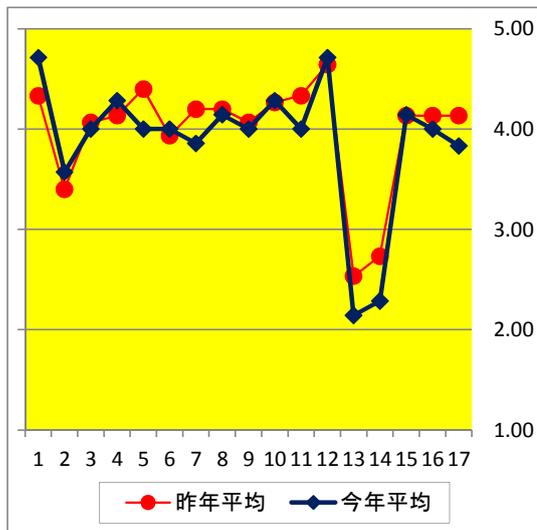
該当なし(今年度新設科目)、ただし昨年度の「会計情報システム」で今回の特殊講義「ERPと会計」について記載した「今後の対応」は次のとおりであった。「授業において、レポート作成の支援と内容の充実を目的に最後の2回の授業に『受講者によるレポートテーマ・構想の発表』の時間を設ける。それにより各人のレポートの内容充実を図り、全体の底上げを目指したい」とした。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

基本は、今年度と同じ方針で進めるが、授業における受講者の自発的な質問喚起、質疑応答による理解度の向上に努めたい。

科目	会計戦略論		
配当年次	2	開講時限	春火4
受講者数	7	回答者数	7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	4.71	5	5	4
2	3.40	3.57	4	4	3
3	4.07	4.00	4	5	2
4	4.13	4.29	5	5	2
5	4.40	4.00	4	5	2
6	3.93	4.00	4	5	2
7	4.20	3.86	4	5	2
8	4.20	4.14	4・5	5	2
9	4.07	4.00	4	5	3
10	4.27	4.29	5	5	2
11	4.33	4.00	4	5	2
12	4.64	4.71	5	5	4
13	2.53	2.14	1	4	1
14	2.73	2.29	1・2・3	4	1
15	4.13	4.14	4・5	5	2
16	4.13	4.00	4	5	2
17	4.13	3.83	4	5	3
回答者数	15	7			



#### 受講生の傾向

就職活動の兼ね合いで、欠席する学生がいたが、概ね出席率が高い。講義に対する姿勢も積極的で、不明な点を質問することで確認する姿勢が見受けられた。しかし、予習・復習の時間が昨年度より減っており、下記の工夫が反映されなかったように感じる。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義の速度が速いと感じる学生が多いようなので、事前事後・講義中の資料に工夫を講じた。具体的には、講義で示すパワーポイントをPDF化し、講義前日から2週間、ダウンロードできるようにし、事前の講義内容確認や復習の資料として提供した。また、講義のポイントをレジュメとして配布し、パワーポイントの進行に合わせて、内容を確認できるようにした。そのためか、昨年度より、講義速度が速いと感じないようになったようである。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

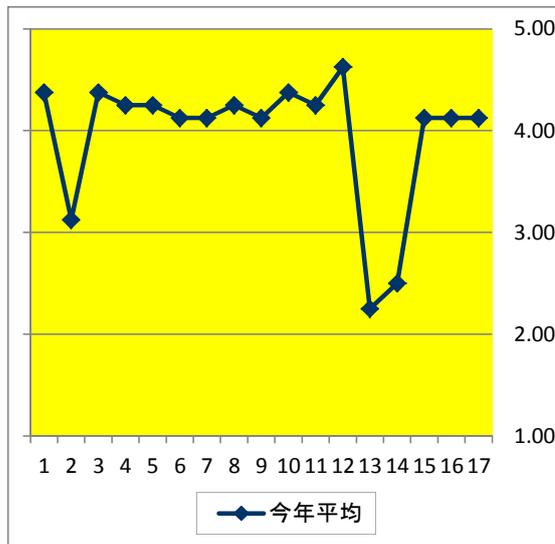
講義の進度について、受講生は少し速いと感じているようである。おそらく、講義内容(企業行動)がイメージできないためであろうと考えられる。具体的で身近な例を増やし、速さを感じさせないように務めるつもりである。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

小教室であったため、パワーポイントが見つらい状態にあり、教室配置の要望をする。質問No.5「教員の話し方・声の大きさ・説明の仕方」が昨年度より評価が下がっており、より企業行動がイメージしやすいような例を増やすなどの工夫を講じたい。

科 目	資産会計論		
配当年次	2	開講時限	春金3
受講者数	8	回答者数	8

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.38	5	5	3
2	—	3.13	3	4	3
3	—	4.38	4	5	4
4	—	4.25	4	5	4
5	—	4.25	4	5	4
6	—	4.13	4	5	4
7	—	4.13	4	5	4
8	—	4.25	4	5	4
9	—	4.13	4	5	3
10	—	4.38	4	5	4
11	—	4.25	4	5	4
12	—	4.63	5	5	4
13	—	2.25	2	3	1
14	—	2.50	2・3	3	2
15	—	4.13	4	5	4
16	—	4.13	4・5	5	3
17	—	4.13	4	5	4
回答者数	—	8			



#### 受講生の傾向

今年度から開講された新設の科目である。講義中は集中している様子で、発言を促したときの反応もよく、全体的に講義しやすい雰囲気であった。講義後に質問して意欲的に学ぼうとする受講生もいた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計上の資産に関する領域をいくつか取り上げた。現行制度上の取扱いだけでなく、発展的な論点も取り上げて検討した。会計基準等の原文を教科書として使用したが、市販のテキストを中心に会計基準等の勉強をしている受講生が多く、違和感のある講義展開であったかもしれない。会計基準等の原文で重要な個所を指示し、内容を確認して説明した。また、受講生に発言を促し、場合によってディスカッションを行った。

#### 今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

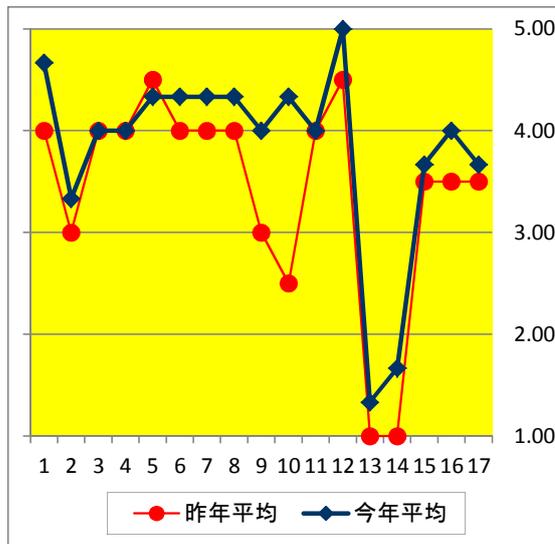
該当なし(今年度新設科目)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度の講義展開は、全体的に良い感触を得たようである。次年度も継続することにしたい。

科目	非営利会計論		
配当年次	2	開講時限	春月4
受講者数	3	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.67	5	5	4
2	3.00	3.33	3	4	3
3	4.00	4.00	3・4・5	5	3
4	4.00	4.00	3・4・5	5	3
5	4.50	4.33	4	5	4
6	4.00	4.33	4	5	4
7	4.00	4.33	4	5	4
8	4.00	4.33	4	5	4
9	3.00	4.00	3・4・5	5	3
10	2.50	4.33	4	5	4
11	4.00	4.00	3・4・5	5	3
12	4.50	5.00	5	5	5
13	1.00	1.33	1	2	1
14	1.00	1.67	2	2	1
15	3.50	3.67	4	4	3
16	3.50	4.00	4	4	4
17	3.50	3.67	4	4	3
回答者数	2	3			



#### 受講生の傾向

3名の受講生が参加した。出席状況、受講態度も良好であり、アンケート結果を見ると、内容的には概ね満足が行くものであったと思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと  
適宜課題を与えて、自宅で予習をさせる等の工夫をした。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

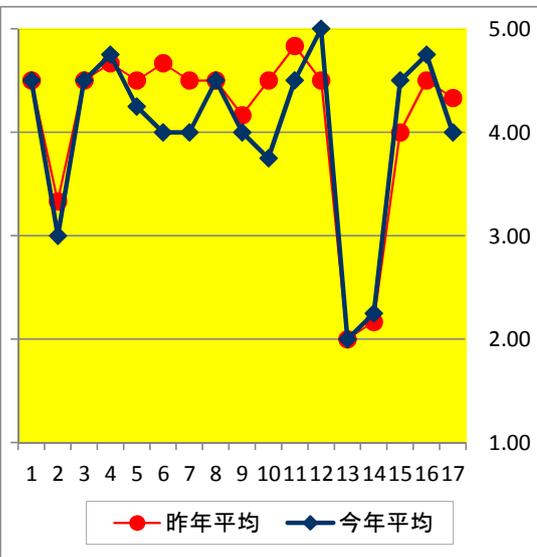
受講生に自ら予習させる工夫をしたい(担当を決め発表させるなど)。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

確認テストの結果からは、授業内容が十分理解できていないところも多かったように思われる。現在の社会において非営利組織の役割が重要になってきていることに鑑み、受講者が自ら興味を持って授業内容に積極的に参加するよう工夫していきたい。

科 目	保証業務論		
配当年次	2	開講時限	春金2
受講者数	4	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.50	4・5	5	4
2	3.33	3.00	3	3	3
3	4.50	4.50	4・5	5	4
4	4.67	4.75	5	5	4
5	4.50	4.25	4	5	4
6	4.67	4.00	4	5	3
7	4.50	4.00	4	5	3
8	4.50	4.50	4・5	5	4
9	4.17	4.00	4	5	3
10	4.50	3.75	4	5	2
11	4.83	4.50	4・5	5	4
12	4.50	5.00	5	5	5
13	2.00	2.00	1・3	3	1
14	2.17	2.25	3	3	1
15	4.00	4.50	5	5	3
16	4.50	4.75	5	5	4
17	4.33	4.00	4	5	3
回答者数	6	4			



#### 受講生の傾向

本科目は、基本科目の「監査制度論」とその他の監査系科目を履修した学生を前提に配置された応用科目であり、監査に対するモラルの高い学生が集まっていることから、出席率は100%であった(質問No.12)。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

わが国の保証業務に関する枠組み・基準の他、アメリカの基準及び国際基準に基づいた保証業務の枠組みや内容を理解することを目的として、前半は座学による講義スタイルを採り、後半は、前半においてなされたはずの保証業務に関する理解度を確認するため、受講生自らが想定する「保証業務の提案」をパワーポイント及び提案書の形で、他の受講生に対してプレゼンテーションをさせ、自らが提案する当該保証業務の魅力の説かせるようにした。他の受講生には、当該受講生が行なったプレゼンテーションと提案書の内容について、5点スケールで幾つかの項目ごとに相互評価させた。

この際の評価方法が直感や単なる印象に終わらないように、予め6つの項目(情報収集の程度や情報分析の程度等)について個別に評価させるとともに、報告者のプレゼンについて修正すべき内容を自由記述させた。報告者には、事後的に当該修正すべき内容のリストを手渡し、将来におけるプレゼン能力の向上を期待した。最終的に当該業務に関する提案書をレポートの形で提出させ、それを含めて評価した。

#### 今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

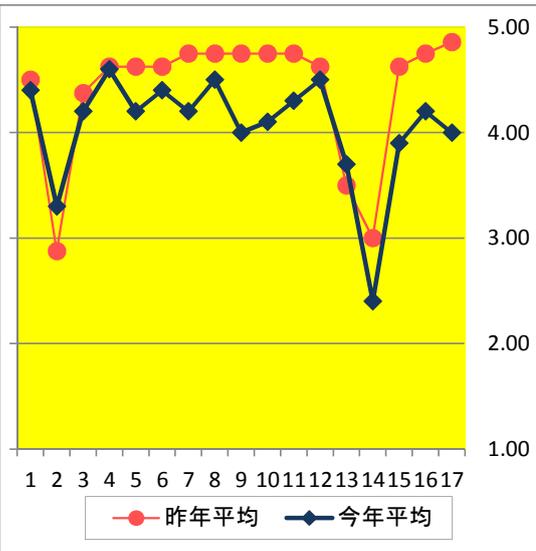
時間割編成に当たっての配慮を今後とも行なう必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

時間割上の配慮がなされたものの、受講生の減少から「保証業務の提案」内容に拮がりがなくなってきた。提案の仕方を多段階にして保証業務としての要件充足を実感させながらの進行に変更した方が良いかもしれない。

科目	法人税法		
配当年次	2	開講時限	春火3
受講者数	12	回答者数	10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.40	5	5	3
2	2.88	3.30	3	3	2
3	4.38	4.20	4・5	5	3
4	4.63	4.60	5	5	4
5	4.63	4.20	4	5	3
6	4.63	4.40	4	5	4
7	4.75	4.20	4	5	3
8	4.75	4.50	4・5	5	4
9	4.75	4.00	4	5	3
10	4.75	4.10	4	5	3
11	4.75	4.30	5	5	3
12	4.63	4.50	4・5	5	4
13	3.50	3.70	4	5	2
14	3.00	2.40	2	4	1
15	4.63	3.90	4	5	3
16	4.75	4.20	4	5	3
17	4.86	4.00	4	5	3
回答者数	8	10			



#### 受講生の傾向

昨年と同様、毎回の講義時に租税判例を要約してくる課題を受講生に課したが、その要約した内容に対する質問に答えられない受講生が多かった。その理由の1つに、条文を読まずに要約していることが確認できた。また、予習時間(質問No.13)が前年よりも多かったにもかかわらず、授業の理解度(質問No.17)が低い、とのデータが示す通り、本年度の受講生は法人税法を苦手としているものが多いとの印象も受けた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業進度の向上を目指し、取引図をレジュメに記載するようにしたことにより、その分の時間を租税法総論の説明に充てることができた。また、受講生の論述力を向上させるため、講義時間内で法人税法の理論問題を受講生に解答させ、添削等を行った。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

質問No.2が昨年度を下回っている(授業進度が遅い)。その原因の1つとして、取引図をホワイトボードに何度も記載して講義を進めている点が考えられる。講義レジュメに必要な図を記載しておき、時間の節約を図りたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

法人税法の理解のためには、判例の理解は不可欠である。今年度と同様、受講生に対して、判例要約を毎講義の課題とする。また、受講生の論述力を向上させるため、理論問題を解く時間を講義内に組み入れる。これにより、法人税法の条文を読まざるを得ない状況を作り出す。

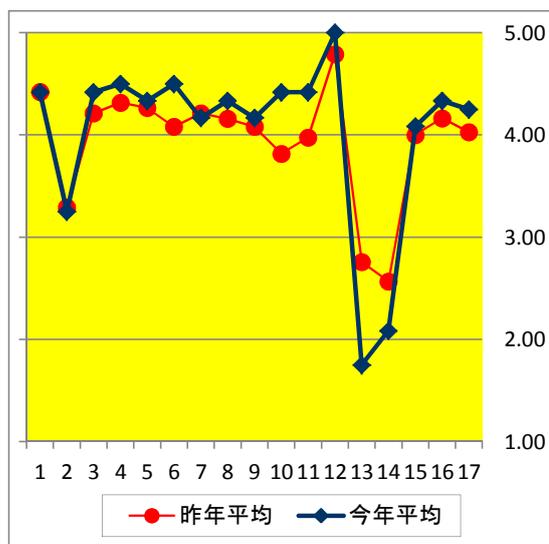


## Ⅱ-(2). 2013 年度授業評価アンケート(秋学期)結果概要



科目	会計専門職業倫理(B)		
配当年次	2	開講時限	秋水2
受講者数	13	回答者数	12

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.42	4.42	4	5	4
2	3.29	3.25	3	4	3
3	4.21	4.42	4	5	4
4	4.32	4.50	4・5	5	4
5	4.26	4.33	4	5	4
6	4.08	4.50	4・5	5	4
7	4.21	4.17	4	5	3
8	4.16	4.33	4	5	4
9	4.08	4.17	4	5	3
10	3.82	4.42	5	5	3
11	3.97	4.42	4	5	4
12	4.79	5.00	5	5	5
13	2.76	1.75	1・2	3	1
14	2.57	2.08	3	3	1
15	4.00	4.08	4	5	2
16	4.16	4.33	4	5	4
17	4.03	4.25	4・5	5	3
回答者数	38	12			



#### 受講生の傾向

非常に熱心な学生が多かった。ほぼ全員が真面目に授業に取り組んだ。授業内容が、出席することが大前提で、その上で議論、思考、意見まとめ等の過程を重視するため、予習・復習の時間は少ないとのアンケート結果が出ているが、それはやむを得ないと思われる。それにも拘らず、プレゼンテーションの準備や、レポート作成には、時間外でかなりの時間を割いたと推定される。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

秋学期は、春学期よりも少人数の13名の参加となった。より対話を重視するとともに、講義内容もより多くの事例を紹介するなど、充実させる工夫を行った。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

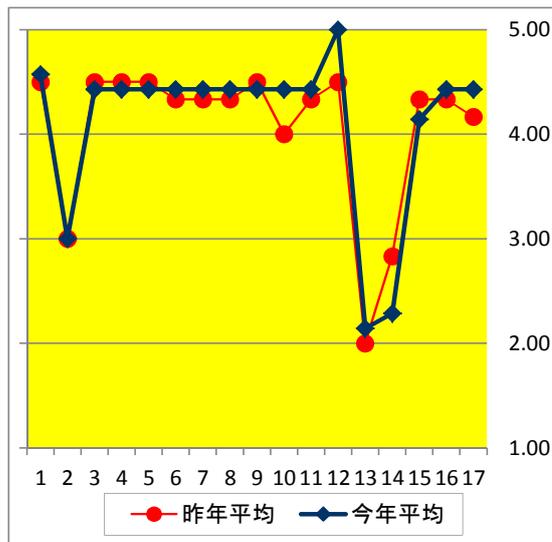
受講生が減ることが予想されるため、授業実施方法等を変更する必要があると考えられる。引き続き受講生との対話を重視しながら、授業内容に理論的な内容を増やし充実させていきたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

引き続き少人数のクラスが継続することを前提に、授業目的に沿い、より充実した内容にしていきたい。特に修了後は企業内職業会計人となる学生が多いと思われるため、企業内会計士等向けの職業倫理の内容を増やしていく。

科目	企業法(B)		
配当年次	1	開講時限	秋月3
受講者数	8	回答者数	7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.57	5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.50	4.43	4	5	4
4	4.50	4.43	4	5	4
5	4.50	4.43	4	5	4
6	4.33	4.43	4	5	4
7	4.33	4.43	4	5	4
8	4.33	4.43	4	5	4
9	4.50	4.43	4	5	4
10	4.00	4.43	4	5	4
11	4.33	4.43	4	5	4
12	4.50	5.00	5	5	5
13	2.00	2.14	2	3	1
14	2.83	2.29	2	3	2
15	4.33	4.14	4・5	5	2
16	4.33	4.43	4	5	4
17	4.17	4.43	4	5	4
回答者数	6	7			



#### 受講生の傾向

企業法はほとんどの学生が春学期に受講することになるが、この秋学期の企業法は、秋学期において初めて企業法を受講する学生と春学期開講の企業法の再履修として受講する学生が混在している。よって、春学期に企業法を理解できなかった学生も存在するが、授業態度等に関してみれば、まじめな学生が多く、また、授業の理解度も悪くないようであった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義ではあるが少人数であるということを考慮して、学生との対話をできるだけ増やし、法的な説得力を持った文章を作成する能力を養うため、文章作成の練習をできるだけ多く行った。特に再履修の学生については、多くは自分の頭では理解できているが、それを表現したり、文章に表したりすることが苦手な学生が多くみられるので、この方法は一定の効果があると思われる。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

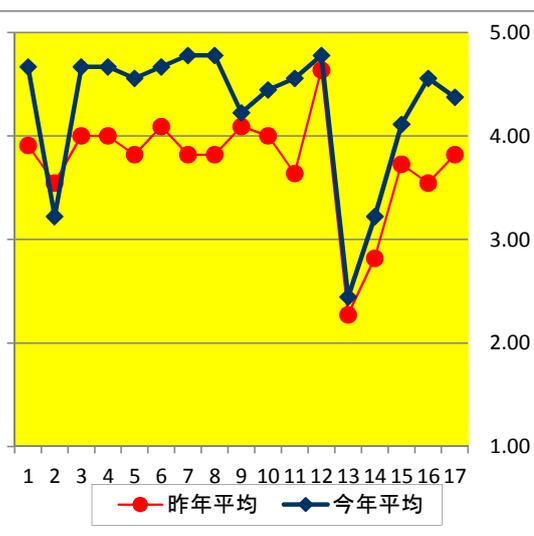
対話および文章作成練習を多く取り込むことによって、学生の論理的な思考能力を養うことができるし、さらにそれを表現する能力も鍛えることができると考えられるので、今後は、よりいっそう対話のおよび文章作成の機会を増やしていきたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義という制約はあるが、学生との対話および文章作成の練習はまだまだ十分とはいえないので、より一層このような機会を増やしていきたい。

科 目	上級簿記(B)		
配当年次	1	開講時限	秋木2
受講者数	11	回答者数	9

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.91	4.67	5	5	4
2	3.55	3.22	3	4	3
3	4.00	4.67	5	5	4
4	4.00	4.67	5	5	4
5	3.82	4.56	5	5	4
6	4.09	4.67	5	5	4
7	3.82	4.78	5	5	4
8	3.82	4.78	5	5	4
9	4.09	4.22	5	5	3
10	4.00	4.44	5	5	3
11	3.64	4.56	5	5	4
12	4.64	4.78	5	5	4
13	2.27	2.44	2	5	1
14	2.82	3.22	3	5	1
15	3.73	4.11	4	5	2
16	3.55	4.56	5	5	4
17	3.82	4.38	4	5	4
回答者数	11	9			



### 受講生の傾向

受講生は、以前に当該科目の単位が不認定となった学生、もしくは、導入科目群の履修が終わって当該科目を初めて受講できるようになった学生である。いずれにせよ、基礎力に不安のある受講生が多い状況であった。

### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

春学期の当該科目と同じく、講義中の説明は「覚えて解く」のではなく「考えて解く」ことを意識してもらうようにした。説明と問題演習の時間配分を工夫して、より基本的な事項を優先的に理解してもらうようにした。基本中の基本となる問題を講義中に配布して解いてもらい、一人ずつ個別に理解を確認して回った。とくに、秋学期は、上述の受講生の傾向からして、日商検定2級の習熟度に問題があるケースもあり、そのことに配慮しながら、受講生のレベルに見合った講義展開を心がけた。

### 今後の対応

#### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

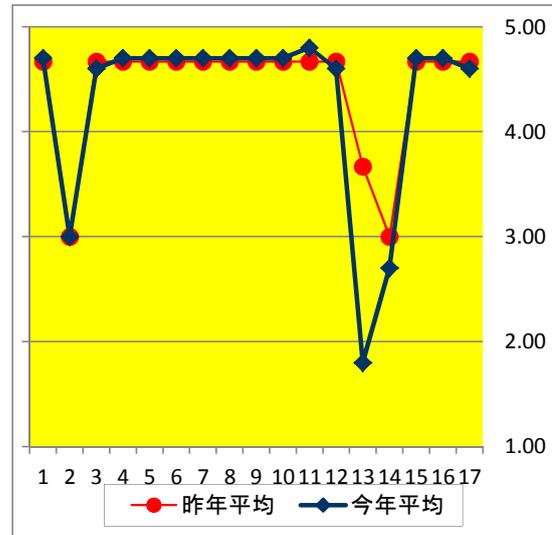
受講生は以前に単位不認定となった学生であり、講義の内容も受講生が初めて目にするものではない。そのことをある程度前提として、今年度の講義を工夫したところ、よい感触を得た。次年度も継続することにした。

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度の講義展開は全体的に良い感触を得た。次年度も継続することにした。

科目	上級財務会計論(B)		
配当年次	1	開講時限	秋火2
受講者数	10	回答者数	10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.70	5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.67	4.60	5	5	4
4	4.67	4.70	5	5	4
5	4.67	4.70	5	5	4
6	4.67	4.70	5	5	4
7	4.67	4.70	5	5	4
8	4.67	4.70	5	5	4
9	4.67	4.70	5	5	4
10	4.67	4.70	5	5	3
11	4.67	4.80	5	5	4
12	4.67	4.60	5	5	4
13	3.67	1.80	1	3	1
14	3.00	2.70	2	5	2
15	4.67	4.70	5	5	4
16	4.67	4.70	5	5	4
17	4.67	4.60	5	5	4
回答者数	3	10			



#### 受講生の傾向

目立つほどではないが、欠席が散見された。それを除けば、受講生が少ないこともあり、熱心に講義を聴いていた。また、学生の満足度は昨年より上昇している。しかし質問No.13/14、予習・復習の時間は昨年平均より低下しており、とくに予習時間は減っている。十分な予習で講義にのぞんでいないことがわかる。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義内容の中で特に重要性が高いところは、受講生ひとりひとりの反応を見つつ、全員が理解するように説明を強化した。また、終了した講義についてはその内容をしっかり理解するように努めた。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

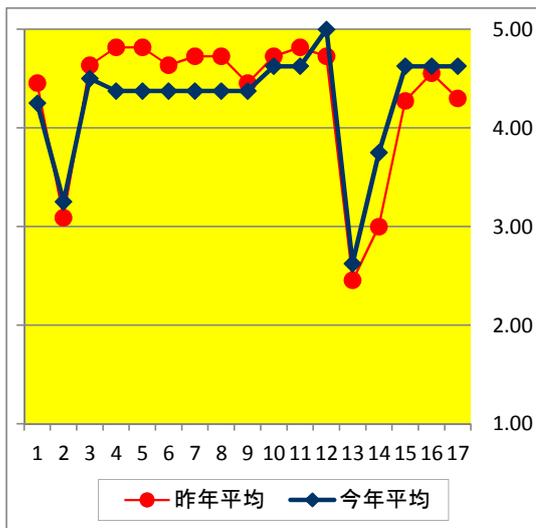
アンケート結果の多くの項目の平均値が「5」であることから、アンケート結果の信憑性に疑いがもたれるが、予習時間が増加したことは、事実であろう。そのため、予習すべき箇所の明記と予習問題を行うことを継続し、予習・復習の時間がより多くなるよう策を講じる。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

予習すべき箇所の明記を継続し、小テスト予習問題や復習問題については、出題形式を各回で変化させるなどの工夫を加え、予習・復習への動機付けを講じる。

科 目	上級原価計算論(B)		
配当年次	1	開講時限	秋月2
受講者数	9	回答者数	8

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.45	4.25	4	5	4
2	3.09	3.25	3	4	3
3	4.64	4.50	4・5	5	4
4	4.82	4.38	4	5	4
5	4.82	4.38	4	5	4
6	4.64	4.38	4	5	4
7	4.73	4.38	4	5	4
8	4.73	4.38	4	5	4
9	4.45	4.38	4	5	4
10	4.73	4.63	5	5	4
11	4.82	4.63	5	5	4
12	4.73	5.00	5	5	5
13	2.45	2.63	2	5	1
14	3.00	3.75	4	5	2
15	4.27	4.63	5	5	4
16	4.56	4.63	5	5	4
17	4.30	4.63	5	5	4
回答者数	11	8			



#### 受講生の傾向

昨年度と同様に原価計算について不得意な受講生が目立った。具体的には、基本的な工業簿記の勘定体系や製品原価計算(個別と総合、実際と標準)の区別を理解できていない受講生もいた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の傾向や今年度の動向をふまえて、基本的な事項についての説明に重点を置いた。すなわち、計算構造の基本的な流れや、部門別計算、製品別計算の種類などである。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

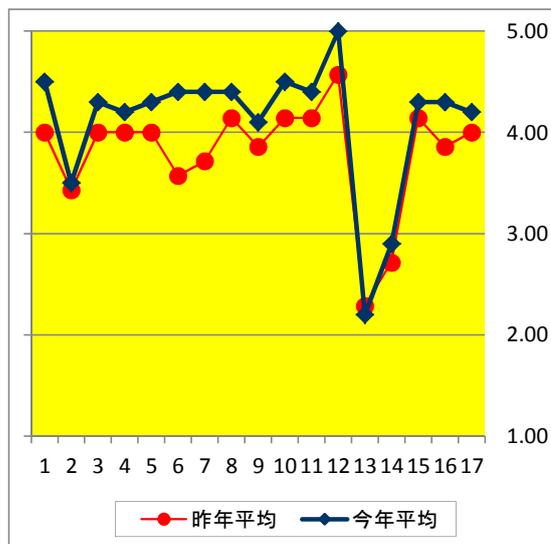
対象となる学生の習熟度に大きな差が見られない場合、特定の水準に焦点を絞って授業を組み立てた方が学生の授業の満足度が高くなることが理解できた。それゆえ、今回のクラスと同様のケースの場合には、原価計算の基本的な論点に重点を置いて授業を組み立てることにしたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

基本的な説明に重点を置いたが、アンケートの結果からも分かるように、今年度はその説明が幾分概念的であった可能性がある。そのため、今後は、計算問題の解説などに時間をとって受講生の理解を促進できるように努力していきたい。

科目	上級管理会計論(B)		
配当年次	1	開講時限	秋金2
受講者数	12	回答者数	10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.50	4・5	5	4
2	3.43	3.50	3	5	3
3	4.00	4.30	4	5	4
4	4.00	4.20	4・5	5	3
5	4.00	4.30	4	5	3
6	3.57	4.40	5	5	3
7	3.71	4.40	5	5	3
8	4.14	4.40	4	5	4
9	3.86	4.10	4	5	3
10	4.14	4.50	4・5	5	4
11	4.14	4.40	4	5	4
12	4.57	5.00	5	5	5
13	2.29	2.20	2	4	1
14	2.71	2.90	3	4	2
15	4.14	4.30	4	5	3
16	3.86	4.30	4	5	3
17	4.00	4.20	4・5	5	3
回答者数	7	10			



#### 受講生の傾向

受講生は全体的に、まじめに出席して課題に取り組んでいた。ただし、理解度については受講生ごとに差が大きかったと考えられる。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度における、「授業の進度がやや速い」および「予習と復習が少ない」という結果を受けて、説明を丁寧に行うことに留意する、また、予習および復習を行うように意識付けを行った。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

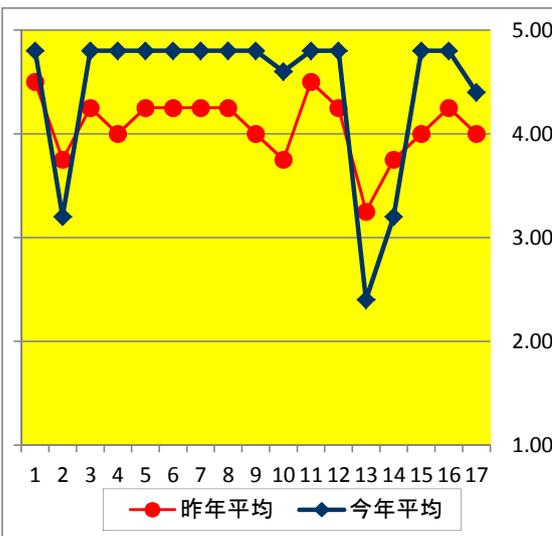
昨年度に比べて全般的な改善が見られたとはいえ、今後も検討の余地が残されている項目が複数あるため、さらに工夫を行うつもりである。特に、再履修科目であるにもかかわらず予習および復習の時間が十分ではない点については、意識付けをさらに行う必要性が高いと考えている。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

説明を丁寧に行うようになった点とともに、全体的なアンケート結果が改善したように見受けられる。ただし、授業進度および時間外学習に関するアンケート結果は昨年と同程度であったため、さらに別の観点からの工夫が必要であると考えられる。

科目	監査制度論(B)		
配当年次	1	開講時限	秋火3
受講者数	7	回答者数	5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.80	5	5	4
2	3.75	3.20	3	4	3
3	4.25	4.80	5	5	4
4	4.00	4.80	5	5	4
5	4.25	4.80	5	5	4
6	4.25	4.80	5	5	4
7	4.25	4.80	5	5	4
8	4.25	4.80	5	5	4
9	4.00	4.80	5	5	4
10	3.75	4.60	5	5	3
11	4.50	4.80	5	5	4
12	4.25	4.80	5	5	4
13	3.25	2.40	1	5	1
14	3.75	3.20	3	5	2
15	4.00	4.80	5	5	4
16	4.25	4.80	5	5	4
17	4.00	4.40	4	5	4
回答者数	4	5			



#### 受講生の傾向

基本科目(必修科目)群に属するという関係上、受講生の出席率(質問No.12)は90%となっており、かなり高い出席率であり春学期と同様に勉学に対する意欲が相対的に高いように解される。しかし上記アンケート結果より、授業に対する予習時間(質問No.13)は昨年度より減少しており、復習時間も減少している(質問No.14)。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本年度は、会計士協会による実務指針の大幅改正があったため、協会から取り寄せた資料を春学期と同様に全員に配布した。また改正箇所などについて追加的なパワーポイントによるスライドを用意し、監査制度に関する重要論点を確実に講義の中で押さえるようにした。スライドの最後には、従来通り受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するための参考文献を列挙した。これら配布用の資料は、関西大学インフォメーション・システムに授業当日中にアップロードし、WEB配信を前提とした学生の復習に役立つように配慮した。授業が2回終了するごとに、前2回分の理解度を確認するとともに、復習を動機付けるために小テストを授業時間の最初15分程度で実施し、添削後、返却した。また優秀答案を氏名を伏せた上で全員に配布し解説を加えた。最終的に、小テスト実施→添削→返却(講評)を繰り返すことで、各自にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるように、昨年と春学期以上に心懸けた。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

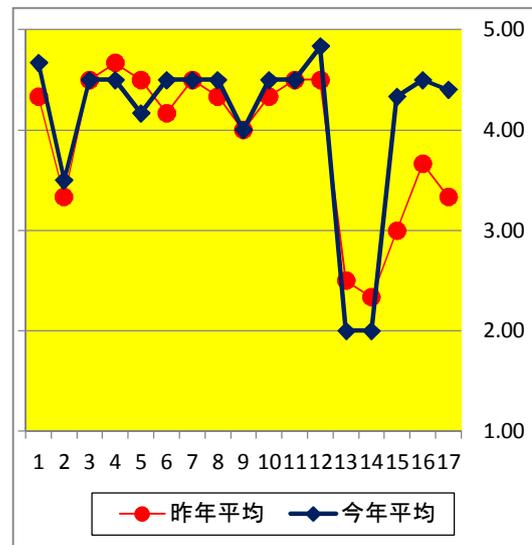
復習課題の任意提出は、秋学期は全くなかった。この原因としては、秋学期開講のクラスBの履修生が一桁と相対的に少ないため、それに対応した措置が今後必要になると思われる。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

復習課題の任意提出は、今秋学期も全くなかったが、クラスB履修生が極めて少ないため、授業後の質疑応答時間で疑問点を解決するようにしたい。

科目	監査基準(B)		
配当年次	1	開講時限	秋水2
受講者数	7	回答者数	6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	4.67	5	5	4
2	3.33	3.50	3	5	3
3	4.50	4.50	4・5	5	4
4	4.67	4.50	4・5	5	4
5	4.50	4.17	4	5	3
6	4.17	4.50	4・5	5	4
7	4.50	4.50	4・5	5	4
8	4.33	4.50	5	5	3
9	4.00	4.00	3・4・5	5	3
10	4.33	4.50	4・5	5	4
11	4.50	4.50	4・5	5	4
12	4.50	4.83	5	5	4
13	2.50	2.00	2	3	1
14	2.33	2.00	2	2	2
15	3.00	4.33	5	5	3
16	3.67	4.50	4・5	5	4
17	3.33	4.40	4	5	4
回答者数	6	6			



#### 受講生の傾向

授業の内容をよく理解している者とそうでない者との差が激しいように感じられた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

各回の授業前に監査基準委員会報告書の該当箇所を示して、事前に読んでくるように指示した。そうすることで、学習時間を確保するとともに、監査基準全体についての理解が深まることを期待した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

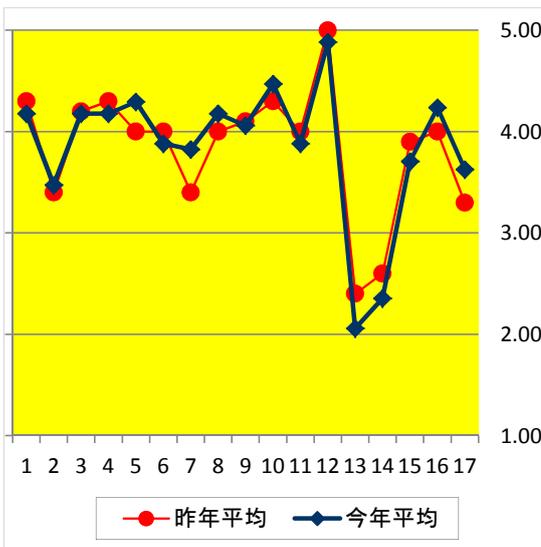
講義にあたっては、ポイントを整理して、理解すべき事項を体系的に示すことに重点を置きたい。受講生の理解度を把握しながら講義をすすめられるような工夫をしたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

授業内容にメリハリをつけて、最低限押さえてもらいたいポイントを明らかにして、全員がテストで及第点がとれるようにもっていきたい。学習ポイントを事前に示して事前学習を徹底させたい。

科目	会計制度論		
配当年次	1	開講時限	秋月4
受講者数	18	回答者数	17

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.30	4.18	5	5	3
2	3.40	3.47	3	5	3
3	4.20	4.18	4	5	3
4	4.30	4.18	5	5	2
5	4.00	4.29	5	5	3
6	4.00	3.88	4	5	2
7	3.40	3.82	4	5	2
8	4.00	4.18	4・5	5	2
9	4.10	4.06	4・5	5	3
10	4.30	4.47	5	5	3
11	4.00	3.88	5	5	2
12	5.00	4.88	5	5	4
13	2.40	2.06	1	5	1
14	2.60	2.35	2	5	1
15	3.90	3.71	5	5	1
16	4.00	4.24	5	5	2
17	3.30	3.63	5	5	1
回答者数	10	17			



#### 受講生の傾向

昨年とほぼ同じ傾向が見て取れる。今年度は受講態度が良好で、熱心に聴いているので、質問もしやすく、毎回1人2度ずつ質問して回った。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

前回の強制方式をとりやめ、ていねいに1人ずつ理解度を確認するように質問した。中間試験は暗記方式で100問出題し、正答率が90%を超えていた。期末試験は記述方式にしたが、こちらは答案に大きな格差が出た。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

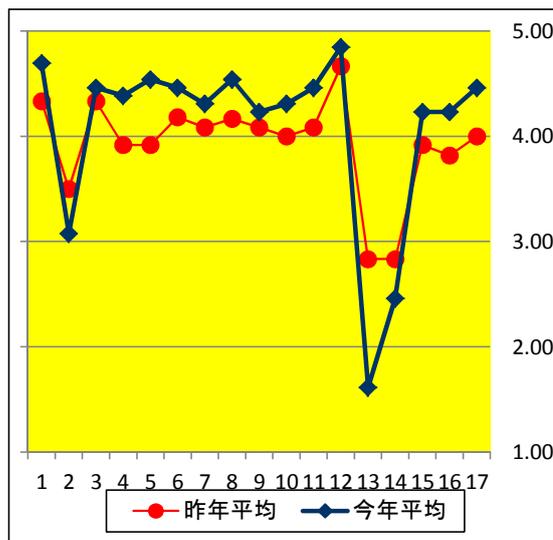
効果が出ている昨年度的方式(復習確認型試験による復習重視の学習)を踏襲したが、復習を強制する度合いが低くなり、復習にかかる時間が一昨年並みに戻ったことが確認できる。つまり復習重視型の講義方式にしても、復習を強制する(毎回試験をするなど)程度に問題があることが確認できた。そこで、次年度は、その強制力を強化する。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

記述試験の結果をみると、もう少し、記述の練習を取り込んだ訓練が必要に思える。次年度はそのような工夫を加えたい。

科目	財表作成簿記		
配当年次	1	開講時限	秋木3
受講者数	16	回答者数	13

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	4.69	5	5	4
2	3.50	3.08	3	4	3
3	4.33	4.46	4	5	4
4	3.92	4.38	4	5	3
5	3.92	4.54	5	5	4
6	4.18	4.46	4	5	4
7	4.08	4.31	5	5	3
8	4.17	4.54	5	5	3
9	4.08	4.23	4	5	3
10	4.00	4.31	4	5	3
11	4.08	4.46	5	5	3
12	4.67	4.85	5	5	4
13	2.83	1.62	1	3	1
14	2.83	2.46	2	4	1
15	3.92	4.23	4	5	3
16	3.82	4.23	4	5	3
17	4.00	4.46	4	5	4
回答者数	12	13			



#### 受講生の傾向

上級簿記の単位を修得している受講生が多く、簿記の習熟度は全体的に高い状況であった。受講生同士で疑問点を解消し合ったり、分からない部分や理解が不安な部分は講義中に質問するなど、積極的な受講生もいた。連結財務諸表を作成する場面になると、計算問題としては解けるが、仕訳として示すことは難しい様子であった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義資料として、説明用のパワーポイント、基本例題、確認問題を配布し、重要な論点を優先的かつ反復的に取り扱うことで知識の定着が図られるようにした。講義中の説明は、テクニカルな解法ではなく、簿記一巡の手続や原理・原則に従って説明することを心がけた。問題演習の時間は基本例題を中心に解いてもらい、一人ずつ個別に理解を確認して回った。確認問題は宿題とすることが多く、講義内容の理解と復習を促した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

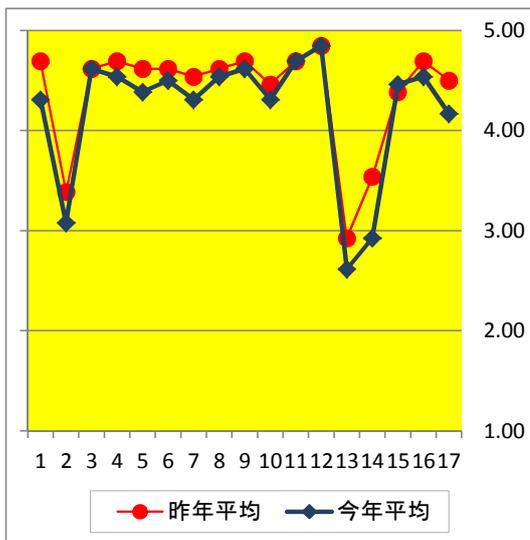
問題演習の時間は、基本例題を中心に解いてもらい、確認問題は宿題とすることが多かった。受講人数が少ないこともあって、問題演習の時間は一人ずつ個別に対応することができ、よい感触を得た。次年度も継続することにした。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度の講義展開は全体的に良い感触を得た。次年度も継続することにした。

科目	戦略管理会計論		
配当年次	1	開講時限	秋金3
受講者数	18	回答者数	13

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.69	4.31	4	5	3
2	3.38	3.08	3	4	3
3	4.62	4.62	5	5	4
4	4.69	4.54	5	5	3
5	4.62	4.38	5	5	2
6	4.62	4.50	4・5	5	4
7	4.54	4.31	4	5	4
8	4.62	4.54	5	5	4
9	4.69	4.62	5	5	4
10	4.46	4.31	4	5	3
11	4.69	4.69	5	5	3
12	4.85	4.85	5	5	4
13	2.92	2.62	3	5	1
14	3.54	2.92	3	4	2
15	4.38	4.46	5	5	2
16	4.69	4.54	5	5	4
17	4.50	4.17	4	5	2
回答者数	13	13			



#### 受講生の傾向

受講生が持つ管理会計の知識が、昨年に比べてばらついてきた。そのため、管理会計の最近のトピック(ツールなど)を先に解説し、そのあとで、管理会計の理論についての解説を行った。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の経験をふまえて、学習するトピックにかかわるポイントを前もって指摘するよう工夫した。また、授業中においても重要と思われるポイントを繰り返すように心がけた。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

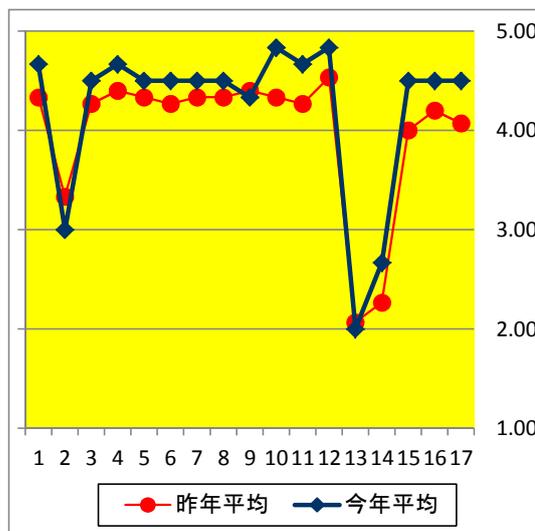
昨年と比べて管理会計に対して知識を持つ学生の割合が相対的に多かったにもかかわらず、昨年度と同様におおむね良好な評価であったことから、授業において学習する種々の管理会計ツールや、そこで指示する文献について、前もってポイントをいくつか指摘するように心がけたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後も受講生の理解を促進するよう取り組んでいきたい。また、管理会計については、新たなトピックがここ5年でも新たに登場していることから、そのキャッチアップについても着手していく予定である。

科目	租税法会計論		
配当年次	1	開講時限	秋木3
受講者数	6	回答者数	6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	4.67	5	5	4
2	3.33	3.00	3	3	3
3	4.27	4.50	4・5	5	4
4	4.40	4.67	5	5	4
5	4.33	4.50	4・5	5	4
6	4.27	4.50	4・5	5	4
7	4.33	4.50	4・5	5	4
8	4.33	4.50	5	5	3
9	4.40	4.33	4	5	4
10	4.33	4.83	5	5	4
11	4.27	4.67	5	5	4
12	4.53	4.83	5	5	4
13	2.07	2.00	2	3	1
14	2.27	2.67	3	3	2
15	4.00	4.50	4・5	5	4
16	4.20	4.50	4・5	5	4
17	4.07	4.50	4・5	5	4
回答者数	15	6			



#### 受講生の傾向

受講者数は昨年より半減したが、非常に熱心に取り組む受講生が大半であった。復習時間の増加(質問No.14)からわかるように、今年度の受講生は予習よりも復習に重点を置くタイプが多かったようである。これは、講義の中盤と最終回にテストを置き、それに向けた学習をした結果と考えられる。また、今年度の受講生の半数は、税務会計の既習者であった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

予習時間に比べ、復習時間が少なかったことに対応して、講義スケジュールにテストを2回設定した。また、到達すべきレベルを意識させるため、過去の公認会計士試験で出題された問題を講義レジュメに掲載し、講義内に解答させるようにした。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

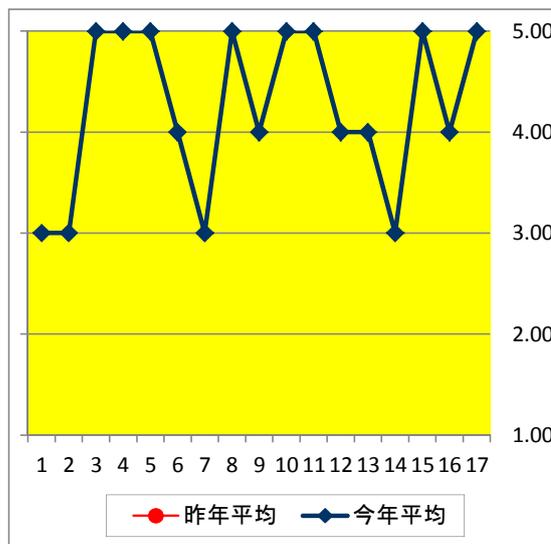
税務会計の全体の学習範囲として、この2年間、法人税法と消費税法のみを取り扱ってきた。しかし、直近の公認会計士試験をみると、一定レベルの所得税法の問題が課されるようになってきている。そこで、春学期開講の「上級税務会計論」と連係させて、これら三法をまんべんなく学習できるよう、学習範囲及び科目間の分担範囲を見直す。「上級税務会計論」は法人税法を、「租税法会計論」は所得税法と消費税法を取り扱う。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の自宅学習時間をもっと増やす仕組みが必要である。その方法の1つとして、今年度のようにテストを2回実施することに加え、さらに2回、到達度を確認するための小テストを追加実施することを検討したい。

科目	公会計理論		
配当年次	1	開講時限	秋火4
受講者数	1	回答者数	1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	3.00	3	3	3
2	—	3.00	3	3	3
3	—	5.00	5	5	5
4	—	5.00	5	5	5
5	—	5.00	5	5	5
6	—	4.00	4	4	4
7	—	3.00	3	3	3
8	—	5.00	5	5	5
9	—	4.00	4	4	4
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	4.00	4	4	4
13	—	4.00	4	4	4
14	—	3.00	3	3	3
15	—	5.00	5	5	5
16	—	4.00	4	4	4
17	—	5.00	5	5	5
回答者数	—	1			



#### 受講生の傾向

受講生が1人なので、個人の傾向となる。同君は熱心ではあるが、なかなか意見を形成できない。そのため、シラバス通りに進めることに変えて、学んだ内容に対してどのように自己の意見を形成するか多くの時間を費やした。その結果、最後の5回ほどはようやく自分の意見をまとめて発表できるようになった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生が1人のときは、相手に合わせて講義するというメリットが得られる反面、シラバス通りに淡々と進めることはできない。そのメリットを追求するため、進度を遅らせても、理解させることを優先させた。

#### 今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

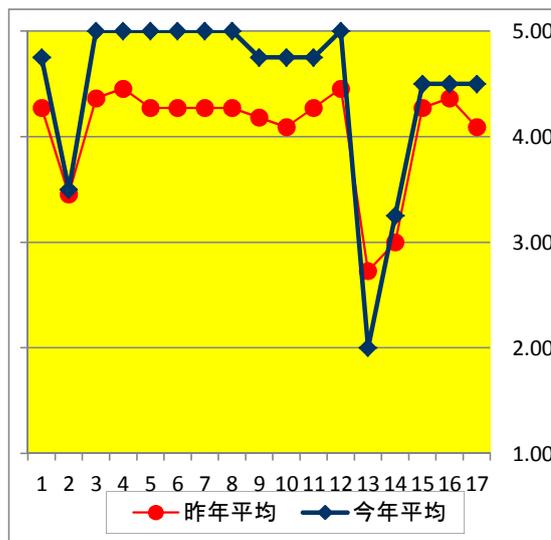
該当なし(授業担任者変更)

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

人数に依存すると思う。5名程度までだと、講義中に立ち止りつつ個々の受講生の理解度を確認することは可能であるが、それ以上20名程度までならば、簡単な質問をするという方式にかわる。それを超えると宿題などによる確認となる。ここ数年の傾向では数名程度の受講が続いているので、公会計の根幹にかかわる問題の理解度を確認しながら授業を進めることが可能なので、そのようにしたい。

科目	監査報告論		
配当年次	1	開講時限	秋金2
受講者数	7	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.27	4.75	5	5	4
2	3.45	3.50	3	5	3
3	4.36	5.00	5	5	5
4	4.45	5.00	5	5	5
5	4.27	5.00	5	5	5
6	4.27	5.00	5	5	5
7	4.27	5.00	5	5	5
8	4.27	5.00	5	5	5
9	4.18	4.75	5	5	4
10	4.09	4.75	5	5	4
11	4.27	4.75	5	5	4
12	4.45	5.00	5	5	5
13	2.73	2.00	2	3	1
14	3.00	3.25	3	5	2
15	4.27	4.50	5	5	3
16	4.36	4.50	5	5	3
17	4.09	4.50	5	5	3
回答者数	11	4			



#### 受講生の傾向

選択科目である本科目について、受講生の出席状況(質問No.12)は100%を確保しており、去年実績に比して極めて高い出席率となっており、受講生のモラルも去年に比べて相対的に高くなっている。予習時間(質問No.13)が去年に比して減少しているものの、若干の復習時間(質問No.14)の増加が見られ、復習確認テストの効果かもしれない。しかし、公認会計士試験に直接関係する重要科目であるにもかかわらず、受講者数が減少している。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度、実務指針の大幅改訂があったため、毎回、パワーポイントによるスライドを追加的に用意・配布するとともに、必要に応じて実務指針・意見書等を配布した。またスライドの最後には、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するために必要となる参考文献を列挙した。さらにこれら配布資料の全ては、授業当日中に関西大学インフォメーション・システムにアップロードし、WEB配信を前提とした復習に役立つよう配慮した。前2回分の理解度を確保するための小テストを授業時間の最初に20分程度で実施し、添削して返却すると同時に、成績優秀者数名の答案を氏名と学籍番号を伏せた上で、コピーし全員に配布した。さらに返却時に講評を行なうことで、各自にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるよう心懸けた。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

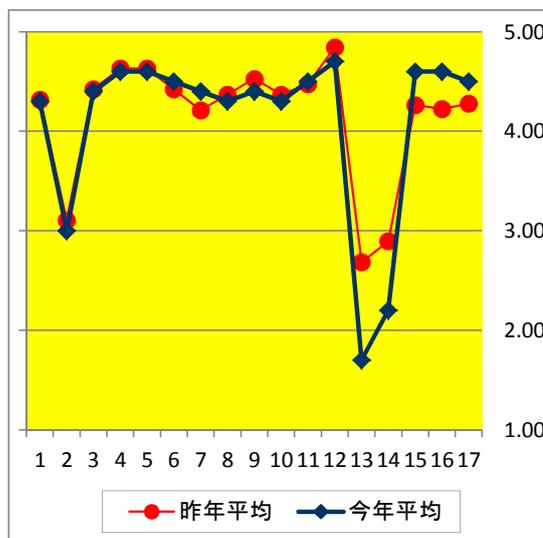
学生の履修動向を反映する配当時限及び小テストの実施方法を改善する。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

配当時限を2限に変更することで受講しやすさを確保するとともに、小テストの対象範囲を前2回分としたことで、復習課題を適時かつ効果的に実施できるように配慮する必要がある。

科目	会社法(中級会社法)		
配当年次	1	開講時限	秋月2
受講者数	12	回答者数	10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.32	4.30	5	5	3
2	3.11	3.00	3	4	2
3	4.42	4.40	4	5	4
4	4.63	4.60	5	5	4
5	4.63	4.60	5	5	4
6	4.42	4.50	4・5	5	4
7	4.21	4.40	4	5	4
8	4.37	4.30	4	5	3
9	4.53	4.40	5	5	3
10	4.37	4.30	4	5	3
11	4.47	4.50	5	5	3
12	4.84	4.70	5	5	3
13	2.68	1.70	1	3	1
14	2.89	2.20	2	4	1
15	4.26	4.60	5	5	4
16	4.22	4.60	5	5	4
17	4.28	4.50	4・5	5	4
回答者数	19	10			



#### 受講生の傾向

会社法は発展科目という位置づけであるが、公認会計士の試験科目ということもあり、受講生は比較的多かった。そういう事情もあってか、多くの学生は毎回出席し、かつまじめに授業に取り組んでおり、学習意欲および理解度についてもおおむね良好であった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

「会社法」は、「企業法」という科目から内容的に継続する科目であるので、その基礎となる「企業法」の復習を行いながら、授業を進めた。また、「会社法」は、公認会計士試験対策という点を考えても、非常に分量が多いので、「会社法」に無理してすべての分量を詰め込むのではなく、扱わなかった部分を、継続する「上級会社法」(2年春学期)で扱うこととして、学生が消化不良となるのを避けた。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

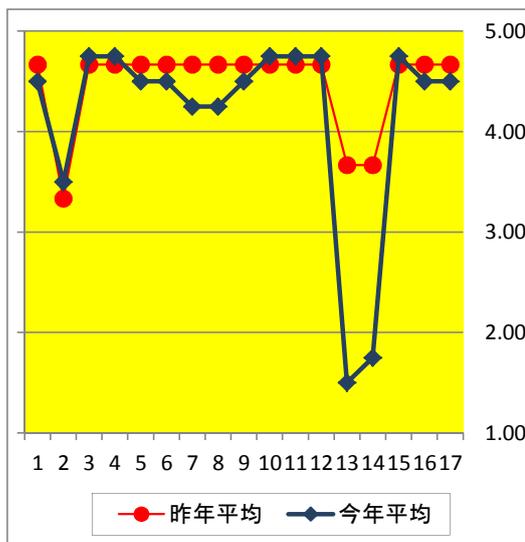
学生の理解度を見る限りにおいては、中級会社法はやや難しいようである。2年次に上級会社法という授業があることを配慮して、中級会社法では理解が中途半端にならないよう、もう少し基本的な部分を重点に取り扱いたいと思う。企業法で学習したことを定着させ、さらに会社法に関する一通りの重要な点について理解させるよう心がけたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度と同様、会社法を分量的に消化するというよりも、学生の理解度を最優先にして授業を進めていきたい。特に、「企業法」の復習部分は簡略にして、かつじっくりとした時間のかかる部分はむしろ「上級会社法」で扱うこととして、会社法で収まる範囲を十分に学生に理解してもらうことを第一の目標としたい。

科目	コーポレート・ファイナンス論		
配当年次	1	開講時限	秋木2
受講者数	7	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.50	4	5	4
2	3.33	3.50	3	5	3
3	4.67	4.75	5	5	4
4	4.67	4.75	5	5	4
5	4.67	4.50	5	5	3
6	4.67	4.50	5	5	3
7	4.67	4.25	5	5	2
8	4.67	4.25	5	5	2
9	4.67	4.50	4	5	4
10	4.67	4.75	5	5	4
11	4.67	4.75	5	5	4
12	4.67	4.75	5	5	4
13	3.67	1.50	1	2	1
14	3.67	1.75	2	2	1
15	4.67	4.75	5	5	4
16	4.67	4.50	5	5	3
17	4.67	4.50	4	5	4
回答者数	3	4			



#### 受講生の傾向

公認会計士試験の論文試験合格者や短答式合格者を含め、公認会計士試験受験経験者が多く集まり、非常にレベルの高い学生が多かった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

1回あたりの内容をできる限り均一にして、復習をしやすいようにした。今回は、数学が苦手という学生はそれほど多くなかったが、できる限り考え方を説明するようにした。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

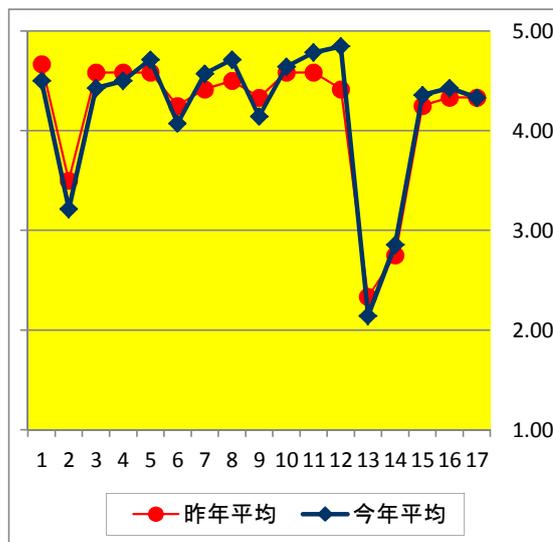
当科目はファイナンス科目であり、基本的に数学が必要である。しかし、受講生には数学が得意な学生も苦手な学生もいるため、数学が苦手な学生には考え方を教授する等、学生の資質を見ながら対応したい。さらに、「証券アナリスト基礎講座」の受講と資格取得を勧めて、体系的な学習と成功体験からの学習意欲の増大を図りたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今回同様、学生のバックグラウンドを意識して、理解しやすいことと、公認会計士試験に役立つように工夫する。さらに、「証券アナリスト試験基礎講座」の受講と資格取得を勧めて、体系的な学習と成功体験からの学習意欲の増大を図りたい。

科目	ミクロ経済学		
配当年次	1	開講時限	秋土2
受講者数	15	回答者数	14

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.50	4	5	4
2	3.50	3.21	4	5	2
3	4.58	4.43	4	5	4
4	4.58	4.50	4	5	4
5	4.58	4.71	4	5	4
6	4.25	4.07	4	5	3
7	4.42	4.57	5	5	4
8	4.50	4.71	4	5	4
9	4.33	4.14	4	5	3
10	4.58	4.64	5	5	4
11	4.58	4.79	5	5	4
12	4.42	4.85	5	5	4
13	2.33	2.14	1	5	1
14	2.75	2.86	2	5	1
15	4.25	4.36	4	5	3
16	4.33	4.43	4	5	4
17	4.33	4.33	4	5	4
回答者数	12	14			



#### 受講生の傾向

今年度の受講生の傾向としては、やや基礎学力が低下していると思われた。それは、学部時代に経済学を受講してきていなかったり、受講していてもあまり授業内容を記憶していなかった受講生が多かったからであったと思われる。ただ、受講態度は熱心であったので、講義全体を受講した後は、学力はかなり向上したと考えている。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生の傾向は、前述のようにやや基礎学力が低下していると感じられたので、昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、さらに一層基礎的なミクロ経済学の講義からスタートして、徐々に講義のレベルを上げて、学力をつけていくように工夫した。途中で理解しているかどうかをチェックするために、小テストも実施した。その結果、受講生は講義全体が終了した後では、かなりの学力を身につけることができたと考えている。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

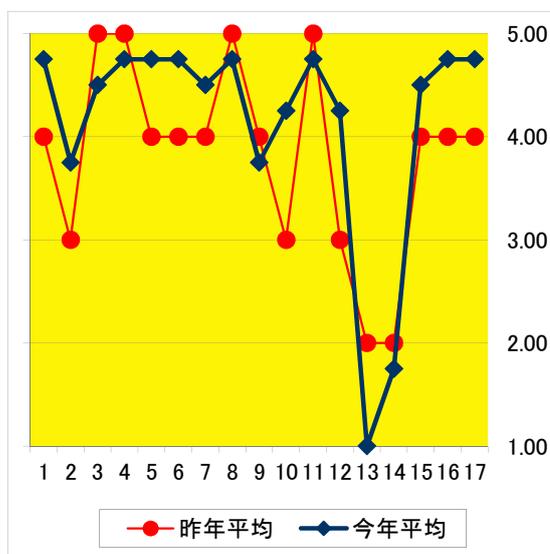
難易度の高い授業や問題を解くよりも、基礎的な内容の授業や問題を取り扱うように工夫したいと考えている。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

授業では、難易度の高い講義や練習問題を解くよりも、まず基礎学力をつけるために、理解しやすい内容からスタートすることが大切であると考えている。

科目	統計学		
配当年次	2	開講時限	秋水3
受講者数	5	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.75	5	5	4
2	3.00	3.75	3	5	3
3	5.00	4.50	4・5	5	4
4	5.00	4.75	5	5	4
5	4.00	4.75	5	5	4
6	4.00	4.75	5	5	4
7	4.00	4.50	4・5	5	4
8	5.00	4.75	5	5	4
9	4.00	3.75	3	5	3
10	3.00	4.25	5	5	3
11	5.00	4.75	5	5	4
12	3.00	4.25	5	5	3
13	2.00	1.00	1	1	1
14	2.00	1.75	2	2	1
15	4.00	4.50	4・5	5	4
16	4.00	4.75	5	5	4
17	4.00	4.75	5	5	4
回答者数	1	4			



#### 受講生の傾向

昨年度とほとんど差がない結果となった。単に、昨年度は1人の回答、今年度は4人の回答になったというだけだ。毎回出席が1名、ほぼ毎回が1名、あとの3名はときどき欠席したので、統計学のような講義では、深いところまでの理解がむずかしかったと思われる。毎回、あるいはほぼ毎回出席していた2名の授業理解度は高かったと思う。他の3名についても、現実の統計データを提示する部分をできるだけ増やしたので、出席した回には、それなりに知識を得たのではないかと感じた。出席すれば真面目に聴講してくれて、質疑もある程度は成立していた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度、毎回出席していた聴講の学生が、理論的基礎の学習を希望していたのに対し、今年度の受講生はみな、できるだけ現実のデータを題材にして実践的な分析をしながら学ぶことを望んだので、昨年度のアンケートは今回の講義でほとんど参考にならなかった。ただし、昨年度の学生評価はまずまずで、その理由のひとつは、少人数であることを活かし、学生の要望を確認しながら講義で使う題材を修正したことにあると思ったので、今年度もその方針を継続した。毎回、受講生に次回講義に望むことを確認しながら進行してきた。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

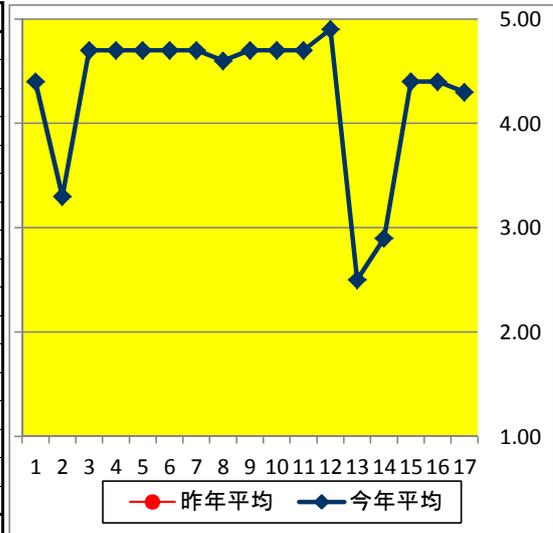
受講生の人数と個人的な都合のために、変則的な講義となったが、毎回出席していた聴講学生の反応はよかったので、来年度も基本的に同じ構成で講義をすることにしたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

来年度も基本的に同じ構成で講義を行い、そのなかで、できるだけ現実の統計データを題材に取り上げようと思うが、他方で、また少人数講義になることが予想される科目なので、受講生の希望を毎回確認しながら、題材などの工夫をその場で行っていきたいと考える。

科目	国際会計基準論		
配当年次	1	開講時限	秋月4
受講者数	—	回答者数	10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.40	5	5	3
2	—	3.30	3	4	3
3	—	4.70	5	5	4
4	—	4.70	5	5	4
5	—	4.70	5	5	4
6	—	4.70	5	5	4
7	—	4.70	5	5	4
8	—	4.60	5	5	4
9	—	4.70	5	5	4
10	—	4.70	5	5	4
11	—	4.70	5	5	4
12	—	4.90	5	5	4
13	—	2.50	3	5	1
14	—	2.90	3	3	2
15	—	4.40	4	5	4
16	—	4.40	4	5	4
17	—	4.30	4	5	3
回答者数	—	10			



#### 受講生の傾向

2年次生であるため、就職活動との関係で欠席する場合が見られたが、それを除き、すべての学生がほぼ全回出席している。また、受講態度は概ね熱心であった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は担当していないため、昨年度の授業評価アンケートを踏まえたわけではないが、以下のことを工夫した。講義資料の事前配付。ポイントとなる部分の重点説明。関連内容の詳細説明。復習テスト(小テスト)の実施。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

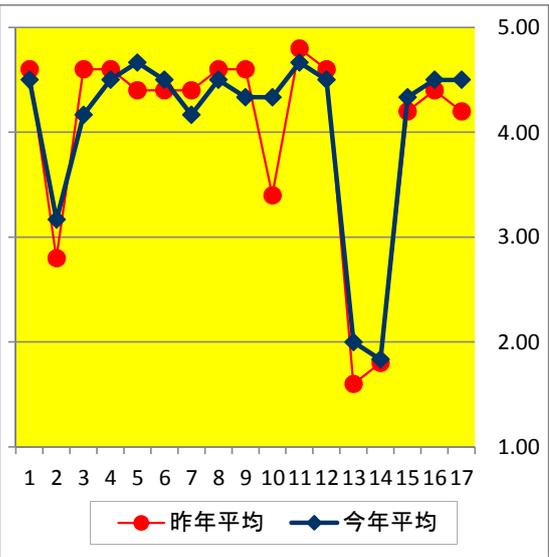
該当なし(授業担任者変更)

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義資料の事前配付だけでなく、講義内容の理解を深めるため、講義において掲示する資料を、よりわかりやすくし、同時に基準本文への参照を受講生自ら行えるような工夫を講じるつもりである。

科目	コストマネジメント論		
配当年次	2	開講時限	秋木3
受講者数	7	回答者数	6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.60	4.50	4・5	5	4
2	2.80	3.17	3	4	3
3	4.60	4.17	5	5	3
4	4.60	4.50	4・5	5	4
5	4.40	4.67	5	5	4
6	4.40	4.50	4・5	5	4
7	4.40	4.17	5	5	3
8	4.60	4.50	4・5	5	4
9	4.60	4.33	5	5	3
10	3.40	4.33	5	5	2
11	4.80	4.67	5	5	4
12	4.60	4.50	4・5	5	4
13	1.60	2.00	1	5	1
14	1.80	1.83	1	3	1
15	4.20	4.33	5	5	3
16	4.40	4.50	4・5	5	4
17	4.20	4.50	4・5	5	4
回答者数	5	6			



#### 受講生の傾向

比較的まじめな受講生が多かった。ただし、一部に遅刻および欠席が目立つ受講生も見受けられた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業の進度がやや遅めであったという昨年度の結果を受けて、スライドを活用するなどの工夫を行った。また、授業時間外に考える必要のあるレポート課題になるように留意した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

全般的な数字は改善傾向にあるといえるが、アンケート結果より、各受講生に対して予習および復習の意識付けをすることができていない。そのため、今後は講義中と講義前後のそれぞれの段階における受講生が学習する時間配分の設計を再検討する必要があると考えている。また、それ以外の項目についても改善の余地を探索することが必要である。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

全般的な数字は昨年度と同程度であると認識している。そのため、今後は昨年度からの課題である自宅での学習を増やすための方法を工夫するとともに、スライド資料に伴う講義方法の不備を改善する必要があると考えている。

科目	租税法理論		
配当年次	2	開講時限	秋火4
受講者数	4	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.75	5	5	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.50	4・5	5	4
4	—	4.50	4・5	5	4
5	—	4.75	5	5	4
6	—	4.50	4・5	5	4
7	—	4.00	4	5	3
8	—	4.50	4・5	5	4
9	—	4.50	4・5	5	4
10	—	4.50	4・5	5	4
11	—	4.50	4・5	5	4
12	—	4.75	5	5	4
13	—	2.75	3	3	2
14	—	2.50	2・3	3	2
15	—	4.25	4	5	4
16	—	4.50	4・5	5	4
17	—	4.00	4	4	4
回答者数	—	4			



#### 受講生の傾向

受講生4名のうち、税法の既修者は2名、税務会計の既修者は1名、未修者は1名であった。毎回の講義で判例に関するレポートを提出させていたが、予習時間(質問No.13)をみると、1時間以内であった。租税判例は読みづらいものが多く、1時間以内で作成できるとは考えづらい。提出されたレポートに関する質疑応答で、受講生から芳しい回答が少なかったが、予習時間の少なさがその原因と考えられる。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

租税判例の結論を受講生に講義するだけでは、条文解釈力が上昇しないため、重要な租税判例を毎回レポートさせ、講義時に報告させた。また、それらの判例の理解を確認するため、それに関連した会計士試験の過去問を受講生に解かせた。なお、その解答の際、法規集を実際にめくらせて、根拠となる条文番号を明示して解答を書くよう指示した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

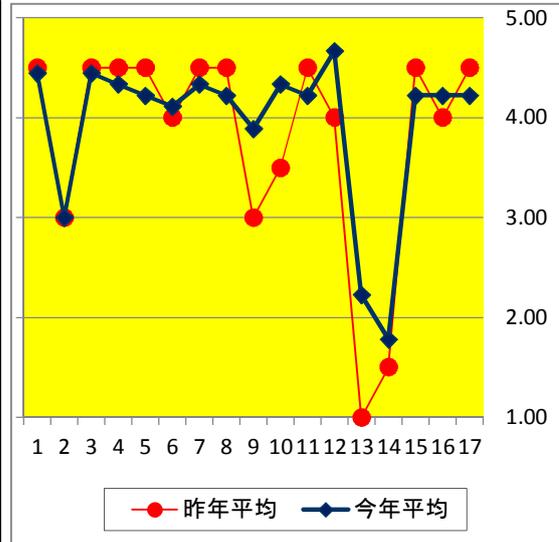
該当なし(授業担任者変更)

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の予習時間を増やすため、取り上げる租税判例の数を増やしてレポートを提出させることにする。また、本講義の内容は大きく、租税法総論、所得税法、消費税法から構成されているので、期末テスト以外に租税法総論と所得税法のパートが終了した段階で、到達度を確認するための小テストを実施する。

科目	監査事例研究		
配当年次	1	開講時限	秋水1
受講者数	11	回答者数	9

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.44	4	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.50	4.44	4	5	4
4	4.50	4.33	4	5	4
5	4.50	4.22	4	5	4
6	4.00	4.11	4	5	3
7	4.50	4.33	4	5	4
8	4.50	4.22	4	5	3
9	3.00	3.89	4	5	3
10	3.50	4.33	4・5	5	3
11	4.50	4.22	4	5	3
12	4.00	4.67	5	5	4
13	1.00	2.22	3	3	1
14	1.50	1.78	1	3	1
15	4.50	4.22	4	5	3
16	4.00	4.22	4	5	3
17	4.50	4.22	4	5	3
回答者数	2	9			



#### 受講生の傾向

概ねすべての受講生が授業に前向きに取り組んでくれていたと感じられた(ディスカッション等)。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

事前に次回学習する事項に関する資料を配布して、内容を明示した上で、予習してもらうように指示した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

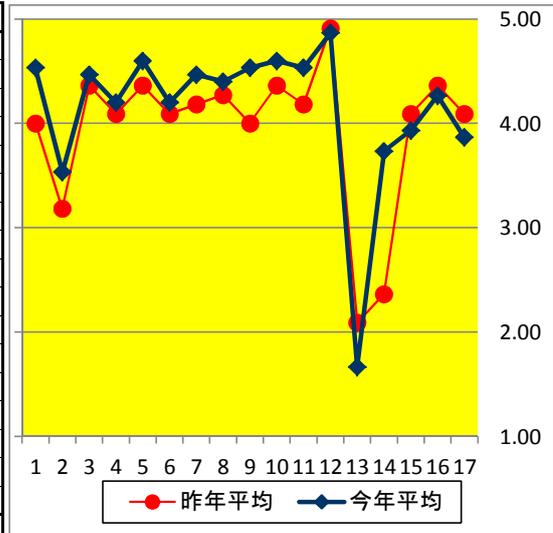
最大の問題は春学期の1時間目に講義を設定したことだと感じたので、次年度は「監査基準」を学習したことを前提に、秋学期に講義を行いたいと考えている。内容は今期と同様、実際の事例を取り入れながら、考える習慣が身につく授業を目指したい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

監査基準を勉強したことを前提に、秋学期に授業を開講したのはそれなりに意義があったと感じている。ディスカッションにはみな前向きに取り組んでくれたと思うので、事前にどれだけ学習して自分の考えを深めてもらうかが大切であることを促していきたい。

科目	基本会計プログラム演習		
配当年次	1	開講時限	秋火4
受講者数	16	回答者数	15

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.53	5	5	3
2	3.18	3.53	3	5	3
3	4.36	4.47	5	5	3
4	4.09	4.20	5	5	2
5	4.36	4.60	5	5	4
6	4.09	4.20	5	5	2
7	4.18	4.47	5	5	3
8	4.27	4.40	5	5	3
9	4.00	4.53	5	5	4
10	4.36	4.60	4	5	3
11	4.18	4.53	4	5	2
12	4.91	4.87	5	5	4
13	2.09	1.67	2	5	1
14	2.36	3.73	5	5	1
15	4.09	3.93	5	5	1
16	4.36	4.27	5	5	2
17	4.09	3.87	5	5	2
回答者数	11	15			



#### 受講生の傾向

概ね出席率が高いが、一部就職活動で欠席するケースがみられた。また、コンピュータ処理・操作への苦手意識が強い感じを受けた。それもあってと思われるが、講義の進捗度がやや早いと感じるようであった。予習・復習については、昨年度より予習時間は多くなっているが、一方で、復習時間が大幅に減少している。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度、教授する側として、講義内容が充分とは言い切れない部分を感じたため、講義速度を調整しつつ、講義密度を濃くしている。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

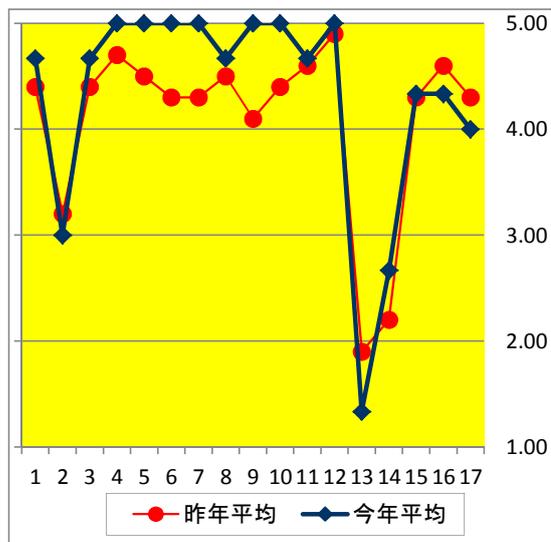
講義順序を変更し、学生の理解度に応じて講義速度を調整した結果、講義速度は学生にとってちょうどよいように感じられるようになったが、その分、教授する側として、講義内容が不十分に感じる部分も生じている。今後は、講義速度と学生の理解度とのバランスだけでなく、講義内容とのバランスにも留意したい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義内容や速度と学生の理解度とのバランスを考慮したつもりであるが、速度が速く感じたようであるので、講義順序を調整し、同内容・同密度で学生の理解度を維持しつつ、速度の維持も図るつもりである。

科目	基本監査プログラム演習		
配当年次	1	開講時限	秋金4
受講者数	3	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.40	4.67	5	5	4
2	3.20	3.00	3	3	3
3	4.40	4.67	5	5	4
4	4.70	5.00	5	5	5
5	4.50	5.00	5	5	5
6	4.30	5.00	5	5	5
7	4.30	5.00	5	5	5
8	4.50	4.67	5	5	4
9	4.10	5.00	5	5	5
10	4.40	5.00	5	5	5
11	4.60	4.67	5	5	4
12	4.90	5.00	5	5	5
13	1.90	1.33	1	2	1
14	2.20	2.67	3	3	2
15	4.30	4.33	5	5	3
16	4.60	4.33	5	5	3
17	4.30	4.00	3	5	3
回答者数	10	3			



#### 受講生の傾向

選択科目である本科目について、受講生の出席状況(質問No.12)は100%を確保しており、去年同様、極めて高い出席率となっており、受講生のモラルも去年に比べて相対的に高くなっている。演習という性質上、予習(質問No.13)よりも復習(質問No.14)の時間の確保が重要であり、今年度は去年より僅かながら復習時間の増加がみられる。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は監査実施に関する実務指針に関する大幅改訂があったため、当該改訂を反映したパワーポイントによるスライドと、必要に応じて監査基準や実務指針、意見書等を用意し、配布した上で、監査実施に関する重要論点を確実に講義の前半で押さえるようにした。このように前半においては、監査実施プロセスについてテキストに基づいて授業を行ない、後半に、監査プログラムを用いたコンピュータ監査を実体験させた。これら前半の資料については、授業の都度、関西大学インフォメーション・システムにアップロードし復習用に供した。前半に用いたスライドの最後には、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するために必要となる参考文献を列挙した。前半の講義で監査プログラムを動かすための基本的な用語や概念、内容を理解させたことで、後半の実践的なプログラム運用が効果的に行なえた。また従来通り、前半の授業段階では、各自の理解度を確認するために、質疑応答を導入し、回答回数に応じた成績評価を導入した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

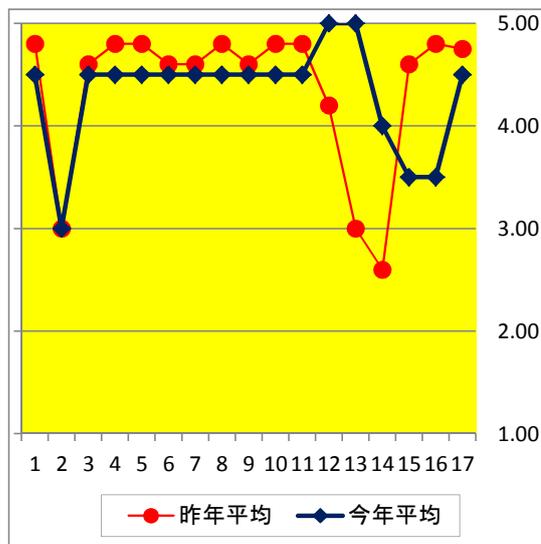
演習に用いる課題の早期確定と演習時間内での机間巡回指導をヨリ一層徹底し、学生参加型の演習時間を相対的に増やす。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

演習時間内での机間巡回指導をヨリ一層徹底したものの、学生の側に受身的な姿勢が目立つため、何故その手続や方法を選択すべきなのかに関する議論を含めた討議時間を増やす必要がある。

科目	ディスクロージャー実務		
配当年次	2	開講時限	秋木4
受講者数	4	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.80	4.50	4	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.60	4.50	4	5	4
4	4.80	4.50	4	5	4
5	4.80	4.50	4	5	4
6	4.60	4.50	4	5	4
7	4.60	4.50	4	5	4
8	4.80	4.50	4	5	4
9	4.60	4.50	4	5	4
10	4.80	4.50	4	5	4
11	4.80	4.50	4	5	4
12	4.20	5.00	5	5	5
13	3.00	5.00	5	5	5
14	2.60	4.00	3	5	3
15	4.60	3.50	3	4	3
16	4.80	3.50	3	4	3
17	4.75	4.50	4	5	4
回答者数	5	2			



#### 受講生の傾向

公認会計士受験者を含む比較的レベルの高い学生が多かった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

ディスクロージャーは会計だけの問題ではないことを、医療関係のディスクロージャーを中心に講義するとともに、会計上のディスクロージャーの異同について、基本的な考え方を議論させる等、考える授業を行った。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

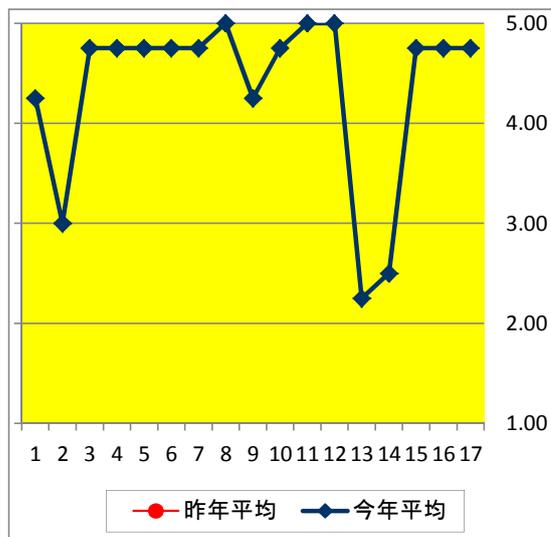
今回の方針(ディスクロージャーの基本的な考え方ならびに現状についてレポートさせてディスカッションさせる等、考える授業)で来年も行いたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今回の方針(ディスクロージャーは会計だけの問題ではないこと、会計上のディスクロージャーの異同について、基本的な考え方を議論させる等、考える授業)で来年も行いたい。

科目	ソリューション・イン・アカデミック(坂口クラス)		
配当年次	1	開講時限	秋月5
受講者数	4	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.25	5	5	3
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.75	5	5	4
4	—	4.75	5	5	4
5	—	4.75	5	5	4
6	—	4.75	5	5	4
7	—	4.75	5	5	4
8	—	5.00	5	5	5
9	—	4.25	5	5	3
10	—	4.75	5	5	4
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	2.25	3	3	1
14	—	2.50	2・3	3	2
15	—	4.75	5	5	4
16	—	4.75	5	5	4
17	—	4.75	5	5	4
回答者数	—	4			



#### 受講生の傾向

管理会計に興味を持った学生が多かった。しかしながら、基本的な知識の有無については受講生の間でばらつきが見られたため、最初は基本テーマについてのディスカッションからスタートした。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

最初は管理会計の基本テーマについてのディスカッションからスタートし、架空企業のケースに関するディスカッションへと、徐々に難易度をあげていった。また、授業の途中で重要概念などを適宜質問し、受講生の知識の習得を促進するよう工夫した。

#### 今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

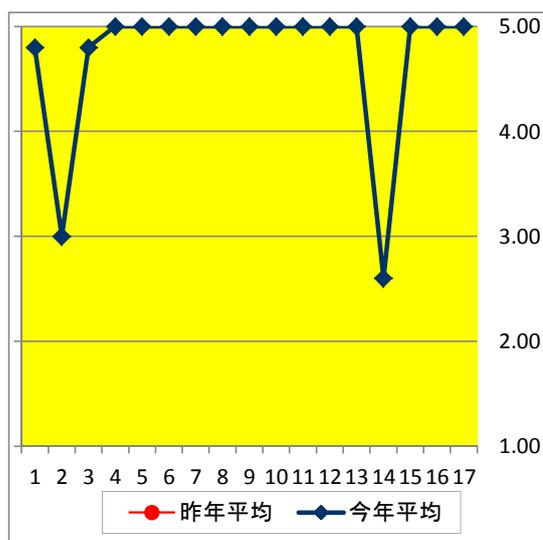
該当なし(今年度新設科目)

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後も、本年度の経験をふまえて、基本テーマや事例に関するディスカッションを行い、受講生の知識の習得とプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の向上に努力していきたい。

科目	ソリューション・イン・アカデミック(松本クラス)		
配当年次	1	開講時限	秋月5
受講者数	5	回答者数	5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.80	5	5	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.80	5	5	4
4	—	5.00	5	5	5
5	—	5.00	5	5	5
6	—	5.00	5	5	5
7	—	5.00	5	5	5
8	—	5.00	5	5	5
9	—	5.00	5	5	5
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	5.00	5	5	5
14	—	2.60	3	3	2
15	—	5.00	5	5	5
16	—	5.00	5	5	5
17	—	5.00	5	5	5
回答者数	—	5			



#### 受講生の傾向

受講生の授業参加度あるいは熱心度を測る出席率(質問No.12)において、100%を達成しているため、非常に熱心な受講生の傾向が見受けられる。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

財務会計に関する諸論点について、担当者個々が課題に対する分析・資料作成・プレゼンテーション・ディスカッションを行なえるように、複数の課題を事前に配布した。この結果、受講生も予習時間(質問No.13)にかなりの時間を割いていることが判る。

#### 今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

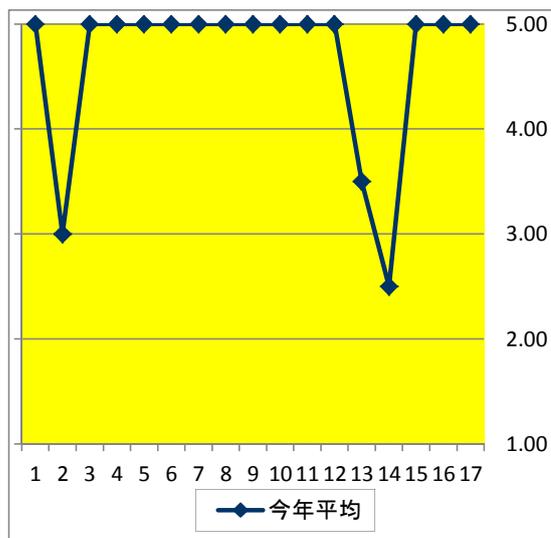
該当なし(今年度新設科目)

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

1年次秋学期より個別演習指導として設置した科目であるため、2年次個別演習で応用できるように、基本的なスキル獲得に特化しつつ、同時に専門知識の習得を心懸けねばならない。

科目	ソリューション・イン・アカデミック(三島クラス)		
配当年次	1	開講時限	秋月5
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	5.00	5	5	5
2	—	3.00	3	3	3
3	—	5.00	5	5	5
4	—	5.00	5	5	5
5	—	5.00	5	5	5
6	—	5.00	5	5	5
7	—	5.00	5	5	5
8	—	5.00	5	5	5
9	—	5.00	5	5	5
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	3.50	3	4	3
14	—	2.50	2	3	2
15	—	5.00	5	5	5
16	—	5.00	5	5	5
17	—	5.00	5	5	5
回答者数	—	2			



#### 受講生の傾向

受講生は2人ということもあり、ほとんど個人指導を行うことができた。ただ、2人ともほぼ同等の学力を有していたので、それぞれの学生に特別の配慮をするという必要もなかった。受講生は2人とも予習を行い、授業にもまじめに取り組んでいた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

ソリューションという演習科目であることから、この科目の前身であるアカデミック・ソリューションでの方法を踏襲し、対話を中心にし、かつ受講生に長く発言させる機会を与えた。アカデミック・ソリューションと同様に質問に対しても、単純な1行の解答ではなく、意義や趣旨、要件、効果等を織り交ぜて、単に暗記した内容を答えるというのではなく、自分が理解した内容を自分の言葉で解答することを求めた。これによって、自分の理解度を確認できるとともに、自らの理解を相手に伝える能力もまた身につけることができることを目指した。加えて、この授業を受けている学生は、講義科目(「企業法」等)も同時に履修しているので、これと関連させながら授業を行った。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

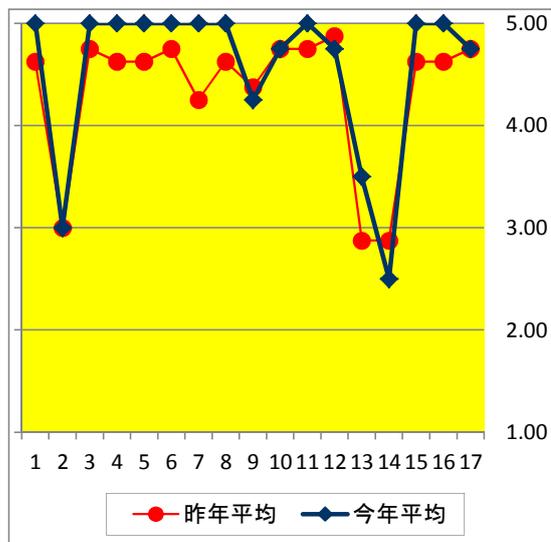
該当なし(今年度新設科目)

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今回の授業に関しては、教員と学生間における対話を中心に組み立てていたが、今後は、そのみならず、学生間における討論も積極的に行われるよう工夫したい。

科目	プロフェッショナル・ソリューションB(坂口クラス)		
配当年次	2	開講時限	秋金5
受講者数	6	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.63	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.75	5.00	5	5	5
4	4.63	5.00	5	5	5
5	4.63	5.00	5	5	5
6	4.75	5.00	5	5	5
7	4.25	5.00	5	5	5
8	4.63	5.00	5	5	5
9	4.38	4.25	5	5	3
10	4.75	4.75	5	5	4
11	4.75	5.00	5	5	5
12	4.88	4.75	5	5	4
13	2.88	3.50	3	5	3
14	2.88	2.50	2・3	3	2
15	4.63	5.00	5	5	5
16	4.63	5.00	5	5	5
17	4.75	4.75	5	5	4
回答者数	8	4			



#### 受講生の傾向

管理会計についての知識を十分に持っている学生で占められていた。そのため、基本テーマや事例によるディスカッションを超えて、議論を展開する必要があった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

基本テーマや事例によるディスカッションだけではなく、議論の背景にある経験的証拠、さらには、こうしたデータの抽出方法や分析方法についてディスカッションを行った。これにともない、データ整理の基本などの必要な知識を新たに学習した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

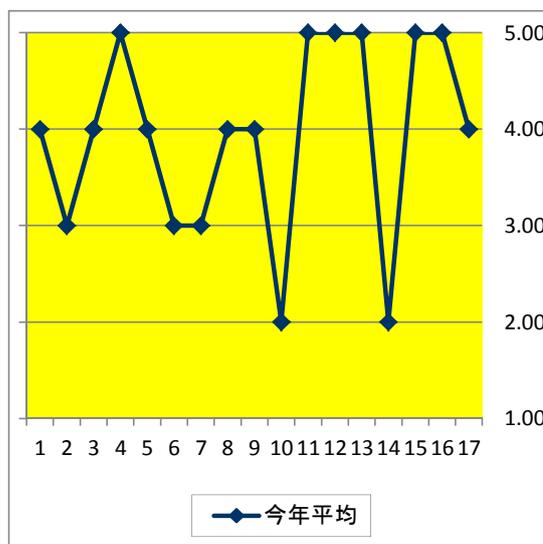
習熟度の差が大きくない場合でも、管理会計を学習する目的が大きく異なれば、クラスの運営上の工夫が必要であることを実感した。それゆえ、今後も、こうした事態に備えるべく、架空の企業のケース実際の企業のケースを基礎に、教員も能動的に参加してディスカッションを活性化していければと考えている。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

来年度以降はこの授業の担当を外れる予定である。しかしながら、この授業で経験した受講生の反応やニーズについては、他の授業で活用していこうと考えている。

科目	プロフェッショナル・ソリューションB(柴クラス)		
配当年次	2	開講時限	秋火5
受講者数	1	回答者数	1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.00	4	4	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.00	4	4	4
4	—	5.00	5	5	5
5	—	4.00	4	4	4
6	—	3.00	3	3	3
7	—	3.00	3	3	3
8	—	4.00	4	4	4
9	—	4.00	4	4	4
10	—	2.00	2	2	2
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	5.00	5	5	5
14	—	2.00	2	2	2
15	—	5.00	5	5	5
16	—	5.00	5	5	5
17	—	4.00	4	4	4
回答者数	—	1			



#### 受講生の傾向

受講生は1名なので、個人の傾向となる。口数は少ないが、与えた宿題はコツコツとこなしてきた。また、受講生個人の独創的な工夫も見られた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

企業の経営分析を行った。EOL等でデータを調べたうえで、エクセルなどで図表を作成するという方法を一般的に採用した。それを印刷しないで、ドロップボックスに投入させ、講義時間内には、パソコンやタブレットで閲覧して議論を深めた。

#### 今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

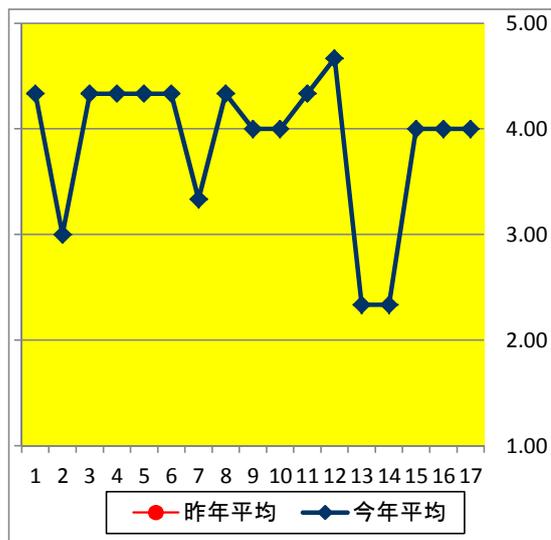
該当なし(昨年度不開講)

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年の講義方法も人数次第である。受講者全員に同じ媒体を貸与する用意がないので、大人数だと工夫がいる。しかし、スマートフォンなどはほとんどの学生が所有しているので、こうした形態の講義も成立しよう。プロフェッショナル・ソリューションの性格上、将来の職業(あるいは会社)を念頭に入れて、より具体性を備えた研究を実施できる。

科目	プロフェッショナル・ソリューションB(清水クラス)		
配当年次	2	開講時限	秋火5
受講者数	3	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.33	4	5	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.33	4	5	4
4	—	4.33	4	5	4
5	—	4.33	4	5	4
6	—	4.33	4	5	4
7	—	3.33	3	4	3
8	—	4.33	4	5	4
9	—	4.00	3	5	3
10	—	4.00	3	5	3
11	—	4.33	4	5	4
12	—	4.67	5	5	4
13	—	2.33	1	4	1
14	—	2.33	1	4	1
15	—	4.00	3	5	3
16	—	4.00	3	5	3
17	—	4.00	3	5	3
回答者数	—	3			



#### 受講生の傾向

企業会計の基本が理解できていない学生が受講していた。それらの学生のニーズを満たすよう、ソリューションの内容を工夫した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと  
企業会計の基本的な内容を復習できるよう工夫した。

#### 今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

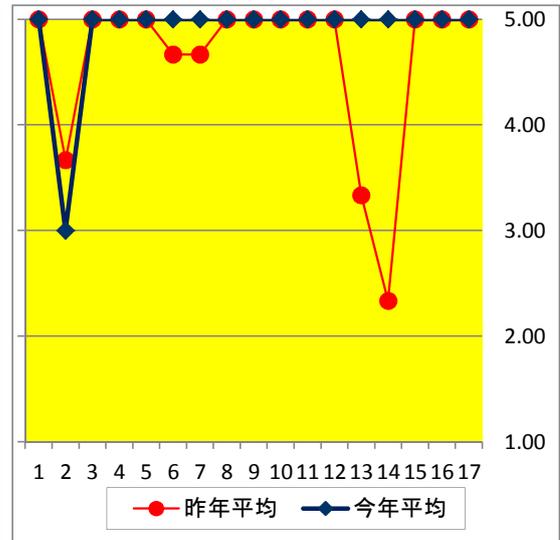
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

ソリューションに参加する学生のニーズは様々であるため、今後もニーズを把握してそれに見合った内容としていく工夫が必要と思われる。

科目	プロフェッショナル・ソリューションB(富田クラス)		
配当年次	2	開講時限	秋火5
受講者数	1	回答者数	1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5.00	5	5	5
2	3.67	3.00	3	3	3
3	5.00	5.00	5	5	5
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	4.67	5.00	5	5	5
7	4.67	5.00	5	5	5
8	5.00	5.00	5	5	5
9	5.00	5.00	5	5	5
10	5.00	5.00	5	5	5
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.33	5.00	5	5	5
14	2.33	5.00	5	5	5
15	5.00	5.00	5	5	5
16	5.00	5.00	5	5	5
17	5.00	5.00	5	5	5
回答者数	3	1			



#### 受講生の傾向

すべて出席しており、事前課題も充分にこなし、講義時間内での議論もそれを反映したものであった。あった。ただ、受講生は1人であるため、受講生全体の傾向というよりも、当該学生に対するコメントとなってしまったため、これ以上は、差し控えたい。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生が1人であるため、達成目標を明確にし、それに合わせた課題およびその趣旨を十分に説明して実施し、状況によっては、相談の上、調整を行う等、きめ細やかな指導を意識した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

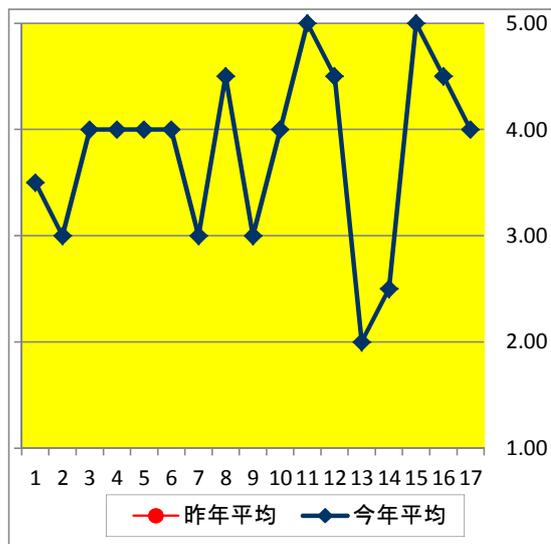
ディスカッションのための準備にもうがでないよう、学生の関心を事前に高め、より活発な議論ができるよう工夫を講じるつもりである。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

次年度にこの科目の担当予定ではないが、「ソリューション」を担当する上で、学生の関心を高め、より積極的に参加できるよう工夫を講じるつもりである。

科目	プロフェッショナル・ソリューションB(大西クラス)		
配当年次	2	開講時限	秋木5
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	3.50	3・4	4	3
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.00	4	4	4
4	—	4.00	4	4	4
5	—	4.00	4	4	4
6	—	4.00	4	4	4
7	—	3.00	3	3	3
8	—	4.50	4・5	5	4
9	—	3.00	3	3	3
10	—	4.00	4	4	4
11	—	5.00	5	5	5
12	—	4.50	4・5	5	4
13	—	2.00	1・3	3	1
14	—	2.50	2・3	3	2
15	—	5.00	5	5	5
16	—	4.50	4・5	5	4
17	—	4.00	4	4	4
回答者数	—	2			



#### 受講生の傾向

受講者は、いずれも講義にまじめに参加して課題に取り組むとともに、討議にも積極的に参加した。ただし、回答にあるとおり、予習および復習の時間が十分ではなかった可能性がある。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本年度が初めての開講であるが、1年次配当科目のアカデミック・ソリューションにおける学習状況を踏まえて、受講生に対して管理会計の観点にもとづく思考を平易に伝えるよう留意した。講義に際しては計算課題を課すとともに、ソリューションの科目特性を活用して積極的に討議を行うように留意した。

#### 今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

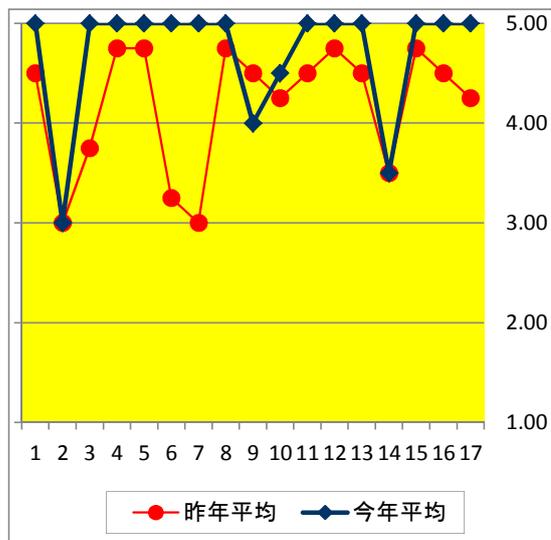
該当なし(昨年度不開講)

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生に対して予習および復習といった自主的な学習を促進するような措置が必要であると考えている。

科目	プロフェッショナル・ソリューションB(松本クラス)		
配当年次	2	開講時限	秋金5
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	3.75	5.00	5	5	5
4	4.75	5.00	5	5	5
5	4.75	5.00	5	5	5
6	3.25	5.00	5	5	5
7	3.00	5.00	5	5	5
8	4.75	5.00	5	5	5
9	4.50	4.00	3・5	5	3
10	4.25	4.50	4・5	5	4
11	4.50	5.00	5	5	5
12	4.75	5.00	5	5	5
13	4.50	5.00	5	5	5
14	3.50	3.50	3・4	4	3
15	4.75	5.00	5	5	5
16	4.50	5.00	5	5	5
17	4.25	5.00	5	5	5
回答者数	4	2			



#### 受講生の傾向

全員がまじめに100%出席(質問No.12)しており、課題に対する予習時間(質問No.13)もかなりの程度確保されていることから、受講生のモラルは高い。何れの学生も公認会計士を志望するものであったことから、極めて高い参加意欲が確保できた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

公認会計士を志望する学生ばかりであったため、事前に監査論に関する諸論点を配布し、授業時間までに関連する資料の調査と分析・作成を義務付けた。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

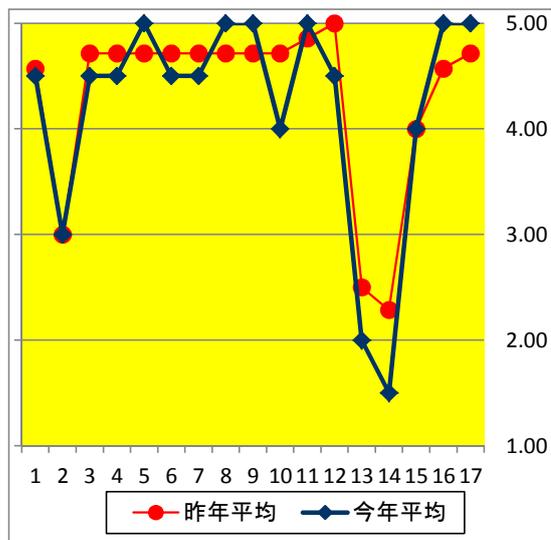
今年度から顕著な動向として、会計士志望者と一般企業志望者との行動に明らかな差が出た点にあることから、学生ごとのレベルだけでなく、志望先についても考慮に入れた指導が必要である。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今期の学生は、公認会計士試験志望のみであったため、集中的な専門知識の習得とスキルアップに特化することができたが、今後は一般企業志望者への対応も考えておく必要がある。

科目	プロフェッショナル・ソリューションB(宮本クラス)		
配当年次	2	開講時限	秋土5
受講者数	3	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.57	4.50	4	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.71	4.50	4	5	4
4	4.71	4.50	4	5	4
5	4.71	5.00	5	5	5
6	4.71	4.50	4	5	4
7	4.71	4.50	4	5	4
8	4.71	5.00	5	5	5
9	4.71	5.00	5	5	5
10	4.71	4.00	4	4	4
11	4.86	5.00	5	5	5
12	5.00	4.50	4	5	4
13	2.50	2.00	1	3	1
14	2.29	1.50	1	2	1
15	4.00	4.00	4	4	4
16	4.57	5.00	5	5	5
17	4.71	5.00	5	5	5
回答者数	5	2			



#### 受講生の傾向

今年度の受講生は3名であり、うち一人は資格取得、公務員志望で、もう一人は郷里に帰って地元で就職を希望する受講生であった(1名は未確認)。二人とも真面目で勉強熱心であったので、授業を通じて学力は非常に向上したと考えている。そして希望通りに国家公務員と地元企業への就職に成功した。これは二人の努力の賜物であると考えている。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生は大学院の2年生であるので、基礎学力は十分持っていると考えて、応用問題、発展問題の具体的な分析に取り組んだ。その結果、学力は飛躍的に向上したと考えている。この方針は成功であったと思っている。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

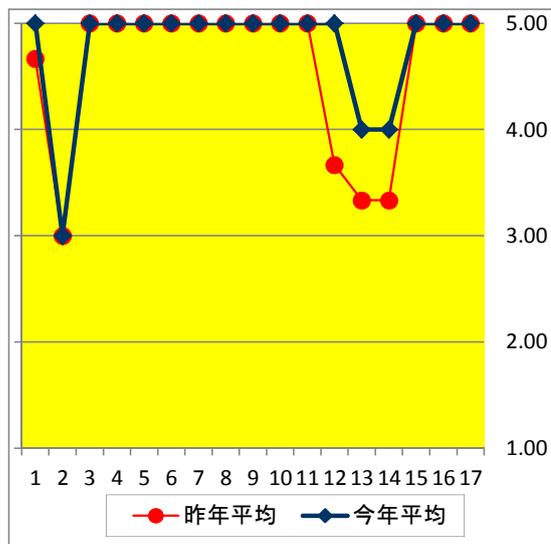
昨年の「今後の対応」を踏まえて、今年度はその方向で授業を行った。来年度も基本的にはこの方針、つまり、基礎的な練習問題からレベルの高い練習問題の解答と説明を行う予定である。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度は基礎的なレベルから徐々に高度な内容の授業にレベルを上げて行ったが、今年度は基礎的な学力は十分あるものと判断して、最初からレベルの高い授業からスタートした。しかし、それは結果的に成功であった。従って、基礎学力が十分備わっている受講生には、最初からかなりレベルの高い授業でも十分それをこなしていけると確信した。今後も、受講生の学力を見極めた上で、柔軟な授業を行うことが大切であると感じている。

科目	プロフェッショナル・ソリューションB(宗岡クラス)		
配当年次	2	開講時限	秋金5
受講者数	3	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	5.00	5	5	5
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	5.00	5.00	5	5	5
7	5.00	5.00	5	5	5
8	5.00	5.00	5	5	5
9	5.00	5.00	5	5	5
10	5.00	5.00	5	5	5
11	5.00	5.00	5	5	5
12	3.67	5.00	5	5	5
13	3.33	4.00	3・5	5	3
14	3.33	4.00	3・5	5	3
15	5.00	5.00	5	5	5
16	5.00	5.00	5	5	5
17	5.00	5.00	5	5	5
回答者数	3	2			



#### 受講生の傾向

公務員試験に合格した学生と、内定はもらったものの満足できないため就職活動を継続している学生がメンバーであった。2人とも熱心に授業に参加した。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計と実社会との関係を実例に基づいて理解してもらうため、新聞や雑誌等の実例を会計の立場からディスカッションを行うようにした。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

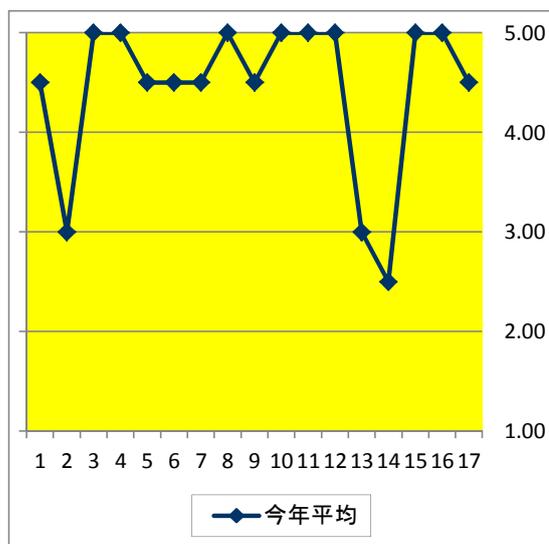
将来の武器となるようなことを学習するきっかけとなるように授業すること。自主的に家庭学習等を行っていくようにテーマの提示を工夫するとともに動機付けを行っていきたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

会計と実社会の関係を理解してもらうべく、ディスカッションを中心に授業を行う。

科目	プロフェッショナル・ソリューションB(中村クラス)		
配当年次	2	開講時限	秋火5
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.50	4・5	5	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	5.00	5	5	5
4	—	5.00	5	5	5
5	—	4.50	4・5	5	4
6	—	4.50	4・5	5	4
7	—	4.50	4・5	5	4
8	—	5.00	5	5	5
9	—	4.50	4・5	5	4
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	3.00	3	3	3
14	—	2.50	2・3	3	2
15	—	5.00	5	5	5
16	—	5.00	5	5	5
17	—	4.50	4・5	5	4
回答者数	—	2			



#### 受講生の傾向

受講生は、国際租税法に強い関心をもって、講義時には多くの議論をすることができた。ただ、報告レジュメの作成にあたって、受講生は税制改正の動向を確認できておらず、旧条文の内容のまま報告することがしばしば見られた点は残念であった。しかし、国際租税法が一定の国内税法を学習した段階で学ぶ分野であることを考慮すると、受講生は懸命に国際租税法の知識を吸収しようとしていた点はやはり評価できた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生の報告内容に対応した具体的な設例を数多く用意し、国内税法、租税条約の具体的な適用を繰り返し実施した。また、国際租税法の理解には図を作成して、その取引をきちんと理解することが重要であるため、受講生には報告レジュメに必ず図を作成するよう指導した。さらに、税制改正情報をできる限り前広に資料として提供し、受講生が国際租税法の動向をきちんと把握できるよう配慮した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

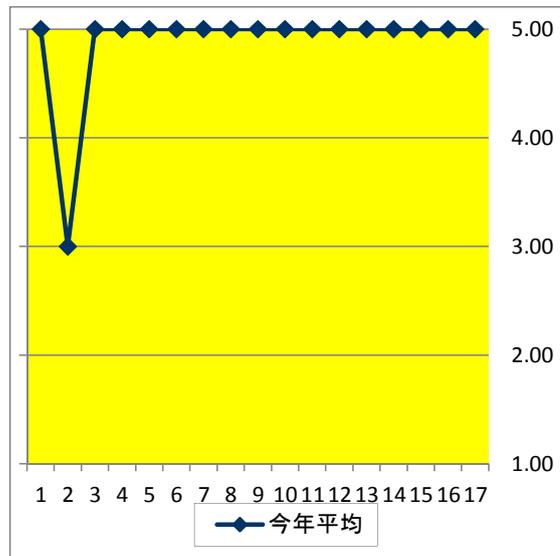
該当なし(昨年度不開講)

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義時に具体的な設例を示す方法でもよいが、講義時に時間がかかってしまう。そこで、事前に具体的な設例を受講生に提供し、受講生はレジュメにその解答を反映させるようにさせる。また、講義内小テストを実施して、受講生の到達度も確認する。

科目	論文指導・修士論文(富田クラス)		
配当年次	2	開講時限	秋木5
受講者数	1	回答者数	1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	5.00	5	5	5
2	—	3.00	3	3	3
3	—	5.00	5	5	5
4	—	5.00	5	5	5
5	—	5.00	5	5	5
6	—	5.00	5	5	5
7	—	5.00	5	5	5
8	—	5.00	5	5	5
9	—	5.00	5	5	5
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	5.00	5	5	5
14	—	5.00	5	5	5
15	—	5.00	5	5	5
16	—	5.00	5	5	5
17	—	5.00	5	5	5
回答者数	—	1			



#### 受講生の傾向

講義の性質上、また、受講生が1人であることもあり、極めてまじめにかつ積極的受講し、修士論文を完成させている。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

学生も論題も異なるため、昨年度を踏まえることはできないが、現在行っていることの全体の中での位置づけ、今後どのように実施する予定であるのか、また、受講生の進捗状況とその差異を丁寧に説明し、モチベーションを維持できるように心がけた。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

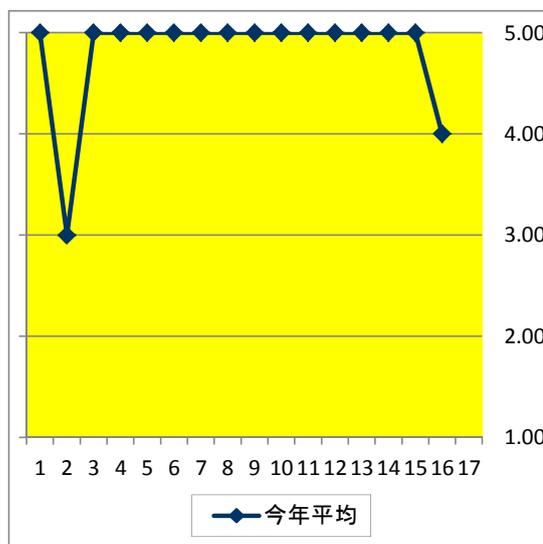
今回は、研究方法として文献レビューという方法を用いたことや、既存研究の関連性の整理に学生が不慣れであったことから、文献相互の関連性に重点を置いて徹底的に議論した。その結果、学生からの評価はおおむね良好であったと考える。それゆえ、論文指導という科目の特性から、今後も、研究方法として採用する方法論や学生のキャラクターに合わせた指導を行っていきたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度の受講生は、実証研究であったため、データの入手や解析方法、あるいはその解釈に重点を置いた。また、その時々々のポジションと今後の展開を明確にしたことは効果的であったようであるので、今後もそのように実施する予定である。ただし、論文指導という特性上、採用された研究方法や学生の性格を十分に配慮して指導を行っていくつもりである。

科目	論文指導・修士論文(中村クラス)		
配当年次	2	開講時限	秋木5
受講者数	4	回答者数	1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	5.00	5	5	5
2	—	3.00	3	3	3
3	—	5.00	5	5	5
4	—	5.00	5	5	5
5	—	5.00	5	5	5
6	—	5.00	5	5	5
7	—	5.00	5	5	5
8	—	5.00	5	5	5
9	—	5.00	5	5	5
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	5.00	5	5	5
14	—	5.00	5	5	5
15	—	5.00	5	5	5
16	—	4.00	4	4	4
17	—	無回答	—	—	—
回答者数	—	1			



#### 受講生の傾向

受講生に自身のテーマについて順次報告をさせたが、大半はリサーチと文献の読み込みが不足していた。このため、論点設定ができず、受講者4名のうち3名が春学期終了時点でリタイヤした。論文を提出した1名は外国文献に苦しんだものの、最後まで粘り強く比較法研究を行っていた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まず、文献のリサーチが重要であることから、判例検索についてはLEX/DBやD1-Lawの使い方を講義し、外国法検索についてはLexisやWestlawの無料講習会を利用した。次に、受講生が論文を作成しやすいように、報告レジュメに章立てを仮作成させるよう指導した。さらに、秋学期開始時を中間報告会と位置付けして、受講生に報告させる機会を与え、秋以降での論文作成の行き詰まりを防ぐよう試みた。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

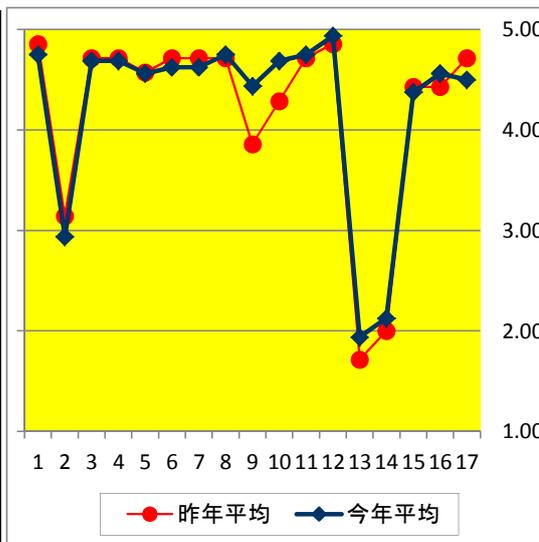
該当なし(昨年度不開講)

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生3名が春学期でリタイヤした結果から、秋学期開始時を中間報告会と位置付けるスケジュールでは遅いようである。6月に第1回の報告会を実施し、受講生の自覚を促す(第2回報告会も実施の予定)。また、研究スタイルとして今年度は比較法研究を希望する受講生ばかりであったが、外国文献の読解に難がある受講生については、総合判例研究のスタイルをとるよう指導する。

科目	特殊講義(経営と会計)		
配当年次	1	開講時限	秋月3
受講者数	18	回答者数	16

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.86	4.75	5	5	4
2	3.14	2.94	3	4	1
3	4.71	4.69	5	5	4
4	4.71	4.69	5	5	4
5	4.57	4.56	5	5	4
6	4.71	4.63	5	5	3
7	4.71	4.63	5	5	4
8	4.71	4.75	5	5	4
9	3.86	4.44	5	5	3
10	4.29	4.69	5	5	3
11	4.71	4.75	5	5	4
12	4.86	4.94	5	5	4
13	1.71	1.94	1	5	1
14	2.00	2.13	2	5	1
15	4.43	4.38	5	5	3
16	4.43	4.56	5	5	3
17	4.71	4.50	5	5	3
回答者数	7	16			



#### 受講生の傾向

今年を受講者18人と、昨年の13人から5人増加した。出席状況は概ね良好であり、授業中の質問についても延べ75回(1人当たり4.2回)とまずまずであった。しかし、受講者増加の影響もあったのか、質問者に偏りがあり、半数程度の受講者は質問を促してやっと一言二言発言するような状況であった。レポートについては、全体として問題意識は読み取れたが、理解力と論理性にはかなり個人差が見られ、3~4人は明らかに努力不足であった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業の理解度と学生個々人の問題意識の向上のために、①一部授業内容の圧縮と授業で使用するパワーポイントの枚数削減による時間的ゆとりを持ったこと、②最後の2回の授業を「受講者によるレポートテーマ・構想の発表」の時間としたこと(昨年は最後の授業のみを「レポート作成のための質疑応答」の時間とした)、③毎回予め次の授業のレジュメを配布してきたが、今年は特に事前に問題意識を持って授業に臨むように注意を喚起したことなどである。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

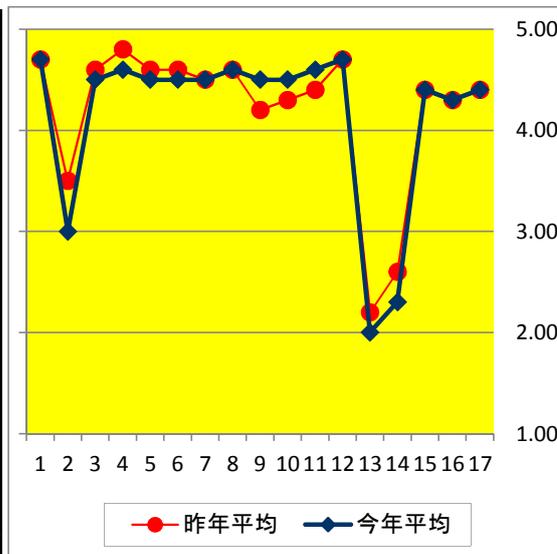
レポート作成の支援と内容の充実を目的に最後の2回の授業に「受講者によるレポートテーマ・構想の発表」の時間を設ける。それにより各人のレポートの内容充実を図り、全体の底上げを目指したい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

アンケートの結果を見る限りは、進捗や授業規模、宿題・小テストや予習に今回の講義で工夫・留意した効果が現れたように思う。一方、授業の質問に見られる消極性や受身の姿勢、ならびにレポートに見られる理解力・論理性の個人差や努力不足について、全体の底上げの視点から解決を図ることを課題としたい。具体的な対応としては、①授業において受講者が質問や意見を述べやすいように、授業内容、進捗、質問時間等を工夫すること、②「受講者によるレポートテーマ・構想の発表」の2回の授業内容を充実すること、③授業において比較的早い時期からレポート(自由論題)のテーマ検討を促すこと、などを考えたい。

科目	特殊講義(海外経営事例研究)		
配当年次	1	開講時限	秋火3
受講者数	11	回答者数	10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.70	4.70	5	5	4
2	3.50	3.00	3	3	3
3	4.60	4.50	4・5	5	4
4	4.80	4.60	5	5	4
5	4.60	4.50	4・5	5	4
6	4.60	4.50	4・5	5	4
7	4.50	4.50	5	5	3
8	4.60	4.60	5	5	4
9	4.20	4.50	5	5	3
10	4.30	4.50	5	5	3
11	4.40	4.60	5	5	3
12	4.70	4.70	5	5	4
13	2.20	2.00	2	3	1
14	2.60	2.30	1・2・3	5	1
15	4.40	4.40	4	5	4
16	4.30	4.30	4	5	3
17	4.40	4.40	4	5	4
回答者数	10	10			



#### 受講生の傾向

今年の受講者は11人で昨年(10人)とほぼ同数であった。出席状況は概ね良好であり、授業中の質問についても延べ63回(1人当たり5.7回)とまずまずであった。レポートについては、問題意識・理解力・論理性・努力ともに個人差が大きく、レポートへ配分した40点満点で、最高が36点、最低が18点であった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業の理解度と学生個々人の問題意識の向上のために、①一部授業内容の時間配分見直し・圧縮と授業で使用するパワーポイントの枚数削減による時間的ゆとりを持ったこと、②最後の2回の授業を「受講者によるレポートテーマ・構想の発表」の時間としたこと(昨年は最後の授業のみを「レポート作成のための質疑応答」の時間とした)、③毎回予め次の授業のレジュメを配布してきたが、今年は特に事前に問題意識を持って授業に臨むように注意を喚起したことなどである。なお、第12回「国際化の事例と国際経営論」、第13回「海外経営事例研究の再評価」の授業は、分かりやすくするために昨年の順番・内容を組替えた内容とした。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

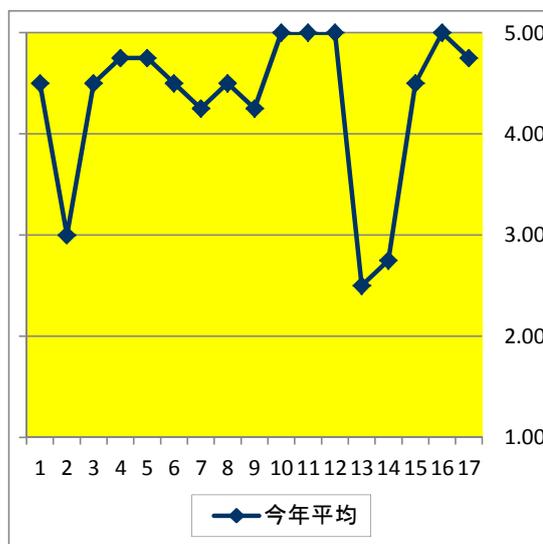
レポート作成の支援と内容の充実を目的に最後の2回の授業に「受講者によるレポートテーマ・構想の発表」の時間を設ける。それにより各人のレポートの内容充実を図り、全体の底上げを目指したい。また、それにとめない各回の時間配分を見直し、一部について分割または統合を行う。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

アンケートの結果を見る限りは、進度や授業規模、宿題・小テストに今回の講義で工夫・留意した効果が現れたように思う。一方、レポートに見られるように問題意識・理解力・論理性・努力ともに個人差が大きいことから、授業への興味や意欲を持ってもらうことに注力することで全体の底上げを図りたい。具体的な対応としては、①授業において受講者が質問や意見を述べやすいように、授業内容、進度、質問時間等を工夫すること、②「受講者によるレポートテーマ・構想の発表」の2回の授業内容を充実すること、③授業において比較的早い時期からレポート(自由論題)のテーマ検討を促すこと、などを考えたい。

科目	負債・資本会計論		
配当年次	2	開講時限	秋火3
受講者数	4	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.50	4・5	5	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.50	4・5	5	4
4	—	4.75	5	5	4
5	—	4.75	5	5	4
6	—	4.50	4・5	5	4
7	—	4.25	5	5	3
8	—	4.50	4・5	5	4
9	—	4.25	5	5	3
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	2.50	3	3	1
14	—	2.75	3	3	2
15	—	4.50	4・5	5	4
16	—	5.00	5	5	5
17	—	4.75	5	5	4
回答者数	—	4			



#### 受講生の傾向

受講生全員が熱心な学生であり、そろって計算力も高かった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

最初の2回ほどでおおよその力量が見えたので、制度の解説の時間は減らして、もっぱら重要論点の討議に充てた。ソクラテック・メソッドがうまく適用できた。

#### 今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

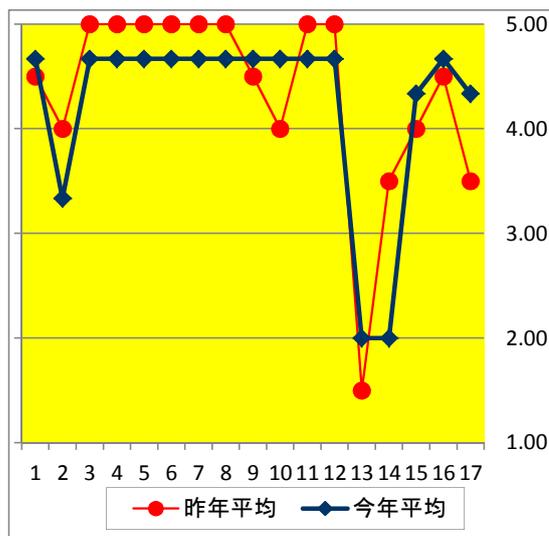
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

学生の力量にもよるが、少人数であれば、今年度の方式を採用できる。

科目	国際公会計制度論		
配当年次	2	開講時限	秋月4
受講者数	3	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.67	5	5	4
2	4.00	3.33	3	4	3
3	5.00	4.67	5	5	4
4	5.00	4.67	5	5	4
5	5.00	4.67	5	5	4
6	5.00	4.67	5	5	4
7	5.00	4.67	5	5	4
8	5.00	4.67	5	5	4
9	4.50	4.67	5	5	4
10	4.00	4.67	5	5	4
11	5.00	4.67	5	5	4
12	5.00	4.67	5	5	4
13	1.50	2.00	1	3	1
14	3.50	2.00	1	3	1
15	4.00	4.33	4	5	4
16	4.50	4.67	5	5	4
17	3.50	4.33	4	5	4
回答者数	2	3			



#### 受講生の傾向

遅刻が若干多かったが、注意したところ、改善が見られた。内容的には、会計の理解度の高い学生が多かったため、スムーズに授業が進んだ。また、英語の教材もかなり理解ができていた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は殆ど英語が理解できない学生ばかりであったため、今年度は最初に英語力を見たうえで英語の教材を使うことの妥当性を検討した。結果的にはほぼ理解ができていたので、同じ教材を使った。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

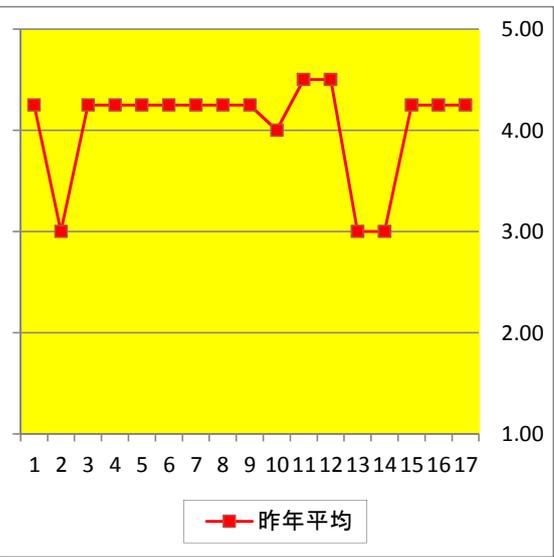
受講生に応じた対応が必要と考えらえる。これまで英語の基本資料を使っていたが、それを継続するのは受講生のレベルを見て判断する予定である。また、受講生に発表させる機会を設けることを検討する。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

学生の英語力のみならず、会計への理解力も講義の進め方を決めるうえで重要である。受講希望者のレベルを見極めて、今後も講義内容を決めてきたい。

科 目	国際財務戦略論		
配当年次	2	開講時限	秋金4
受講者数	2	回答者数	-

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.25	-	-	-	-
2	3.00	-	-	-	-
3	4.25	-	-	-	-
4	4.25	-	-	-	-
5	4.25	-	-	-	-
6	4.25	-	-	-	-
7	4.25	-	-	-	-
8	4.25	-	-	-	-
9	4.25	-	-	-	-
10	4.00	-	-	-	-
11	4.50	-	-	-	-
12	4.50	-	-	-	-
13	3.00	-	-	-	-
14	3.00	-	-	-	-
15	4.25	-	-	-	-
16	4.25	-	-	-	-
17	4.25	-	-	-	-
回答者数	4	-			



※諸事情により、未実施

#### 受講生の傾向

国際的な財務戦略について勉強したいという意欲の高い学生が多かった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講者が少なかった(2人)こともあり、ディスカッションを大幅に取り入れた授業を行った。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

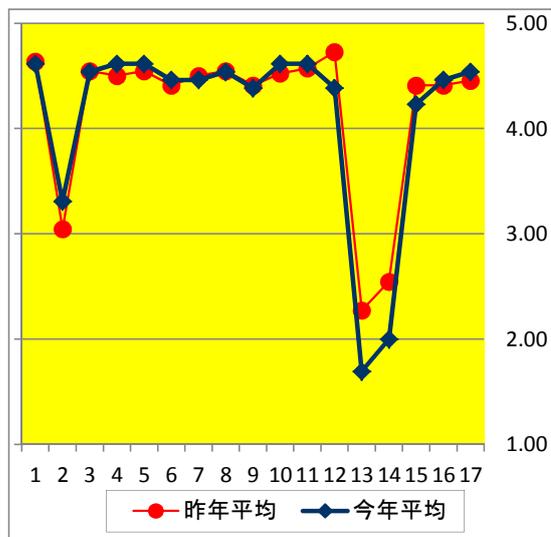
国際的な財務戦略について、非常に範囲が広いので、それを網羅的に教えるのではなく、状況に応じて、授業の範囲を絞ることも検討したい。また、学生の発表の機会を作りたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

授業を踏まえ、新聞や雑誌の記事等をもとに実例について解説するとともに、ディスカッションを行って、より理解を深めるようにしたい。

科目	公共経済学		
配当年次	2	開講時限	秋土4
受講者数	13	回答者数	13

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.64	4.62	5	5	4
2	3.05	3.31	3	5	1
3	4.55	4.54	5	5	4
4	4.50	4.62	5	5	4
5	4.55	4.62	5	5	4
6	4.41	4.46	4	5	4
7	4.50	4.46	5	5	3
8	4.55	4.54	5	5	4
9	4.41	4.38	4	5	3
10	4.52	4.62	5	5	4
11	4.57	4.62	5	5	4
12	4.73	4.38	4	5	4
13	2.27	1.69	2	3	1
14	2.55	2.00	2	3	1
15	4.41	4.23	5	5	3
16	4.41	4.46	4	5	4
17	4.45	4.54	5	5	4
回答者数	22	13			



#### 受講生の傾向

今年度の受講生は、やや基礎学力が十分でないと感じる者がいた。受講生の多くは2年生であったので、基礎学力は十分あるものと考えていたが、そうではない者もいたので、理解しやすい応用例を頻繁に引用した。そして、徐々にレベルの高い授業を行うように工夫した。その結果、最後まで授業についてきた者は、十分な学力が身についたと考えている。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の授業評価アンケートでは好評であった公共経済学の理論的分析と国や地方自治体の財政的現実問題の指摘を交互に取り上げて分析した。この授業方法は今年度も好評であった。特に、具体的な事例は受講生に興味を持って聞いていただいたと感じている。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

今後は、今年度の授業で好評であった公共経済学の理論と自治体の財政的現実を並行して講義していく予定である。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

公共経済学は、現実的な国や地方自治体の財政問題と、それらの問題を分析する財政学の理論の両方の理解が必要である。従って、今後もその両方の内容の授業を受講生の興味を引き出しながら交互に行う予定である。



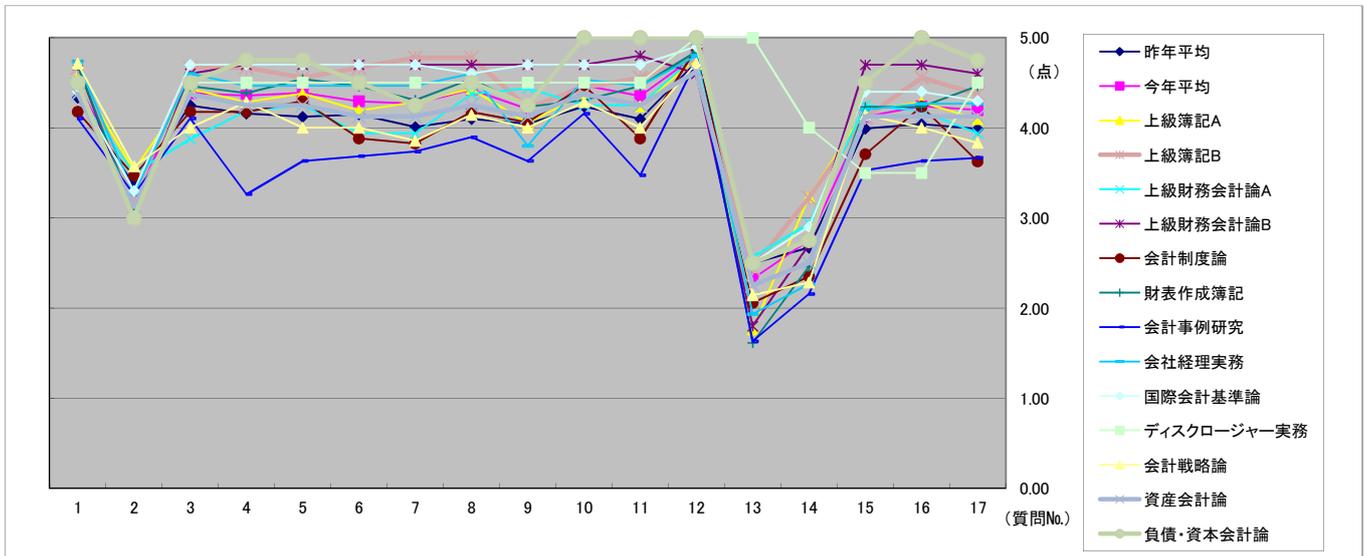
## Ⅱ-(3). 2013 年度授業評価アンケート(系平均)結果概要



系： 財務会計

受講者数:165 回答者数:152

質問No.	昨年平均	今年平均	上級簿記A	上級簿記B	上級財務会計論A	上級財務会計論B	会計制度論	財表作成簿記	会計事例研究	会社経理実務	国際会計基準論	ディスクロージャー実務	会計戦略論	資産会計論	負債・資本会計論
1	4.33	4.50	4.57	4.67	4.38	4.70	4.18	4.69	4.11	4.73	4.40	4.50	4.71	4.38	4.50
2	3.36	3.26	3.52	3.22	3.50	3.00	3.47	3.08	3.26	3.27	3.30	3.00	3.57	3.13	3.00
3	4.25	4.38	4.43	4.67	3.88	4.60	4.18	4.46	4.11	4.60	4.70	4.50	4.00	4.38	4.50
4	4.16	4.36	4.29	4.67	4.19	4.70	4.18	4.38	3.26	4.47	4.70	4.50	4.29	4.25	4.75
5	4.12	4.39	4.38	4.56	4.25	4.70	4.29	4.54	3.63	4.47	4.70	4.50	4.00	4.25	4.75
6	4.15	4.29	4.19	4.67	3.94	4.70	3.88	4.46	3.68	4.47	4.70	4.50	4.00	4.13	4.50
7	4.01	4.27	4.29	4.78	3.94	4.70	3.82	4.31	3.74	4.47	4.70	4.50	3.86	4.13	4.25
8	4.10	4.42	4.43	4.78	4.38	4.70	4.18	4.54	3.89	4.60	4.60	4.50	4.14	4.25	4.50
9	4.05	4.21	4.05	4.22	4.44	4.70	4.06	4.23	3.63	3.80	4.70	4.50	4.00	4.13	4.25
10	4.24	4.47	4.38	4.44	4.25	4.70	4.47	4.31	4.16	4.53	4.70	4.50	4.29	4.38	5.00
11	4.10	4.35	4.24	4.56	4.25	4.80	3.88	4.46	3.47	4.47	4.70	4.50	4.00	4.25	5.00
12	4.73	4.80	4.76	4.78	4.81	4.60	4.88	4.85	4.74	4.80	4.90	5.00	4.71	4.63	5.00
13	2.50	2.32	1.76	2.44	2.56	1.80	2.06	1.62	1.63	1.93	2.50	5.00	2.14	2.25	2.50
14	2.67	2.75	3.24	3.22	2.94	2.70	2.35	2.46	2.16	2.27	2.90	4.00	2.29	2.50	2.75
15	3.99	4.12	4.19	4.11	4.25	4.70	3.71	4.23	3.53	4.20	4.40	3.50	4.14	4.13	4.50
16	4.04	4.24	4.29	4.56	4.19	4.70	4.24	4.23	3.63	4.27	4.40	3.50	4.00	4.13	5.00
17	3.99	4.20	4.10	4.38	3.94	4.60	3.63	4.46	3.67	4.27	4.30	4.50	3.83	4.13	4.75
回答者数	163	152	22	9	16	10	17	13	19	15	10	2	7	8	4



**受講生の傾向**

系の平均として、学生は授業におおむね満足し(質問No.11の4.1)、80%以上出席(質問No.12の4.73)している反面、予習や復習にはあまり時間をかけていない。しかし、それでも、授業に触発されたといい、職業会計人に必要な知識が高まったといい、授業をおおむね理解しているという(質問No.15~17)。ところが、個々の科目において、授業への取り組みのほぼすべての項目で意欲的でない科目がある(会計事例研究)。

**昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと**

昨年と同様の指摘となる。科目特性があるので、科目の担当者自身による記述を参照されたい。相対的に低評価の基礎的、理論的科目の「今後の対応」を注意されたい。また、今後の対応(工夫や留意した点)が、受講生のニーズに応じているのかや学習効果を向上させるものであるかなどの点も、注意されたい。しかしながら、「授業の評価」のほとんどの項目について最も低い評価が特定の1科目(会計事例研究)に集中しているのが気になる。この科目で工夫されたと書かれた内容の効果が出ていないのが残念である。

**今後の対応**

**○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」**

科目特性があるので、科目の担当者自身による記述を参照されたい。相対的に低評価の基礎的、理論的科目の「今後の対応」を注意されたい。また、今後の対応(工夫や留意した点)が、受講生のニーズに応じているのかや学習効果を向上させるものであるかなどの点も、注意されたい。

**○上記の内容を踏まえた「今後の対応」**

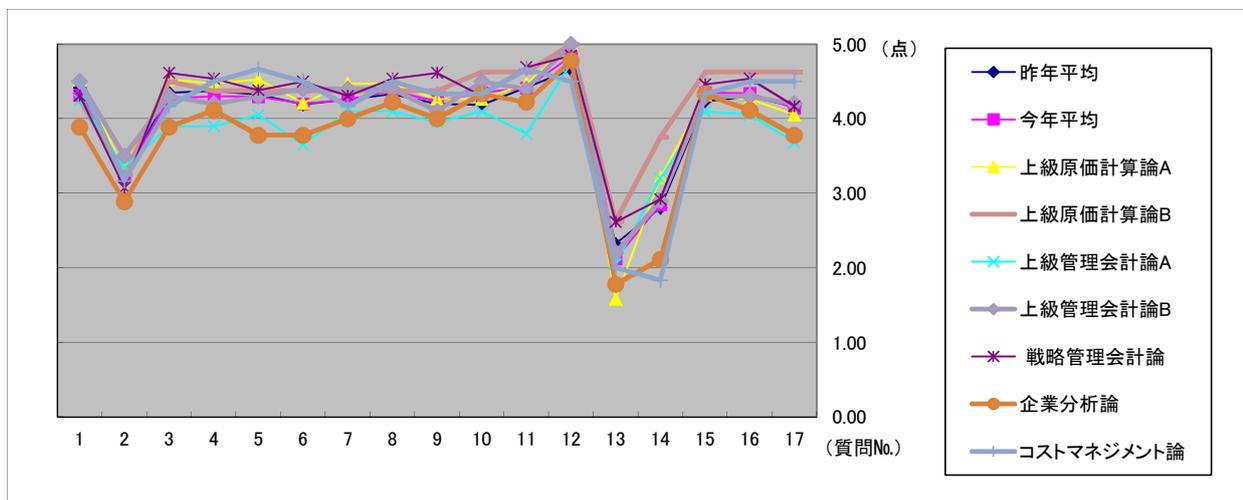
会計事例研究についてはFDにおいて問題の所在と改善の方法を検討された方が良いでしょう。項目によって低い評価が気になる上級簿記A、上級財務会計論A、上級財務会計論B、会計制度論、会計戦略論については、同一担当者の異なる科目で高い評価になっているので、これら科目で低評価になった理由はそれぞれの担当者が考察されれば良いと思われる。一方、相対的に高い評価を得た上級簿記B、上級財務会計論B、ディスクロージャー実務、負債・資本会計論はいずれも回答数が10未満であることから、受講者の人数と評価の関係を検討してみる価値がある。

系： 管理会計

受講者数：98

回答者数： 85

質問No.	昨年平均	今年平均	上級原価計算論A	上級原価計算論B	上級管理会計論A	上級管理会計論B	戦略管理会計論	企業分析論	コストマネジメント論
1	4.42	4.32	4.53	4.25	4.25	4.50	4.31	3.89	4.50
2	3.22	3.22	3.32	3.25	3.35	3.50	3.08	2.89	3.17
3	4.35	4.27	4.53	4.50	3.90	4.30	4.62	3.89	4.17
4	4.37	4.30	4.47	4.38	3.90	4.20	4.54	4.11	4.50
5	4.32	4.30	4.53	4.38	4.05	4.30	4.38	3.78	4.67
6	4.19	4.20	4.21	4.38	3.65	4.40	4.50	3.78	4.50
7	4.26	4.26	4.47	4.38	4.10	4.40	4.31	4.00	4.17
8	4.33	4.37	4.47	4.38	4.10	4.40	4.54	4.22	4.50
9	4.20	4.23	4.26	4.38	3.95	4.10	4.62	4.00	4.33
10	4.18	4.35	4.26	4.63	4.10	4.50	4.31	4.33	4.33
11	4.42	4.41	4.47	4.63	3.80	4.40	4.69	4.22	4.67
12	4.66	4.84	5.00	5.00	4.75	5.00	4.85	4.78	4.50
13	2.32	2.12	1.58	2.63	2.05	2.20	2.62	1.78	2.00
14	2.81	2.85	3.21	3.75	3.20	2.90	2.92	2.11	1.83
15	4.23	4.35	4.32	4.63	4.10	4.30	4.46	4.33	4.33
16	4.30	4.34	4.26	4.63	4.05	4.30	4.54	4.11	4.50
17	4.17	4.14	4.05	4.63	3.68	4.20	4.17	3.78	4.50
回答者数	118	85	19	8	20	10	13	9	6



### 受講生の傾向

授業に対する受講生の態度がおおむね良好であると、各科目の担当者から報告を受けている。また、各科目において、受講生間で学習の程度に差があることや、とくに計算科目でその差が大きく見られることについても、担当者間で意見が共通している。

### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度と同様に、担当者同士で意見交換を行い、現状認識(受講生の習熟レベル)や問題意識の共有を積極的に図っている。こうしたことは、科目間でのアンケート結果の傾向が概ね等しくなっていることから理解できる。

### 今後の対応

#### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

今年度のアンケート結果から、担当者間同士で授業にかかわる意見交換を実施し、現状認識や問題意識を共有することが効果的であることが部分的に理解できた。そのため、今後も、こうした意見交換を継続的にを行い、授業水準の維持に努めていきたい。

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

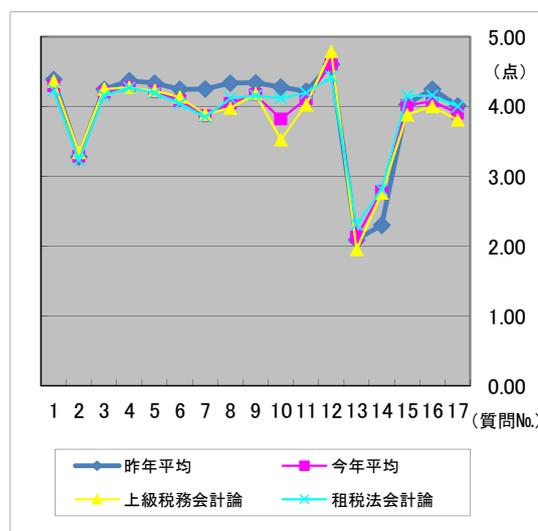
今後も、担当者間での意見交換を行い、科目間の垣根を越えた現状の把握を行っていききたい。また、授業中に利用する問題やテーマについての意見交換も併せて実施していくことを計画している。

系： 税務会計

受講者数：17

回答者数： 16

質問No.	昨年平均	今年平均	上級税務会計論	租税法会計論
1	4.39	4.48	4.30	4.67
2	3.28	3.20	3.40	3.00
3	4.24	4.40	4.30	4.50
4	4.37	4.58	4.50	4.67
5	4.33	4.45	4.40	4.50
6	4.24	4.40	4.30	4.50
7	4.25	4.35	4.20	4.50
8	4.33	4.30	4.10	4.50
9	4.34	4.32	4.30	4.33
10	4.28	4.67	4.50	4.83
11	4.22	4.53	4.40	4.67
12	4.60	4.82	4.80	4.83
13	2.09	2.00	2.00	2.00
14	2.30	2.58	2.50	2.67
15	4.03	4.50	4.50	4.50
16	4.25	4.45	4.40	4.50
17	4.01	4.40	4.30	4.50
回答者数	33	16	10	6



### 受講生の傾向

昨年度と対比すると、質問No.10の結果から、今年度のクラス規模は適切であったようである。また、質問No.15～17の結果も昨年度よりも良好となっていた。これらを総合判断すると、受講者数が昨年度よりも半減したことが、逆に受講生にとっては個別指導に近い形となり、学習環境として望ましいと判断したものと思われる。なお、受講生の半数は、税務会計の既習者であった。

### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度に引き続いて、「上級税務会計論」と「租税法会計論」を連動させる方式を採用した。但し、前者を法人税法会計、後者を所得税法会計と消費税法会計に役割分担させた。前者の対象範囲拡大に対応すべく、講義では公認会計士試験において重要度の高い項目を優先的に取り扱って、計算過程をレジюмеに落とし込み、板書にかかっていた時間を節約するように努めた。また、両者に共通する学習インセンティブ向上については、中間試験の実施、課題レポートを課す代わりに講義時に配布するレジюмеに公認会計士試験の過去問を一部アレンジした問題を数多く取り入れること、講義内に実際に計算させることを実施した。

### 今後の対応

#### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

次年度も引き続き、「上級税務会計論」と「租税法会計論」を連動させることによって、受講生のレベルをスムーズに引き上げる。中間試験も受講生の学習モチベーションの維持、向上のため継続して実施する。また、近年の公認会計士試験では一定レベルの所得税法の計算問題が出題されるようになったことに対応し、学習範囲に所得税法の計算を新たに加える。

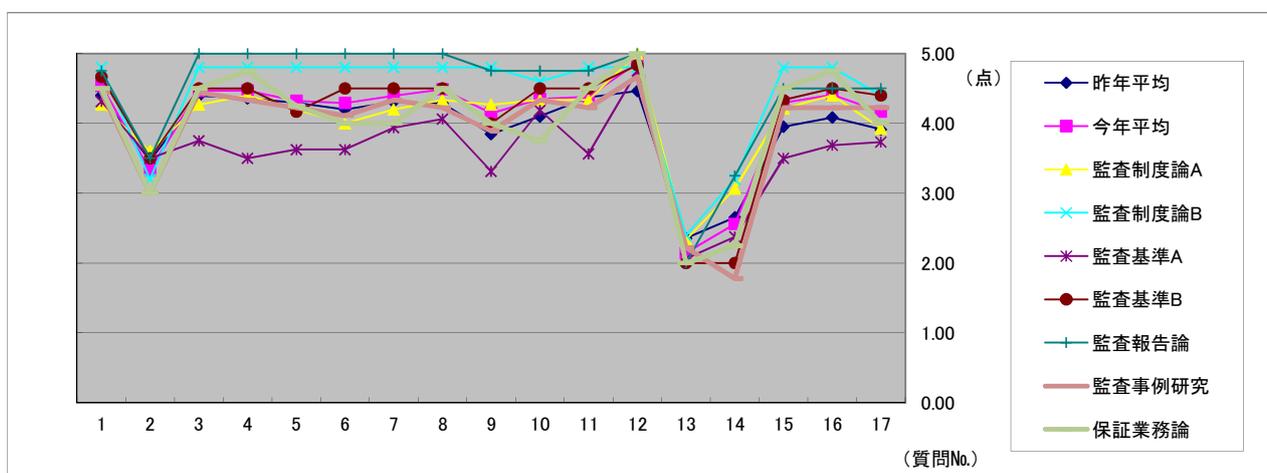
#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度実施した「上級税務会計論」と「租税法会計論」の連動、かつ、役割分担の方法を継続する。中間試験も受講生の学習モチベーションの維持、向上のため継続して実施する。また、中間試験以外にも到達度を確認するための小テストを追加実施することも検討したい。

系： 監査  
 受講者数：74

回答者数：59

質問No.	昨年平均	今年平均	監査制度論A	監査制度論B	監査基準A	監査基準B	監査報告論	監査事例研究	保証業務論
1	4.40	4.53	4.27	4.80	4.31	4.67	4.75	4.44	4.50
2	3.46	3.33	3.60	3.20	3.50	3.50	3.50	3.00	3.00
3	4.39	4.47	4.27	4.80	3.75	4.50	5.00	4.44	4.50
4	4.36	4.47	4.40	4.80	3.50	4.50	5.00	4.33	4.75
5	4.29	4.32	4.20	4.80	3.63	4.17	5.00	4.22	4.25
6	4.20	4.29	4.00	4.80	3.63	4.50	5.00	4.11	4.00
7	4.31	4.40	4.20	4.80	3.94	4.50	5.00	4.33	4.00
8	4.29	4.49	4.33	4.80	4.06	4.50	5.00	4.22	4.50
9	3.85	4.15	4.27	4.80	3.31	4.00	4.75	3.89	4.00
10	4.10	4.35	4.33	4.60	4.19	4.50	4.75	4.33	3.75
11	4.37	4.38	4.33	4.80	3.56	4.50	4.75	4.22	4.50
12	4.47	4.86	5.00	4.80	4.75	4.83	5.00	4.67	5.00
13	2.36	2.15	2.33	2.40	2.06	2.00	2.00	2.22	2.00
14	2.65	2.56	3.07	3.20	2.38	2.00	3.25	1.78	2.25
15	3.95	4.30	4.21	4.80	3.50	4.33	4.50	4.22	4.50
16	4.08	4.41	4.40	4.80	3.69	4.50	4.50	4.22	4.75
17	3.91	4.17	3.92	4.40	3.73	4.40	4.50	4.22	4.00
回答者数	80	59	15	5	16	6	4	9	4



### 受講生の傾向

受講生の出席状況(質問No.12)は、昨年平均よりも全ての科目で高くなっており、最も低いもので80%、それを除くとほぼ90%を確保しており、「監査制度」及び「監査基準」という基本科目(必修科目)以外の科目でも、受講生の参加意欲は非常に高かったと評価できる。

### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

2013年度「出講の手引き」に従い、講義に際して必要な資料を用意・配布するとともに、学生のモラルを向上させるための措置を、全ての科目で講じている。また2つの基本科目以外は発展科目および応用科目であるため、「監査事例研究」をはじめとして学生によるケース・スタディやプレゼンテーションとディスカッションで行なわれている。但し、基本科目である「監査基準A」で、全体的に学生の評価が低くなっており、進捗度を検証するための努力が必要かもしれない。

### 今後の対応

#### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

極端に履修登録者数が少なくなった科目について、配当時間の他、その理由を検討する必要がある。事例研究に該当する科目については、本研究科の趣旨に沿うプロセス教育を達成するという観点から、出席率が低下することのないような措置を講じる必要がある。

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

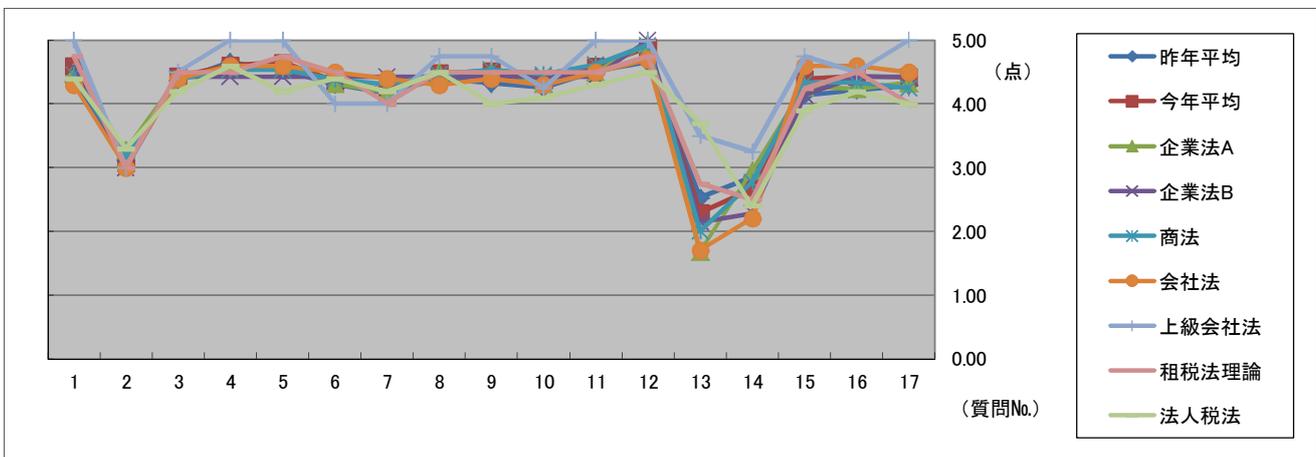
今年度よりコース制を導入したことから、監査系科目を選択する学生の数が減少している。このため昨年度の履修登録者数の減少は続いているため、毎回の発表やディスカッションなどの形態を取り入れることで少ない履修者でも出席率を高める措置を講じる必要がある。

系： 法律

受講者数：78

回答者数： 70

質問No.	昨年平均	今年平均	企業法A	企業法B	商法	会社法	上級会社法	租税法理論	法人税法
1	4.35	4.60	4.50	4.57	4.46	4.30	5.00	4.75	4.40
2	3.11	3.07	3.27	3.00	3.15	3.00	3.00	3.00	3.30
3	4.37	4.44	4.41	4.43	4.38	4.40	4.50	4.50	4.20
4	4.66	4.61	4.59	4.43	4.54	4.60	5.00	4.50	4.60
5	4.53	4.65	4.59	4.43	4.54	4.60	5.00	4.75	4.20
6	4.30	4.36	4.32	4.43	4.38	4.50	4.00	4.50	4.40
7	4.17	4.22	4.18	4.43	4.31	4.40	4.00	4.00	4.20
8	4.40	4.49	4.50	4.43	4.46	4.30	4.75	4.50	4.50
9	4.32	4.52	4.50	4.43	4.54	4.40	4.75	4.50	4.00
10	4.25	4.38	4.32	4.43	4.46	4.30	4.25	4.50	4.10
11	4.52	4.59	4.50	4.43	4.62	4.50	5.00	4.50	4.30
12	4.65	4.89	4.95	5.00	4.92	4.70	5.00	4.75	4.50
13	2.53	2.30	1.68	2.14	2.00	1.70	3.50	2.75	3.70
14	2.85	2.66	2.95	2.29	2.77	2.20	3.25	2.50	2.40
15	4.14	4.39	4.27	4.14	4.33	4.60	4.75	4.25	3.90
16	4.22	4.43	4.24	4.43	4.33	4.60	4.50	4.50	4.20
17	4.29	4.42	4.33	4.43	4.25	4.50	5.00	4.00	4.00
回答者数	73	70	22	7	13	10	4	4	10



### 受講生の傾向

入学者数の関係もあるが、法律系の科目の履修者数が、昨年度と同様、少なく感じられた。必修科目の企業法を除いては、商法、会社法および法人税法が全体の半数程度で、その他の科目はそれ以下である。アンケートをとっている法律系の科目は、すべて公認会計士試験科目であることからすれば、より多くの学生に受講してもらいたい。しかし、その反面、法律系科目を受講している学生にとっては、アンケートの結果から見ると、その理解度は高く、おおむね高い評価が得られている。

### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

すべての法律系の科目について、その特性に合わせて、異なった特徴的な授業を行った。例えば、企業法Aについては、法学を初めて学ぶ学生もいることから、全体の網羅を避け、基本のみを丁寧に扱い、さらに、再履修生の多い企業法Bでは、Aと内容は同じであるが、各学生に苦手を克服すべく、質疑応答や文章作成に重点を置いた。また、これに対して、上級会社法は、ほぼ基本の学習を終えた学生に合わせて、全体的な理解力や応用力を身につけるべく、公認会計士試験レベルのより高度な文章作成等を行うよう工夫した。すべての授業において、授業の目的や学生のレベルに合わせて、適切な授業形態となるよう配慮

### 今後の対応

#### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

学習する範囲が広くかつ法学になじみのない学生が多いことから、特に1年次の科目については、苦手意識を持たないように心がけたい。むしろ法学は理解するコツをおさえれば難しくないということを伝えたい。また、学生との対話と学生による文章作成は、時間がかかるというデメリットはあるが、個々の学生の理解度や弱点を知ることができ、それに合わせた指導ができるので、時間が許す限りはより積極的に行っていきたい。

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

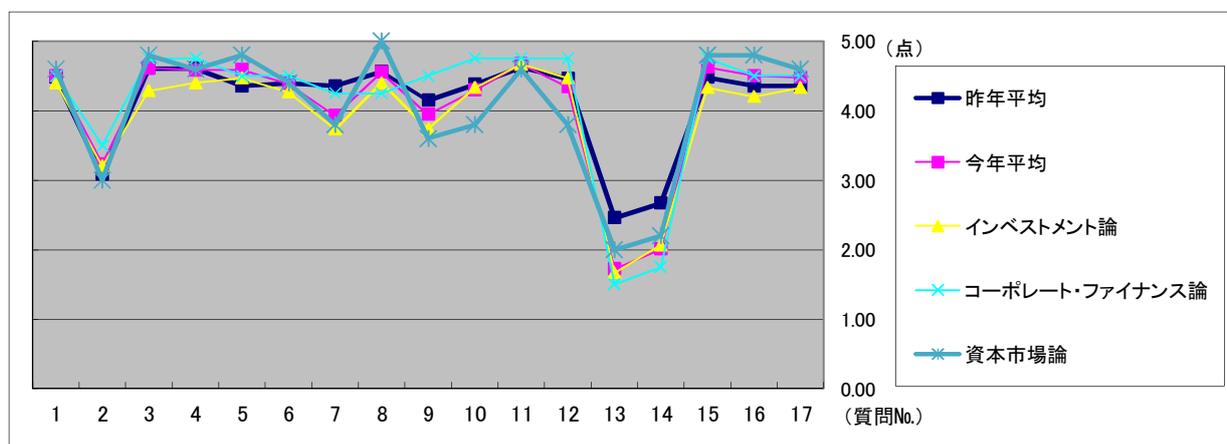
法律系の理論科目は、公認会計士試験を目指す学生以外はあまり履修しない傾向にあるが、たとえ、一般企業への就職等を考えている学生にとっても、会社法や税法などを学ぶことそのものが企業等で役立つのみならず、法的な思考能力(リーガルマインド)を養うことは、どの様なシチュエーションで社会生活を営む場合でも有益である。このことから、早い段階(企業法等)で、学生に法学に苦手意識を持たせず、かつ興味を持ってもらい、2年次においても引き続き法律科目を履修するような授業を行う必要がある。

系： ファイナンス

受講者数：33 回答者数：24

質問No.	昨年平均	今年平均	インベストメント論	コーポレート・ファイナンス論	資本市場論	国際財務戦略論
1	4.48	4.50	4.40	4.50	4.60	-
2	3.08	3.23	3.20	3.50	3.00	-
3	4.60	4.61	4.29	4.75	4.80	-
4	4.60	4.58	4.40	4.75	4.60	-
5	4.35	4.59	4.47	4.50	4.80	-
6	4.40	4.39	4.27	4.50	4.40	-
7	4.35	3.93	3.73	4.25	3.80	-
8	4.56	4.55	4.40	4.25	5.00	-
9	4.15	3.94	3.73	4.50	3.60	-
10	4.38	4.29	4.33	4.75	3.80	-
11	4.63	4.67	4.67	4.75	4.60	-
12	4.46	4.34	4.47	4.75	3.80	-
13	2.46	1.72	1.67	1.50	2.00	-
14	2.67	2.01	2.07	1.75	2.20	-
15	4.48	4.63	4.33	4.75	4.80	-
16	4.35	4.50	4.20	4.50	4.80	-
17	4.35	4.48	4.33	4.50	4.60	-
回答者数	12	24	15	4	5	-

※国際財務戦略論は、諸事情により未実施



#### 受講生の傾向

受講生は、まじめに取り組む学生が多かった。しかし、一部に意欲の低い学生や登録だけして授業には来なかった学生がいて、両極端に分かれる傾向がある。一般的に、数学を用いたり、経済学的なアプローチを行う等、抽象的な議論について、あまり興味を示さないようである。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

基本的に、前年度のやり方を踏襲し、時事問題を取り入れる等を行い、抽象的な議論に陥りがちなファイナンスを解りやすく解説した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

抽象的な議論をできる限り身近な事例で説明する等、学生が興味を持つような授業を行う。さらに、証券アナリストの基礎講座受講を勧めて、成功体験を持たせて、ファイナンスや数学等に対する苦手意識を払拭するようにする。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

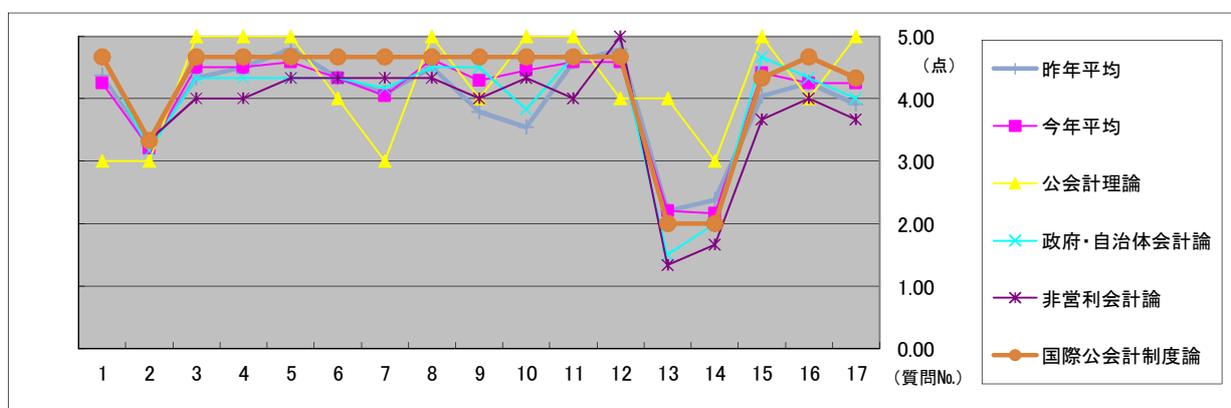
昨年度と同様、抽象的な議論をできる限り身近な事例で説明する等、学生が興味を持つような授業を行う。さらに、証券アナリストの基礎講座受講を勧めて、成功体験を持たせて、ファイナンスや数学等に対する苦手意識を払拭するようにする。

系： 行政

受講者数：13

回答者数：13

質問No.	昨年平均	今年平均	公会計理論	政府・自治体会計論	非営利会計論	国際公会計制度論
1	4.38	4.25	3.00	4.67	4.67	4.67
2	3.25	3.21	3.00	3.17	3.33	3.33
3	4.33	4.50	5.00	4.33	4.00	4.67
4	4.50	4.50	5.00	4.33	4.00	4.67
5	4.79	4.58	5.00	4.33	4.33	4.67
6	4.33	4.33	4.00	4.33	4.33	4.67
7	4.08	4.04	3.00	4.17	4.33	4.67
8	4.50	4.63	5.00	4.50	4.33	4.67
9	3.79	4.29	4.00	4.50	4.00	4.67
10	3.54	4.46	5.00	3.83	4.33	4.67
11	4.58	4.58	5.00	4.67	4.00	4.67
12	4.79	4.58	4.00	4.67	5.00	4.67
13	2.21	2.21	4.00	1.50	1.33	2.00
14	2.38	2.17	3.00	2.00	1.67	2.00
15	4.04	4.42	5.00	4.67	3.67	4.33
16	4.25	4.25	4.00	4.33	4.00	4.67
17	3.92	4.25	5.00	4.00	3.67	4.33
回答者数	10	13	1	6	3	3



#### 受講生の傾向

4クラスとも少人数での開講、アンケート結果とも昨年とほぼ同様の平均値及び回答傾向が見られた。僅差ではあるが、質問No.9(規模)、質問No.10(宿題・小テスト)、質問No.15(今後の学習への触発)については、昨年を上回っていた。逆に0.5点以上下回った項目はなかった。受講生の授業への予習復習、小テスト等を通じての参加度が深まったものと思われる。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

公会計理論では、予習復習に割く時間を増やしている。その他の授業についても前回の纏めの発表を毎回の授業の最初に行わせたり、適度な小テスト、演習等をさせるように工夫した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

受講生の満足度を維持するとともに、積極的に授業に参加させる工夫をする。担当の割り当て、発表のみならず、前回の受講内容の要旨を発表させること等を検討していく。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

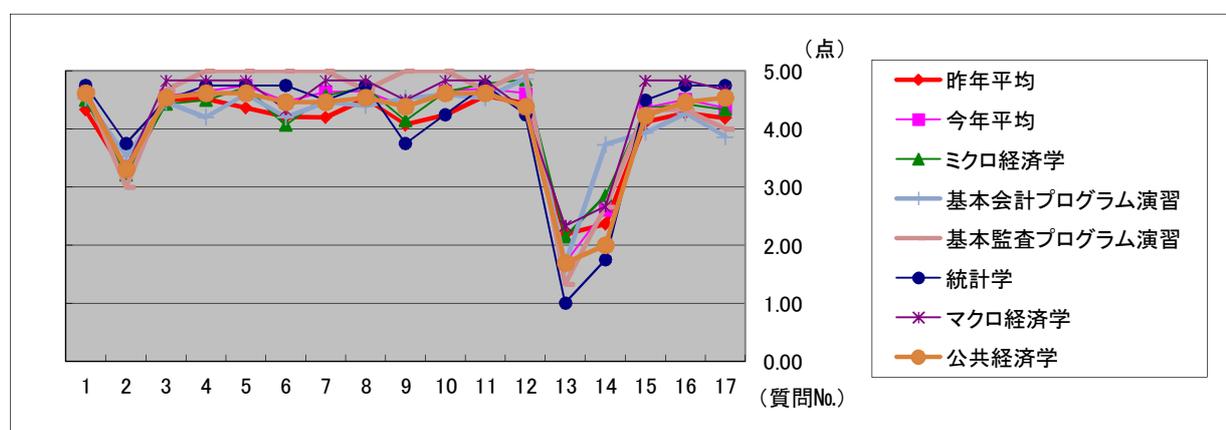
引き続き、受講生の満足度を維持するとともに、積極的に授業に参加させる工夫をする。担当の割り当てによる予習復習の義務付け、プレゼン・発表等の機会を充実させていくよう検討していく。

系： 経済・IT

受講者数：62

回答者数： 55

質問No.	昨年平均	今年平均	ミクロ経済学	基本会計プログラム演習	基本監査プログラム演習	統計学	マクロ経済学	公共経済学
1	4.33	4.62	4.50	4.53	4.67	4.75	4.67	4.62
2	3.21	3.36	3.21	3.53	3.00	3.75	3.33	3.31
3	4.51	4.57	4.43	4.47	4.67	4.50	4.83	4.54
4	4.52	4.65	4.50	4.20	5.00	4.75	4.83	4.62
5	4.37	4.75	4.71	4.60	5.00	4.75	4.83	4.62
6	4.21	4.47	4.07	4.20	5.00	4.75	4.33	4.46
7	4.20	4.64	4.57	4.47	5.00	4.50	4.83	4.46
8	4.52	4.65	4.71	4.40	4.67	4.75	4.83	4.54
9	4.07	4.39	4.14	4.53	5.00	3.75	4.50	4.38
10	4.24	4.66	4.64	4.60	5.00	4.25	4.83	4.62
11	4.57	4.70	4.79	4.53	4.67	4.75	4.83	4.62
12	4.44	4.61	4.85	4.87	5.00	4.25	4.33	4.38
13	2.19	1.69	2.14	1.67	1.33	1.00	2.33	1.69
14	2.36	2.61	2.86	3.73	2.67	1.75	2.67	2.00
15	4.12	4.36	4.36	3.93	4.33	4.50	4.83	4.23
16	4.28	4.51	4.43	4.27	4.33	4.75	4.83	4.46
17	4.19	4.36	4.33	3.87	4.00	4.75	4.67	4.54
回答者数	65	55	14	15	3	4	6	13



### 受講生の傾向

全般的に、各科目で受講生はまじめに受講しているといえよう。一方、科目によって差異があると思われるのが、受講に際して基礎学力あるいは基礎的な知識が充分とはいえない受講生が散見される。この点については、研究科の特性上、受講生の中で、経済やITに関する学習が会計・監査関連の学習よりも優先順位が相対的に低く扱われる可能性が考えられる。

### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

科目上の相違はあるものの、各科目において必要な基礎力が習得できるよう、トピックな話題を利用したり、進捗速度の調節をしたり、科目に必要な用語の確認をしたりなどの工夫を行っている。また、その効果は相応に上がっていると考えられる。

### 今後の対応

#### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

授業の内容については、基礎→中級→高度な内容、という順序で順調な講義を行うことができたと考えている。そして、毎回の宿題である練習問題、小テスト、学期末試験とさまざまな実力をチェックするシステムを実施してきている。これは、受講生の学力を高めるのに非常に効果があったと評価しているため、今後もこの方針で授業を行いたいと考えている。

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

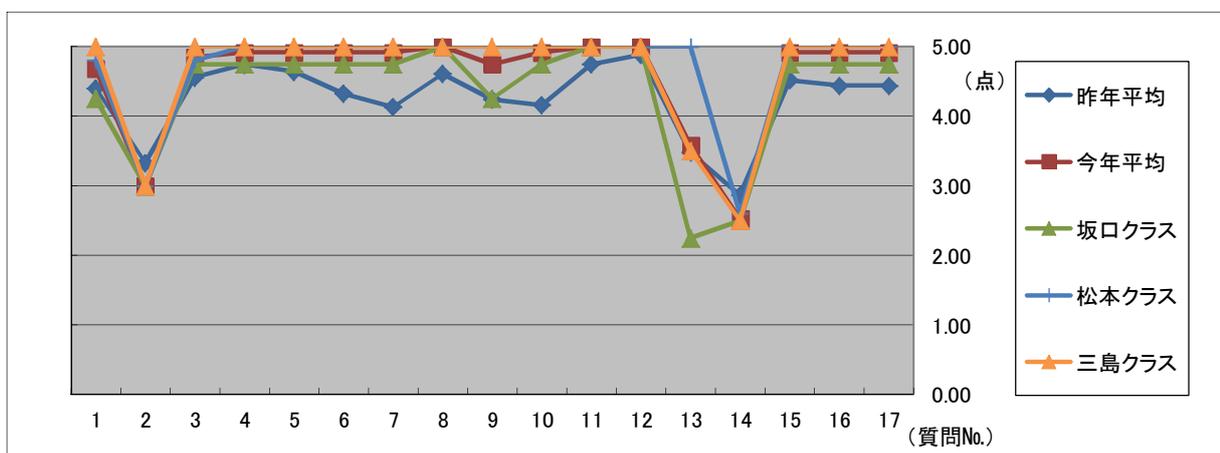
「今回の講義で工夫したこと・留意したこと」で、十分な効果があったものは、そのまま継続することとする。また、十分な効果が得られたとは、必ずしも言い切れない点については、より積極的に受講生が学習できるよう、議論を活性化させる、基礎的な部分の内容に重点を置く、進捗速度と講義内容のバランスをとるなどの工夫を講じたいと考える。

系:個別演習科目(ソリューション・イン・アカデミック)

受講者数:11

回答者数: 11

質問No.	昨年平均	今年平均	坂口クラス	松本クラス	三島クラス
1	4.40	4.68	4.25	4.80	5.00
2	3.33	3.00	3.00	3.00	3.00
3	4.56	4.85	4.75	4.80	5.00
4	4.74	4.92	4.75	5.00	5.00
5	4.64	4.92	4.75	5.00	5.00
6	4.32	4.92	4.75	5.00	5.00
7	4.14	4.92	4.75	5.00	5.00
8	4.61	5.00	5.00	5.00	5.00
9	4.24	4.75	4.25	5.00	5.00
10	4.16	4.92	4.75	5.00	5.00
11	4.75	5.00	5.00	5.00	5.00
12	4.88	5.00	5.00	5.00	5.00
13	3.48	3.58	2.25	5.00	3.50
14	2.87	2.53	2.50	2.60	2.50
15	4.52	4.92	4.75	5.00	5.00
16	4.44	4.92	4.75	5.00	5.00
17	4.44	4.92	4.75	5.00	5.00
回答者数	25	11	4	5	2



#### 受講生の傾向

受講生の授業参加度あるいは熱心度を測る出席率(質問No.12)において90~100%を達成しているため、非常に熱心な受講生の傾向が見受けられる。また去年実績との比較でも、ほぼ全ての項目で今年度実績が上回っていることから、学生のモラールは相対的に高かったと評価できる。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

2013年度版「出講の手引き」に従い、全ての演習科目において分析・プレゼンテーション・ディスカッションによる運営が図られている。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

今後、個別演習科目の共通の属性から、教育のための素材を異にしたとしても、その目的や趣旨を徹底するため共通シラバスとすることが考えられる。

演習科目としての性質上、出席率が80%を下回らないような措置が必要である。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

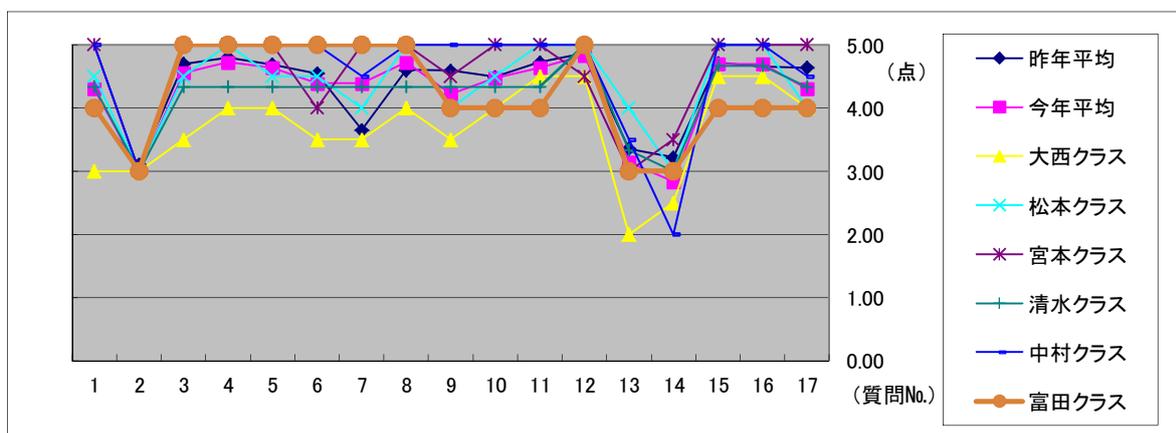
到達目標は、全てのクラスで同じであるため、昨年度に引き続き学生に当該目標と検討素材との関係を常に意識させる必要がある。

系:個別演習科目(プロフェッショナル・ソリューションA)

受講者数: 12

回答者数: 12

質問No.	昨年平均	今年平均	富田クラス	大西クラス	松本クラス	宮本クラス	清水クラス	中村クラス
1	3.97	4.31	4.00	3.00	4.50	5.00	4.33	5.00
2	3.10	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00
3	4.70	4.56	5.00	3.50	4.50	5.00	4.33	5.00
4	4.80	4.72	5.00	4.00	5.00	5.00	4.33	5.00
5	4.69	4.64	5.00	4.00	4.50	5.00	4.33	5.00
6	4.55	4.39	5.00	3.50	4.50	4.00	4.33	5.00
7	3.65	4.39	5.00	3.50	4.00	5.00	4.33	4.50
8	4.60	4.72	5.00	4.00	5.00	5.00	4.33	5.00
9	4.59	4.22	4.00	3.50	4.00	4.50	4.33	5.00
10	4.49	4.47	4.00	4.00	4.50	5.00	4.33	5.00
11	4.72	4.64	4.00	4.50	5.00	5.00	4.33	5.00
12	4.87	4.83	5.00	4.50	5.00	4.50	5.00	5.00
13	3.35	3.14	3.00	2.00	4.00	3.00	3.33	3.50
14	3.22	2.83	3.00	2.50	3.00	3.50	3.00	2.00
15	4.71	4.69	4.00	4.50	5.00	5.00	4.67	5.00
16	4.66	4.69	4.00	4.50	5.00	5.00	4.67	5.00
17	4.64	4.31	4.00	4.00	4.00	5.00	4.33	4.50
回答者数	23	12	1	2	2	2	3	2



### 受講生の傾向

質問No.12から判るように、出席率は低いクラスでも80%以上であり、ほぼ全てのクラスで非常に高く、受講生は熱心に履修している。

### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

2013年度版「出講の手引き」に従い、各担当者が、個別演習の趣旨に則り、受講生による分析・プレゼンテーション・ディスカッションの能力向上に努めている。

### 今後の対応

#### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

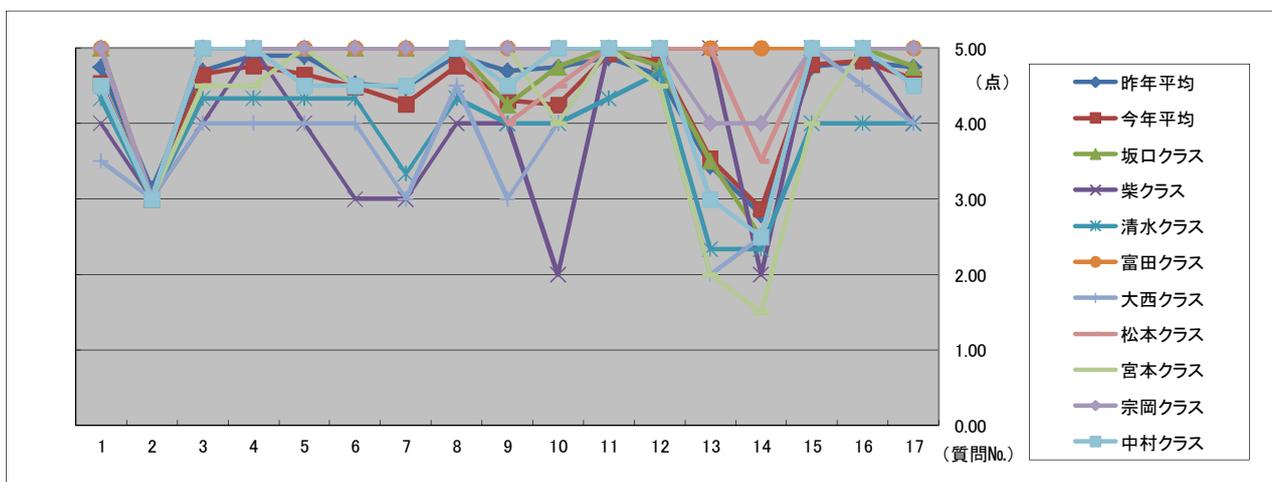
演習のために使用する教材や素材に違いはあるにしても、到達すべき目標は個別演習科目として共通しているため、シラバスの共通化が必要である。但し、当初の想定と異なり、個別演習を履修する受講生の数が1桁になってしまっているものもあり、演習趣旨の徹底が求められる。もし1桁のままとなれば、授業評価それ自体の信頼性にも影響する。

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

当初の想定と異なり、個別演習を履修する受講生の数が極めて少なくなっている。今年度導入したコース制のもとでも、もしこのままの状況が続くのであれば、演習自体の存在意義も損なわれ、授業評価それ自体の信頼性にも影響することから、演習制度の必要性を学生に認識させる措置を講じる必要がある。

系:個別演習科目(プロフェッショナル・ソリューションB)  
 受講者数:23 回答者数:19

質問No.	昨年平均	今年平均	坂口クラス	柴クラス	清水クラス	富田クラス	大西クラス	松本クラス	宮本クラス	宗岡クラス	中村クラス
1	4.75	4.54	5.00	4.00	4.33	5.00	3.50	5.00	4.50	5.00	4.50
2	3.13	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00
3	4.69	4.65	5.00	4.00	4.33	5.00	4.00	5.00	4.50	5.00	5.00
4	4.89	4.76	5.00	5.00	4.33	5.00	4.00	5.00	4.50	5.00	5.00
5	4.89	4.65	5.00	4.00	4.33	5.00	4.00	5.00	5.00	5.00	4.50
6	4.53	4.48	5.00	3.00	4.33	5.00	4.00	5.00	4.50	5.00	4.50
7	4.48	4.26	5.00	3.00	3.33	5.00	3.00	5.00	4.50	5.00	4.50
8	4.89	4.76	5.00	4.00	4.33	5.00	4.50	5.00	5.00	5.00	5.00
9	4.69	4.31	4.25	4.00	4.00	5.00	3.00	4.00	5.00	5.00	4.50
10	4.74	4.25	4.75	2.00	4.00	5.00	4.00	4.50	4.00	5.00	5.00
11	4.87	4.93	5.00	5.00	4.33	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
12	4.63	4.82	4.75	5.00	4.67	5.00	4.50	5.00	4.50	5.00	5.00
13	3.43	3.54	3.50	5.00	2.33	5.00	2.00	5.00	2.00	4.00	3.00
14	2.79	2.87	2.50	2.00	2.33	5.00	2.50	3.50	1.50	4.00	2.50
15	4.75	4.78	5.00	5.00	4.00	5.00	5.00	5.00	4.00	5.00	5.00
16	4.81	4.83	5.00	5.00	4.00	5.00	4.50	5.00	5.00	5.00	5.00
17	4.74	4.58	4.75	4.00	4.00	5.00	4.00	5.00	5.00	5.00	4.50
回答者数	21	19	4	1	3	1	2	2	2	2	2



**受講生の傾向**

質問No.12から判るように、出席率はほぼ全てのクラスで100%近くになっており、受講生は熱心に履修している。

**昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと**

2013年度版「出講の手引き」に従い、各担当者が、個別演習の趣旨に則り、受講生による分析・プレゼンテーション・ディスカッションの能力向上に努めている。

**今後の対応**

**○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」**

演習のために使用する教材や素材に違いはあるにしても、到達すべき目標は個別演習科目として共通しているため、シラバスの共通化が必要である。但し、当初の想定と異なり、個別演習を履修する受講生の数が1桁になってしまっているものもあり、演習趣旨の徹底が求められる。もし1桁のままとなれば、授業評価それ自体の信頼性にも影響する。

**○上記の内容を踏まえた「今後の対応」**

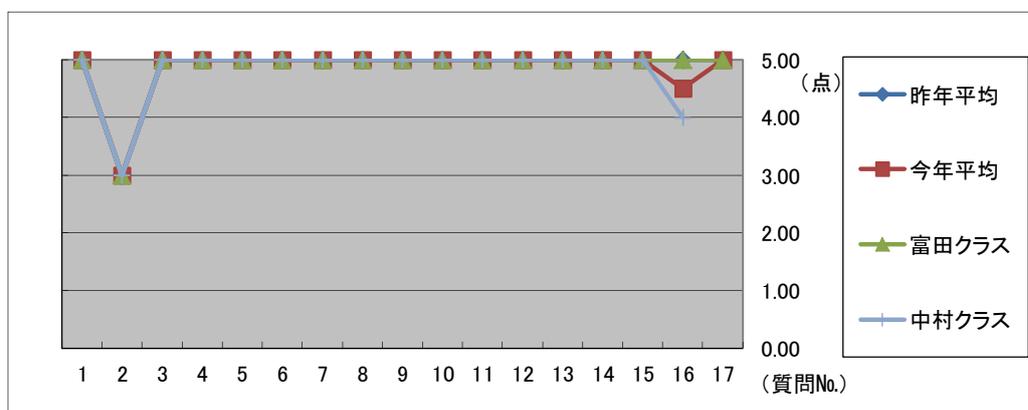
当初の想定と異なり、個別演習を履修する受講生の数が極度に少なくなっている。今年度導入したコース制のもとでも、もしこのままの状況となれば、演習自体の存在意義も損なわれ、授業評価それ自体の信頼性にも影響することから、演習制度の必要性を学生に認識させる措置を講じる必要がある。

系:個別演習科目(論文指導・修士論文)

受講者数:3

回答者数: 2

質問No.	昨年平均	今年平均	富田クラス	中村クラス
1	5.00	5.00	5.00	5.00
2	3.00	3.00	3.00	3.00
3	5.00	5.00	5.00	5.00
4	5.00	5.00	5.00	5.00
5	5.00	5.00	5.00	5.00
6	5.00	5.00	5.00	5.00
7	5.00	5.00	5.00	5.00
8	5.00	5.00	5.00	5.00
9	5.00	5.00	5.00	5.00
10	5.00	5.00	5.00	5.00
11	5.00	5.00	5.00	5.00
12	5.00	5.00	5.00	5.00
13	5.00	5.00	5.00	5.00
14	5.00	5.00	5.00	5.00
15	5.00	5.00	5.00	5.00
16	5.00	4.50	5.00	4.00
17	5.00	5.00	5.00	無回答s
回答者数	1	2	1	1



#### 受講生の傾向

修士論文の作成という科目の性質上、極めて高いモラルを持った学生から構成されている。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

科目の性質上、ここの学生が扱うテーマは異なるが、研究手法としての先行研究サーベイや資料・データの収集分析というアプローチは論文指導として普遍的なものであるため、学生への指導を徹底している。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

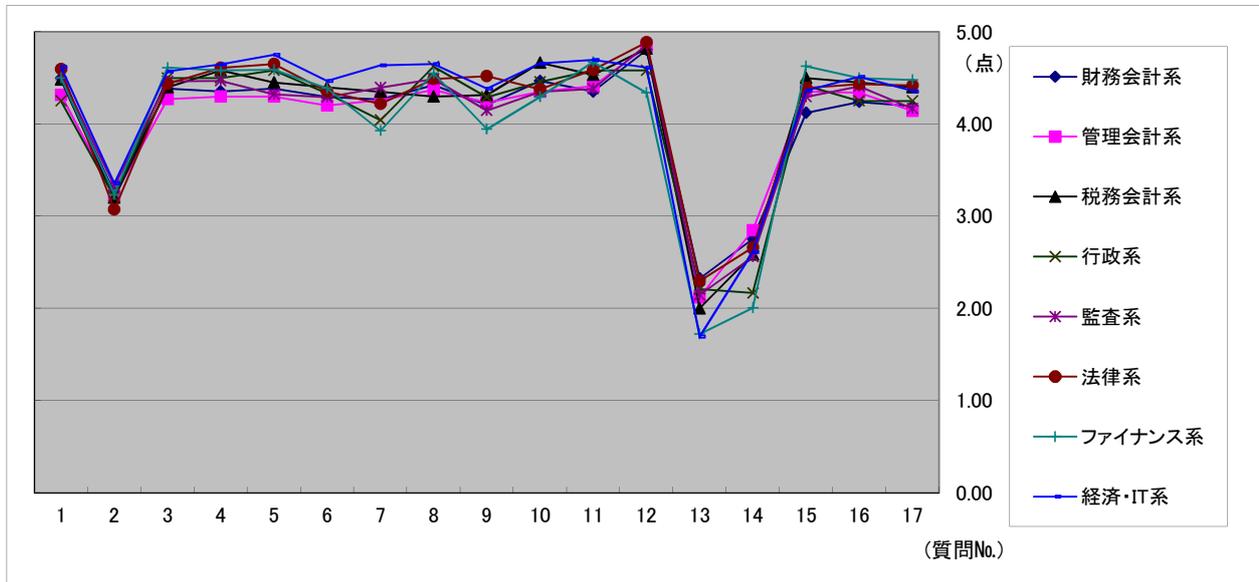
該当なし(昨年度の開講1クラスのみ)

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

1年間での修士論文作成を、今年度より1年半を掛けての論文作成指導へと変更したため、より効果的な論文作成の指導を行なうことで、途中での脱落を減らすことが重要である。

系別平均

質問No.	財務会計系	管理会計系	税務会計系	監査系	法律系	経営系	ファイナンス系	行政系	経済・IT系
1	4.50	4.32	4.48	4.53	4.60	-	4.50	4.25	4.62
2	3.26	3.22	3.20	3.33	3.07	-	3.23	3.21	3.36
3	4.38	4.27	4.40	4.47	4.44	-	4.61	4.50	4.57
4	4.36	4.30	4.58	4.47	4.61	-	4.58	4.50	4.65
5	4.39	4.30	4.45	4.32	4.65	-	4.59	4.58	4.75
6	4.29	4.20	4.40	4.29	4.36	-	4.39	4.33	4.47
7	4.27	4.26	4.35	4.40	4.22	-	3.93	4.04	4.64
8	4.42	4.37	4.30	4.49	4.49	-	4.55	4.63	4.65
9	4.21	4.23	4.32	4.15	4.52	-	3.94	4.29	4.39
10	4.47	4.35	4.67	4.35	4.38	-	4.29	4.46	4.66
11	4.35	4.41	4.53	4.38	4.59	-	4.67	4.58	4.70
12	4.80	4.84	4.82	4.86	4.89	-	4.34	4.58	4.61
13	2.32	2.12	2.00	2.15	2.30	-	1.72	2.21	1.69
14	2.75	2.85	2.58	2.56	2.66	-	2.01	2.17	2.61
15	4.12	4.35	4.50	4.30	4.39	-	4.63	4.42	4.36
16	4.24	4.34	4.45	4.41	4.43	-	4.50	4.25	4.51
17	4.20	4.14	4.40	4.17	4.42	-	4.48	4.25	4.36
回答者数	152	85	16	59	70	-	24	13	55



受講生の傾向

一般的な傾向としては、大きな変化はないように思われる。つまり、「受講は積極的であるが、予習・復習にあまり時間をかけない。とくに予習時間は復習時間より短い」という受講生の傾向である。科目によっては、出席はするが意欲的ではない受講生が少なからず存在しており、昨年度と同様に、受講生が二極化する科目やかなり低レベルから実施する科目などが散見される。

今後の対応

系平均(全体)の傾向を踏まえて全体的な今後の対応であるが、「受講生の傾向」で記したような受講生の傾向を念頭に置いた対応する策を講じる必要がある。個別具体的な対応については、科目や系によって特性があり、ここで論ずることはできないが、系別のFD活動だけでなく科目担当者間との意思疎通を通じて、情報を逐次共有しつつ対応を検討し、効果のあった対応策については、全体で共有し、系や科目特性を考慮した上で、当該対応策の全体的な実践を試みる。



### Ⅲ. 2013 年度授業評価アンケートフォーム



## 2013 年度 関西大学「会計専門職大学院学生による授業評価」アンケート

### 会計専門職大学院 FD 委員会

このアンケートは、授業の改善を目的として実施するものであり、担任者が授業をより一層充実するための資料として利用するものです。したがって、皆さんの成績評価にはまったく関係がありませんので、正直な声をお聞かせください。

- ・アンケートの回答は、マークシートに記入してください。
- ・授業科目、クラス及び担任者を記入してください。
- ・このアンケートは匿名です。あなたの氏名は書く必要はありません。

#### I. 授業の評価

#### II. 授業への取組み

##### I. 授業の評価

- |         |                                  |              |           |           |
|---------|----------------------------------|--------------|-----------|-----------|
| 1       | 授業内容は、講義要項、授業計画に示したものに沿った内容でしたか。 |              |           |           |
| 5. 強く思う | 4. そう思う                          | 3. どちらともいえない | 2. そう思わない | 1. 全く思わない |
- |          |                 |           |       |          |
|----------|-----------------|-----------|-------|----------|
| 2        | この授業の進捗はどうでしたか。 |           |       |          |
| 5. かなり早い | 4. 早い           | 3. ちょうどよい | 2. 遅い | 1. かなり遅い |
- |         |                          |              |           |           |
|---------|--------------------------|--------------|-----------|-----------|
| 3       | この授業は教員によってよく準備されていましたか。 |              |           |           |
| 5. 強く思う | 4. そう思う                  | 3. どちらともいえない | 2. そう思わない | 1. 全く思わない |
- |         |                                     |              |           |           |
|---------|-------------------------------------|--------------|-----------|-----------|
| 4       | 学生の理解を深めよう、能力を高めようとの熱意・努力が感じられましたか。 |              |           |           |
| 5. 強く思う | 4. そう思う                             | 3. どちらともいえない | 2. そう思わない | 1. 全く思わない |
- |         |                                  |              |           |           |
|---------|----------------------------------|--------------|-----------|-----------|
| 5       | この授業での教員の話し方や声の大きさ、説明の仕方は適切でしたか。 |              |           |           |
| 5. 強く思う | 4. そう思う                          | 3. どちらともいえない | 2. そう思わない | 1. 全く思わない |
- |         |                     |              |           |           |
|---------|---------------------|--------------|-----------|-----------|
| 6       | 教科書・配布資料の利用は適切でしたか。 |              |           |           |
| 5. 強く思う | 4. そう思う             | 3. どちらともいえない | 2. そう思わない | 1. 全く思わない |
- |         |                                   |              |           |           |
|---------|-----------------------------------|--------------|-----------|-----------|
| 7       | ホワイトボードや OHP、パソコン等の機材の使い方は適切でしたか。 |              |           |           |
| 5. 強く思う | 4. そう思う                           | 3. どちらともいえない | 2. そう思わない | 1. 全く思わない |
- |         |                         |              |           |           |
|---------|-------------------------|--------------|-----------|-----------|
| 8       | 教員は、学生からの質問に的確に対応しましたか。 |              |           |           |
| 5. 強く思う | 4. そう思う                 | 3. どちらともいえない | 2. そう思わない | 1. 全く思わない |
- |         |                                      |              |           |           |
|---------|--------------------------------------|--------------|-----------|-----------|
| 9       | 宿題および小テストの内容・回数は、講義内容を理解する上で効果的でしたか。 |              |           |           |
| 5. 強く思う | 4. そう思う                              | 3. どちらともいえない | 2. そう思わない | 1. 全く思わない |
- |         |                     |              |           |           |
|---------|---------------------|--------------|-----------|-----------|
| 10      | この授業のクラスの規模は適切でしたか。 |              |           |           |
| 5. 強く思う | 4. そう思う             | 3. どちらともいえない | 2. そう思わない | 1. 全く思わない |
- |         |                        |              |           |           |
|---------|------------------------|--------------|-----------|-----------|
| 11      | 全体としてこの授業を受講して満足しましたか。 |              |           |           |
| 5. 強く思う | 4. そう思う                | 3. どちらともいえない | 2. そう思わない | 1. 全く思わない |

裏面につづく

## II. 授業への取組み

12 | この授業への出席状況はどうでしたか。

5. 90%以上 4. 70%以上 3. 50%以上 2. 30%以上 1. 30%未満

13 | この授業についての予習を、毎回どれくらいしましたか。

5. 2時間以上 4. 1時間30分程度 3. 1時間程度 2. 30分程度 1. 0時間

14 | この授業についての復習を、毎回どれくらいしましたか。

5. 2時間以上 4. 1時間30分程度 3. 1時間程度 2. 30分程度 1. 0時間

15 | この授業に触発されてさらに深く学習したいと思いましたか。

5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない

16 | この授業を通じて、職業会計人に必要な知識が深まった、能力が高まったと感じましたか。

5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない

17 | あなたは全体としてこの授業を受講して理解できましたか。

5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない

—以上—

ご協力ありがとうございました。

## IV. 講演会



## 2013年度 関西大学会計研究科講演会開催一覧

### ■客員教授講演会（新入生指導行事）

[平成25年4月3日(水)開催]

◇中央大学大学院戦略経営研究科特任教授／IFRS財団評議員・副議長

藤沼亜起氏（客員教授）

演題「会計マインドに基づく経済再生～世界に通用する会計プロフェッションを目指して～」

### ■客員教授講演会

[平成25年10月30日(水)開催]

◇名古屋経済大学大学院教授／金融庁企業会計審議会委員・監査部会長

脇田良一氏（客員教授）

演題「公認会計士監査をめぐる潮流」

### ■客員教授講演会

◇阪急阪神ホールディングス株式会社 代表取締役社長 角 和夫氏（客員教授）

演題「今後の関西とグループ経営の展望」

講師都合により中止

### ■客員教授講演会

◇参議院議員／日本学術院会員 猪口邦子氏（客員教授）

演題「国際政治経済の新潮流と専門的職業人の役割」

講師都合により中止

### ■客員教授講演会

[平成26年1月15日(水)開催]

◇慶応義塾大学教授／元総務大臣 竹中平蔵氏（客員教授）

演題「グローバル経済と新しい日本経済」

### ■客員教授講演会（入学前教育指導）

[平成26年3月22日(土)開催]

◇あずさ監査法人代表社員、専務理事・大阪事務所長

吉田享司氏（客員教授）

演題「監査を取り巻く環境変化と求められる人材」

# 藤沼亜起 客員教授講演会

中央大学大学院戦略経営研究科特任教授、IFRS財団評議員・副議長

『会計マインドに基づく経済再生

～世界に通用する会計プロフェッションを目指して～』

会計専門職大学院では、平成25年度入学生を対象とした新入生行事の一環として、中央大学大学院戦略経営研究科特任教授、IFRS財団評議員・副議長の藤沼亜起客員教授をお招きし、講演会を開催します。公認会計士を目指す学部生の聴講も歓迎しますので、多数の方のご来聴をお待ちしています。

■日時：平成25年4月3日（水）

10:40～12:10

■場所：千里山キャンパス第2学舎  
2号館4階 C401教室

■演題：会計マインドに基づく経済再生  
～世界に通用する会計プロフェッション  
を目指して～

■対象：会計専門職大学院新入生及び  
在學生、公認会計士を目指す  
学部生

■事前申込は不要です。

＜会場案内図＞



講師 藤沼亜起 氏

関西大学会計専門職大学院  
客員教授

＜お問合せ先＞

会計専門職大学院

電話 06-6368-1121（代表）

E-Mail kaikai@ml.kandai.jp

# 脇田良一 客員教授講演会

名古屋経済大学大学院教授、金融庁企業会計審議会委員・監査部会長

～公認会計士監査をめぐる潮流～

会計専門職大学院では、名古屋経済大学大学院会計学研究科教授、金融庁企業会計審議会委員・監査部会長の脇田良一客員教授をお招きし、客員教授講演会を開催します。

学部生、大学院生、教職員、及び学外一般、多数の方のご来聴をお待ちしています。

- 日時：平成25年10月30日（水）  
14：40～16：10（4時限目）
- 場所：千里山キャンパス 第2学舎  
2号館 5階 C507教室
- 演題：公認会計士監査をめぐる潮流
- **聴講自由・事前申込は不要**です。



講師 脇田良一 氏

関西大学会計専門職大学院  
客員教授

<お問合せ先>

関西大学会計専門職大学院

電話 06-6368-1121（代表）

Mail: kaikei@ml.kandai.jp

# 竹中平蔵 客員教授講演会

慶応義塾大学教授、元総務大臣

## ～グローバル経済と新しい日本経済～

会計専門職大学院では、慶応義塾大学教授、元総務大臣の竹中平蔵客員教授をお招きし、客員教授講演会を開催します。学部生、大学院生、教職員、及び学外一般、多数の方のご来聴をお待ちしています。

- 日時：平成26年1月15日（水）  
13：00～14：30（3時限目）
- 場所：千里山キャンパス  
第2学舎BIGホール100
- 演題：グローバル経済と新しい日本経済
- **聴講自由・事前申込は不要**です。

<会場案内図>

12時30分開場予定



講師 竹中平蔵 氏  
関西大学客員教授

<お問合せ先>

関西大学会計専門職大学院  
電話 06-6368-1121（代表）  
Mail : kaikei@ml.kandai.jp

# 吉田享司 客員教授講演会

あずさ監査法人代表社員、専務理事・大阪事務所長（公認会計士・米国公認会計士）

～監査を取り巻く環境変化と求められる人材～

会計専門職大学院では、平成26年度入学予定者を対象とした入学前指導の一環として、あずさ監査法人代表社員、専務理事・大阪事務所長の吉田享司客員教授をお招きし、講演会を開催します。公認会計士を目指す学部生の聴講も歓迎しますので、多数の方のご来聴をお待ちしています。

- 日時：平成26年3月22日（土）  
11：30～13：00
- 場所：千里山キャンパス第2学舎  
2号館5階 C506教室
- 演題：監査を取り巻く環境変化と  
求められる人材
- 対象：会計研究科入学予定者・在学生  
公認会計士を目指す学部生
- **事前申込は不要**です。



講師 吉田享司 氏  
関西大学会計専門職大学院  
客員教授

<会場案内図>



第2学舎2号館  
5階 C506教室

<お問合せ先>  
会計専門職大学院  
電話 06-6368-1121（代表）  
E-Mail kaikai@ml.kandai.jp





関西大学大学院会計研究科（会計専門職大学院）

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

電話 (06)6368-1121 (代表)

Fax (06)6368-0610